

令和2年度使用義務教育諸学校教科用図書採択の件

令和2年度使用西宮市立義務教育諸学校教科用図書採択について、別添により審議の上、定める。

令和元年7月19日提出

西宮市教育委員会  
教育長 重松 司郎

○ 採択項目

- (1) 令和2年度使用西宮市立小学校、義務教育学校前期課程教科用図書
- (2) 令和2年度使用西宮市立中学校、義務教育学校後期課程教科用図書
- (3) 令和2年度使用特別支援学級用一般図書

令和元年(2019年)7月19日

西宮市教育委員会 様

令和2年度使用義務教育諸学校教科用図書採択について

(報 告)

義務教育諸学校教科用図書選定委員会

## はじめに

当義務教育諸学校教科用図書選定委員会（以下「選定委員会」という）は、西宮市立小学校、中学校が使用する教科用図書について、西宮市教育委員会が採択するための調整及び審議を行う、西宮市教育委員会の附属機関である。

本年5月22日に委員委嘱を受けた9名の委員から構成される選定委員会は、以来、5月28日に教科別調査員会、学校教育法附則第9条第1項の規定による特別支援学級用一般図書（以下「一般図書」という）調査員会を設置し、6月から7月にかけて教科用図書の調査研究を進めた。

7月3日の第2回選定委員会、7月4日の第3回選定委員会において、各調査員会より調査研究結果の報告を受け、選定委員会による審議を行い、報告をまとめた。

## 報告書を読むにあたって

### ◆報告書の構成

はじめに	1 - 2		
(1) 小学校、義務教育学校前期課程教科用図書の調査報告について	3 - 21		
1. 国語 (3-4)	2. 社会 (5-6)	3. 算数 (7-8)	4. 理科 (9)
5. 生活 (10-11)	6. 音楽 (12)	7. 図画工作 (13)	8. 家庭 (14)
9. 体育 (15)	10. 外国語 (16-17)	11. 特別の教科 道徳 (18-21)	
(2) 令和2年度使用中学校、義務教育学校後期課程教科用図書一覧	22		
(3) 特別支援学級用一般図書の調査報告	24 - 31		
(4) 義務教育諸学校教科用図書選定委員会委員名簿	32		

### ◆小学校、義務教育学校前期課程教科用図書調査研究の観点について

調査研究を行うにあたり、11の観点（特別の教科 道徳は12の観点）を設け、観点ごとに、西宮の子供の学習活動の様子に照らして分析をした。観定の趣旨は次のとおりである。

#### I 共通に設定する観点

- ①教科目標から見た編集の適切さ（学習指導要領）
- ②教材の適切さ（新しさ、分量など）
- ③教材配列の適切さ（重点内容、時期など）
- ④学習への動機付けについての工夫（トピック、コラムなど）
- ⑤表記・表現のわかりやすさ（字体、文字の大きさ、文章量など）
- ⑥写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ（大きさ、カラーユニバーサルデザインなど）
- ⑦判・ページ数

#### II (ア) 特別の教科 道徳以外に共通に設定する観点

- ⑧知識・技能の習得についての工夫（学習方法の提示、練習問題など）
- ⑨発展・応用的な内容についての工夫（生活化、学問や芸術との関連付けなど）
- ⑩言語活動についての工夫（活動例の紹介など）
- ⑪問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫

(1) 小学校、義務教育学校前期課程教科用図書の調査報告

1. 国語(国語)

発行者・教科書名	東京書籍 2	学校図書 11	教育出版 17	光村図書 38
観点	新しい国語	みんなと学ぶ 小学校 国語	ひろがる言葉 小学国語	こくご かざぐるま/ともだち/たんぼぼ/赤とんぼ 国語 わかば/あおぞら/かがやき/はばたき/銀河/創造
①教科目標から見た編集の適切さ(学習指導要領)	すべての単元で身につけさせたい力が「言葉の力」として設定されており、また単元の学習過程や単元末においても「言葉の力」に立ち返ることで、自身の学習を価値づけることが可能である。	教材どうしを関連させることで系統性を持たせ、学習を繰り返しながら、基礎・基本の積み上げを図っている。また、単元ごとに身につけさせたい力が「めあて」として明示されており、見通しをもって学習に向かうことができる。	単元どうしのつながりに必然性があり、意欲的に学べるよう編集されている。	単元の最後のページに「とらえよう」「ふかめよう」「まとめよう」「ひろげよう」という学習の流れが明示されており、学習の流れや、次の課題に見通しが持てる構成になっている。
②教材の適切さ(新しさ、分量など)	自然や生き物、児童が興味を持つであろうスポーツも取り上げると共に、他国の文化や生活に対する理解も深められる教材が設定されている。巻頭にQRコードがあり、各単元の内容に関連する解説につながるようになっている。	生活に身近な場面を扱っていたり、児童が関心をもてるような教材が配置されたりしており、学びを自身の生活に生かしていける内容となっている。各単元ごとにQRコードがあり、作者の情報や題材に関連するサイトが紹介されている。	現代の課題(6年上p.50「エネルギー」、p.66「地域防災」)や様々な形式の教材(4年上p.74「落語」)を扱っている。巻頭にQRコードがあり、各単元の内容に関連する解説につながるようになっている。	「情報の扱い方に関する事項」をわかりやすく教材化した「書く」領域の単元が設定されるなど、単元どうしのつながりを意識した流れとなっている。各単元ごとにQRコードがあり、作者の情報や題材に関連するサイトが紹介されている。
③単元(教材配列)の適切さ(重点内容、時期など)	年間の学習を見通せるようにし、学んだことを以後の学習で活用できるように配列している。	教材に関連性があり、「読むこと」「書くこと」を往還し、くり返しながら学びを積み上げられる配列となっている。	他教科とのつながりに配慮した時期の内容や配列の単元構成により、多面的に事柄を学ぶことが期待できる。	核となる大きな単元は「読むこと」をねらいとしたものが多い。また、「読むこと」と「書くこと」が連動した教材配列となっており、無理のない思考の流れが生まれることが期待できる。
④学習への動機付けについての工夫(トピック、コラムなど)	「学習のとびら」の「つかむ」があることで、これまでの学習を振り返り、単元で身につける言葉の力を見通して、学習に取り組むことができるようになっている。	挿絵の色彩が豊かで、児童の興味を惹くように工夫がなされている。また、物語の読み方として、叙述と対話して読む方法が身につけられるように、本文下の欄に「つぶやき」を提示し、立ち止まって読む面白さを感じさせる工夫がある。	親しみやすいキャラクターや写真を多く扱い、学習者の思考の深まりを支援する工夫がなされている。また、学習のまとめとして、グループやクラス全体に発表する課題が多く設定されている。	「読むこと」の教材では「単元扉」が設けられ、「どんなことを学ぶのか」「どんな教材なのか」を確認することができる。また、内容を予感させるリード文を載せることで、期待感をもって学習に誘うことができる。
⑤表記・表現のわかりやすさ(字体、文字の大きさ、文章量など)	全ての物語、説明文教材に、5行ごとに行数字、1行ごとのドットがつけられている。独自に開発した教科書用書体を使用している。	書き文字に近いフォントを使用しており、囲みや罫線による文の区別や色づかいなどレイアウトが工夫されていて判読しやすい。	見やすさ、読みやすさに配慮したユニバーサルデザインフォントを使用している。吹き出しなどはゴシック体で表記されている。本文は行間が空いていて読みやすい。	書き文字に近いフォントが採用され、文字が大きく読みやすいだけでなく、児童が正しい字形を習得できるように配慮している。
⑥写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ(大きさ、カラーユニバーサルデザインなど)	シンプルなデザイン、色づかいをいながら、ユニバーサルデザインに配慮している。	写真のカラーが鮮やかではっきりしており、細部までこまかく見えるようになっている。説明文では情報を比較したり整理したりするために、絵や図、写真などが適切に配置されており、論理的に読む力を培うことが期待できる。	障害のある人が描いた絵を掲載している。カラーユニバーサルデザインに配慮されている。単元の導入には大きな写真が使われ、学習の動機づけが期待できる。小単元には市松模様がのラインが入っており、視覚的にわかりやすい。	写真やイラストと文章の境が明確になるような色の使い方をしている。
⑦判・ページ数	B5判 1年(上下)320、2年(上下)348、3年(上下)356、4年(上下)356、5年(合本)306、6年(合本)306	B5判 1年(上下)268、2年(上下)280、3年(上下)310、4年(上下)316、5年(上下)340、6年(上下)330	B5判 1年(上下)314、2年(上下)332、3年(上下)324、4年(上下)346、5年(上下)336、6年(上下)340	B5判 1年270(上下)、2年322(上下)、3年322(上下)、4年326(上下)、5年297(合本)、6年(合本)311
⑧知識・技能の習得についての工夫(学習方法の提示、練習問題など)	単元の始めと終わりに「言葉の力」が記され、習得させたいことがはっきりと確認できる。また「つかむ」「ふりかえる」場面も設定されており、習得させるべきことをもたずに学習できるよう工夫されている。	言葉に着目し、言葉で考える機会を設けることで、国語の基礎基本を積み上げていけるようにしている。教材同士に関連性・系統性をもたせ、学習を繰り返しながら理解を深められるようにしている。	「話す・聞く」「書く」単元では、学習の進め方が導入で紹介されており、核となる活動が色で示されている。「読む」単元では教材の後に学び方が提示され、予想される児童の反応も書かれているため、思考の流れがイメージしやすい。	単元の最後のページの「たいせつ」のページでは、単元で身につけた力をふりかえり、その力を使って「生かす」活動の学習が紹介されている。
⑨発展・応用的な内容についての工夫(生活化、学問や芸術との関連付けなど)	説明文や話す・聞く等の単元では「生かそう」という場面が設定され、身の回りのことや生活の中で、学んだことを生かすことができるようになっている。	題材が自然や環境、日本の文化、インターネットなど、日常生活と関連したものが多く掲載されている。対話を通して多様な考え方を受け入れる力の育成が期待できる。	学んだ知識や技能が生活の様々な場面で生かされるように工夫されている(2年下p60しかけ絵本を作ろう)。また、他教科とのつながりを図った単元も設定されている(3年スーパーマーケットの見学)。	他教科や生活場面と関連した題材を扱うことで、身につけた力を他の場面でも活用することができる。QRコードを読み込むことで、学習の内容をさらに深めたり、意欲を高めたりすることにつながる。
⑩言語活動についての工夫(活動例の紹介など)	ノートやメモ、カードなど、各単元で身につけさせたい言語活動例が明確に例示されている。	設定されている言語活動が児童にとって身近で生活の中で生かせるものが多く魅力的である。	言語活動の例が完成品だけでなく、途中経過も細かく示されているので、見通しをもって活動に臨むことができる(4年上p60リーフレット、6年p73パンフレット)。	発達段階に応じた言語活動が系統的に配置されており、付録として、身につけた力を活用することができる活動の例が豊富に紹介されている。
⑪問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫	単元ごとに「言葉の力」で課題が明確に記載され、「ふりかえり」で自分の学びが確認できる構成になっており、協働的学びや学び合いの場面が多く設定されている。	一つの単元で身につけた知識・技能を生かしながら、主体的に情報を比較したり、分類したりと論理的な思考を働かせながら探究的に学ぶことができる。	「学習のてびき」では、適切な言語活動を設定することで、その過程で課題を見つけ解決していくよう誘っている。	自分で考えて予測したり、類推したりしながら考えを他者と共有していけるよう、課題の設定が工夫されている。

1. 国語(書写)

発行者・教科書名	東京書籍 2	学校図書 11	教育出版 17	光村図書 38	日本文教出版 116
観点	新しい書写	みんなと学ぶ 小学校書写	小学 書写	書写	小学書写
①教科目標から見た編集の適切さ(学習指導要領)	「書写のかぎ」によって書写で習得すべき知識・技能を整理・分類し提示されており、何をどのように学ぶか、見通しをもって取り組むことができる。	学習の流れが「①たしかめて書こう」「②考えて書こう」「③生かして書こう」の3段階で設定されており、学力の定着が期待できる。	「めあて」から「振り返り」までの流れがわかりやすく提示されており、その過程を通して、子どもたちに「学び方」が身につく構成となっている。	教材名が、書写の学習要素となっているとともに、その学習要素を振り返る部分もあるため、「何を学ぶか」「何ができるようになったか」を認識できるようになっている。	学習過程を明確にして「考える」「確かめる」「生かす」という段階を踏んで学習できるように構成されている。
②教材の適切さ(新しさ、分量など)	「生活に広げよう」で、単元で身につけた知識・技能を他教科に生かしている。QRコードがあり、姿勢や筆の持ち方、毛筆の動画などを見ることができる。	はがきや手紙、原稿用紙の書き方を示すなど、習得した技能を様々な文字や生活の場面で活用し、書く態度を効果的に養えるようになっている。QRコードがあり、書いた字をスマートフォンの画面に重ねて字を確かめることができる。	「レッツトライ」で他教科へのつながりや発展を意識している(6年p.15「国語ノート」、6年p.17「社会校外学習のリーフレット」など)。QRコードがあり、姿勢や筆の持ち方、毛筆の動画などを見ることができる。	QRコードなどの動画資料(姿勢や筆の持ち方、毛筆の動画)が充実しており、動きなどを可視化することで、学習をサポートすることができる。	ひらがな、カタカナ、漢字を偏りなく学習できるように、硬筆、毛筆共に基礎・基本を徹底している。
③単元(教材配列)の適切さ(重点内容、時期など)	1年間を通して、文字を書くための知識・技能が習得できるように、単元が系統的に配列されている。	1年間で学習したことを振り返り、無理なく次の学年の課題に入ることができるようになっている。習得した知識・技能を「原稿用紙の使い方」や「ノートの使い方」につなげ活用できる配列となっている。	他教科の学習時期と合わせた内容や季節の行事に配慮した教材配列になっている。	「げんこう用紙に書くとき」や「ことばを楽しもう」は、国語の教科書と連動させており、学びの方向を一致させることで、学びの質を高めることが期待できる。	様々な学習場面で書写力を活用することを想定した教材が配列されている。
④学習への動機付けについての工夫(トピック、コラムなど)	「文字のいずみ」で、各学年の発達段階に合わせた話題(書くための用具について、書き初めについて)を載せて、興味・関心をもたせる工夫がされている。	「どうしたら上手に書けるのか」疑問をつぶやく4人のキャラクターと学習のポイントを教えてくれる「えんぴつ先生」との会話形式が書き方のポイントを教えてくれる解説となっており、楽しく学習に向かうことができるよう工夫されている。	「学習の進め方」が明示されている。その中で、子どもの活動例等を示していることから、課題解決のための具体がわかり、意欲的・主体的に学習に取り組むことができる。	必然性をもって取り組めるよう、日常生活とのつながりを実感できるような教材の工夫がされており、さらに、漢字の成り立ちを楽しいイラストで解説する「漢字図鑑」を位置づけることで、文字への関心が高まることが期待できる。	各教材に「めあて」が明示され、それに対する「自己評価欄」が設けられているため、主体的な学びの中から、達成感や成長を実感することができる。
⑤表記・表現のわかりやすさ(字体、文字の大きさ、文章量など)	書き込み欄が下に配置され、利き腕を問わず教材文字が見やすいようになっている。国語・書写の学習に適した教科書体を使用している。	実際にえんぴつで書いた字形に近い書体を使用している。手本が縮小ではなく実寸大の見開きページで綴られていてわかりやすい。	見やすさ、読みやすさに配慮したユニバーサルデザインフォントを使用している。大きくて太い文字が例示されており、文字の構成や筆圧の加減が認知されやすい。	大切なことが一目でわかり、すっきりとしたレイアウトで読みやすさと見やすさを工夫している。	ひらがなの画数だけでなく、ひらがなの成り立ちを意識した「おれ」「曲がり」などを表記している。
⑥写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ(大きさ、カラーユニバーサルデザインなど)	イラストやキャラクターに使う色の数や分量が抑制されており、カラーバリエーションを含むユニバーサルデザインに配慮されている。水書用紙が付いている。(1,2年)	書き込み欄が普段使用するノートと同じサイズを想定して作られており、技能の確実な習得が意図されている。利き腕を問わず、教材文字が見やすくわかりやすい。	カラーユニバーサルデザインに配慮している。学習がイメージできる写真が効果的に使用されている。水書用紙が付いている。(1年)	キャラクターの動きや擬音語、擬態語を活用して、直感的に書き方を理解することができる。水書用紙が付いている。(1年)	補助線の形状を変えて、書き方や文字の特徴を認知しやすいように配慮されている。水書用紙が付いている。(1,2年)
⑦判・ページ数	AB判 1年52、2年48、3年58、4年54、5年54、6年54	B5判 1年52、2年48、3年60、4年68、5年62、6年60	B5判 1年52、2年42、3年62、4年62、5年54、6年54	B5判 1年48、2年42、3年60、4年54、5年56、6年54	B5判 1年44、2年44、3年58、4年58、5年54、6年54
⑧知識・技能の習得についての工夫(学習方法の提示、練習問題など)	文字を正しく整えて書くために必要な知識・技能が「書写のかぎ」で示され、「何を学ぶのか」を意識できる。また、一筆一画ごとに分解して色分けしていることで、ひと筆で書くところが理解しやすい。	書き込み欄が豊富に設けられており、教材文字と自分の文字とを即座に確かめながら書けるようになっている。また、「たしかめて書く」「考えて書く」「生かして書く」の3段階で設定されており、知識・技能の定着が図られている。	「考えよう」「ここが大切」「生かそう」で学習方法がわかりやすく提示されている。また、「生かそう」では、めあてを応用した別の課題が示されている。	各単元を見開き1ページ構成とし、シンプルでわかりやすい紙面になっている。スモールステップを積み重ねることで、基礎基本を身につけることができる。	各教材に「めあて」と「できたかな」が設定されており、児童が自ら、学習の成果を確かめられるようになっている。また、姿勢・持ち方のページを設け、書写の授業でのポイントを明示している。
⑨発展・応用的な内容についての工夫(生活化、学問や芸術との関連付けなど)	「生活にひろげよう」では、基本単元で身につけた知識・技能を生活に生かすよう単元が設定されている。	「書写の資料館」では、はがき、手紙、原稿用紙、メモの取り方、ローマ字など、生活の中で活用できる題材が多く、実用性が高い。	他教科での言語活動例が「レッツ・トライ」のページで提示されている。	教材として提示する語句や文章が、児童の日常生活や他教科の学習内容に関連して幅広く取り上げられている。	封筒の書き方(4年p42)や連絡帳の書き方(2年p32)など、生活の中で予想される文字を書く活動を学習課題に取り入れ、生きた力へと発展されるように工夫されている。
⑩言語活動についての工夫(活動例の紹介など)	単元の学習の最後にある「ふり返って話そう」では、「書写のかぎ」によって習得した力を自分自身で振り返るだけでなく、他者との対話を通して高めるねらいがある。	「書き方のカギシール」があり、書く上で重要なポイントにシールを貼って自ら課題を見つけることができる。	相手にわかりやすく伝えるための書き表し方についての活動が紹介されている(2年p32しようたいじょう、4年p46手紙)。	言語活動を通して、日常生活に生きて働く書写の知識、技能を習得できるようになっている。	「国語の広場」では、対話を通して言いたい事や伝えたいことを理解してから書く活動に移る例が紹介されている。
⑪問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫	学年のまとめの単元「学びを生かそう」は、1年間を振り返り、自ら課題設定や題材選びを行い、学んできた「書写のかぎ」をどう使うかといった解決の過程も考えて、主体的に取り組めるようになっている。	「たしかめて書こう」で示された文字は、キャラクターのせりふの中に、書くためのヒントや着眼点が含まれており、児童が主体的に課題を発見し、解決に向けて取り組めるようになっている。	決まった学習課題だけではなく、選択ができた、自分で書きたい文字を選べたりするなど、主体的に学習に向かうことが期待できる課題が提示されている。	見通しをもって主体的に学べるように「考える」「確かめる」「生かす」という流れを全教材に示している(「学習の進め方」)。課題解決型の学習を行う上で、対話を通して学習が深められる。	文字と比較する活動が多く設定されており、文字を観察することで字の特徴に目をつけ、発見したことを元にして、正しく整った字を書き、振り返るという展開を組むことができる。

2. 社会(社会)

発行者・教科書名	東京書籍 2	教育出版 17	日本文教出版 116
観点	新しい社会	小学社会	小学社会
①教科目標から見た編集の適切さ(学習指導要領)	単元の構成が「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」として示されており、「習得・活用・探究」の単元作りに適している。また、「学びのてびき」コーナーが設けられており、学び方、資料の読み取り方等のサポートもなされており、子どもにとって学習の見通しが立てやすくなっている。	単元の構成を「つかむ」「調べる」「まとめる」「つなげる」と示しており、児童がどのように学習するかわかりやすくまとめられている。「学び方」のコーナーがあり、学ぶべきこと、資料の読み取り方や調べたことの表し方も記載されている。	単元の構成を「調べる」「話し合う」「まとめる」「つたえる」と示しており、児童、教師共にどのように学習するかわかりやすくまとめられている。また「学び方」「調べ方」「表現の仕方」のコーナーがあり何を学ぶかわかりやすくまとめられている。どの単元も「学習問題」や「学習計画」が記されており、学びをすすめるやすい。
②教材の適切さ(新しさ、分量など)	ごみに関する今日的な課題が提示(4年p67)されており子どもへの意識付けとなっている。防災・安全・道徳教育・領土・国土国旗・主権者教育のとりくみ、伝統や文化に関する教育への取組、国際理解グローバル教育の取組持続可能な社会、環境教育などあらゆる今日的課題に対応できるよう配列している。人権に関わる社会の働きや人々の取り組みを取り上げ、将来にわたって基本的人権を尊重する態度を身につける記載がされている。	持続可能な社会、人間が尊重される平和な社会、公正で公平な社会、多様性を尊重する社会、将来世代に配慮する社会、生態系に配慮する社会など目指す社会像に向けて行動していく上での基礎を培うようにしている。独自の文化の継承や先住民族としての権利を守ることに取り組んできたことや、そうした取り組みを通して我が国の法律などが整えられてきたことについて記載されている。	ごみの処理について新しい考え方の4Rの記述があり、子どもの興味関心を引くのに効果的である。また、人権・福祉・平和・国際理解・防災安全・伝統的文化の尊重・環境問題・情報化の進展・健康・消費者・持続可能な開発など現代的な問題に対応している。人権尊重を基本理念として、共生社会を目指す姿勢を大切に、社会の変化に応じた諸問題に取り組むことが出来るよう教材を充実させている。6年の政治の学習では、子どもにとって身近な学童保育を取り上げ、待機児童問題にも触れ、政治の役割、税金の役割について関心を持たせている。
③単元(教材配列)の適切さ(重点内容、時期など)	新指導要領に基づき、単元が構成されている。重点内容、時期ともに適切である。単元のめあて、小単元の学習問題、本時のめあてを構造的に紙面に明示し、「つかむ」「しらべる」「まとめる」「いかす」を併記している。政治・国際編と歴史編に教科書がわけられており、今なにを学習するのが児童にとって分かりやすい。	新指導要領に基づき、単元が構成されている。重点内容、時期ともに適切である。「つかむ」「しらべる」「まとめる」「つなげる」と追究の帰結は次の学習でつなげるだけでなく地域や社会にみられる課題の解決に活かしていくことを示唆している。	新指導要領に基づき、単元が構成されている。重点内容、時期ともに適切である。「調べる」「まとめる」「つたえる」と、見通しを持った学習とふりかえり活動を充実させており、カリキュラムマネジメントへの柔軟な対応が可能である。
④学習への動機付けについての工夫(トピック、コラムなど)	単元の初めに課題を意識する写真が配置されている。なじみのあるキャラクターが「考え方をナビゲートしている。位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係、比較分類総合関連付けなど。また、学習問題を作り、学習の進め方を見開きで例示。「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」の学習段階をたどりながら「主体的対話的で深い学び」を実現する学習の進め方を具体的に示している。調べ学習等で活用できるデジタルコンテンツにリンクするQRコードが記載されている。	毎時間「問い」を提示し、児童に学習内容を自発的に追及させようと工夫されている。問題解決的な学習の進め方を例示して、見通しをもって主体的に学べるようにしている。単元を通して追究していく問いを「みんなで作った学習問題」として明示している。学習問題の解決に向けた各単位時間の中心になる問いは、「この時間の問い」としている。児童から引き出したい発言は吹き出しで例示している。調べ学習等で活用できるデジタルコンテンツにリンクするQRコードが記載されている。	見開きごとに印象的な挿絵や写真が配置されており、教科書を開いた時の動機づけとして効果的である。素朴な問いとの出会いが見える導入ページの工夫をしている。生活経験から想起しやすくするための資料が配置されており、追究意欲や関心が高められるようにしている。調べ学習等で活用できるデジタルコンテンツにリンクするホームページアドレスが記載されている。
⑤表記・表現のわかりやすさ(字体、文字の大きさ、文章量など)	文字の大きさは適切。各ページの資料の文字はやや小さめで分量は200字程度。本文と資料をはっきり区別できるようにレイアウトしている。目立つ箇所は文章を枠囲みしたり、文節で改行している。小学生が読むことを考慮し読みやすい大きさの字で、ユニバーサルデザインフォントを使用。本文と資料をはっきり区別できるようにレイアウトしている。目立つ箇所は文章を枠囲みしたり、文節で改行している。	文字数は本文が1ページ250～400字程度、資料の文字はやや小さめである。色覚等の特性を踏まえた判読しやすい配置やレイアウト、表現方法、ユニバーサルデザインフォントを使用。読むのが難しいと思われる時にはルビがふってあって、全員の子どもたちが音読できる配慮がある。	文字は大きめで、一文も短く読みやすい。適度に余白もある。本文は100～200字程度。文字が少ないため、すっきりと見やすくなっている。本文の記述が資料を活用する構成になっており、本文とページ内の資料が連動しており分かりやすい。キーワードにはゴシック体を使ったり、グラフでは色分けだけでなく、斜線やドットも使用してわかりやすい。
⑥写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ(大きさ、カラーユニバーサルデザインなど)	ユニバーサルデザインフォントを採用。写真や図表などの資料は見開き単位で番号をつけて指導しやすい。図表などは色調の違いだけでなく、模様や形などでも判別できるように配慮し、カラーバリエーションに取り組んでいる。	色覚のユニバーサルデザインを採用。写真や挿絵も大きいものが多く、見やすい。各ページに使われている配色も落ち着いた色が多い。資料の大きさ、色遣い等児童にわかりやすく作られている。「資料の読み取り」の項目は6項目を提示している。	カラーユニバーサルデザインを配慮している。写真、挿絵、資料も大きく配置されており見やすい。写真の中の文字も読み取りやすくなっている。中心資料を大きく配置し、資料の読み取りや本文と資料の関係づけがしやすい。空撮写真などから読み取ったことを関連付けて土地利用図を読み取らせ考えを深めたり、多様な資料を関連付けて学ばせる工夫がある。
⑦判・ページ数	AB版 3年150、4年182、5年276、6年(分冊)政治・国際編122、歴史編166	AB版 3年178、4年224、5年260、6年288	AB版 3年160、4年198、5年282、6年278
⑧知識・技能の習得についての工夫(学習方法の提示、練習問題など)	「まとめる」のページでは、単元を通しての課題やそれぞれの時間で学んだことを写真と一言で振り返ることができる。また「見方・調べる」コーナーで、見る・聞く・触れる・読み取る・表す・伝えるなど具体的に示し、系統的に学習技能を身に付けることができるようにしている。地図帳や地球儀を活用する場面を積極的に提示している。索引を設け学習事項の確認に用いることができる。重要語句は太字で表記してあり、覚えなければならない語句が一目瞭然である。「つかむ」の内容が、どの単元も適切である。	まとめのページでは、単元を通しての学習課題とキーワードが書かれてる。そのキーワードを使い、まとめをすることができる。知識・技能の習得を表す項目を「集める」とし、8項目を提示している。問題を解決していくうえで必要な学習技能を「学びのてびき」として適宜紹介している。技能の活用を通して「社会的な見方・考え方」を使った学習の意識化が図れるようにしている。ポイントとなる言葉や概念を「キーワード」と明示している。小単元の末尾に「まとめる」を位置づけ学習問題やキーワードを再掲している。はじめに「社会科の学習の進め方」が2ページにわかって記されており、単元づくりに役立つ。	学習をふりかえる方法を「表現する」というコーナーで説明している。知識・技能の習得を表す項目を「見る・調べる」とし、11項目を提示している。児童の社会的な見方・考え方を働かせる手立てとなる「見方・考え方コーナー」で「空間」「時間」「関係」の三つの視点をもとに社会的な見方を身に付けさせる工夫をしている。これらをアイコンで示すことにより、社会的な事象をどのような視点でとらえればよいかガイドしている。キャラクターのつぶやきが、学ぶべき内容を網羅している。
⑨発展・応用的な内容についての工夫(生活化、学問や芸術との関連付けなど)	どの単元も「つかむ」「調べる」「まとめる」と編集されており、「習得・活用・探究」の単元づくりがやりやすい。単元にも「まとめる」「ひろげる」というページがあり、学んだことを活用したり探求できるページ構成になっている。	どの単元も「つかむ」「調べる」「まとめ」と編集されている。また、単元の終わりに「ひろげる」ページがあり、発展問題が記載されていて、探求する内容が明確に記されている。	どの単元も「まとめる」「つたえる」として、習得した知識を活用する場面が設定されている。またそこで必要とされる力を「表現する」という項目にし、10個の項目を提示している。「わたしたちの学びを生かそう」のコーナーがあり、学習して習得した知識をいかして探求できる問題設定がある。
⑩言語活動についての工夫(活動例の紹介など)	多様な表現活動にとりくむことができる「まとめる」場面を示している。習得した知識を定着させるとともに調べたことをもとに考え表現する力がつくようにしている。「新聞をつくる」「レポートにまとめる」「意見文を書く」などの例が掲載されており、苦手な児童も取り組みやすくなっている。	多様な表現活動に取り組むことができる「まとめる」場面を示している。習得した知識を定着させるとともに、調べてことをもとに考え表現する力がつくようにしている。「キャッチコピーを作ろう」「ガイドマップを作ろう」等の例が掲載されており、苦手な児童も取り組みやすくなっている。	多様な表現活動にとりくむことができる「まとめる」「つたえる」場面を示している。習得した知識を定着させるとともに、調べたことをもとに考え表現する力がつくようにしている。「PR紙のつくりかた」「安全マップのつくり方」等の例が掲載されており、苦手な児童もとりくみやすくなるように工夫されている。
⑪問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫	学習問題をつくり、対話的な学びを様々な場面で提示する工夫をしている。主体的な学びが意識できるよう学習計画を立てる場面を重視している。また調べてまとめたことを次の学習や生活に活かす、他の学習に広げること可能な場面を充実させている。	学習課題を「作る、予想する、調べる、まとめる」という学習の流れが巻頭に示され問題解決的な流れを設定している。また、どの単元でも「まとめる」として、習得した知識を活用する場面が設定されている。	学習課題や本時の問いに対応した写真やグラフが、子どもの思考とつながるように配置されている。大単元や小単元の導入では、児童が生活経験を出し合ったり素朴な疑問を話す中から、疑問を生み出し、みんなで追究したい「学習問題」をつかませていく工夫がある。学習問題に対しての自分の考えや友達のことを交流する例示があり、「さらに考えたい問題」も設定されている。

2. 社会(地図)

発行者・教科書名 観点	東京書籍 2 新しい地図帳	帝国書院 46 楽しく学ぶ 小学生の地図帳 3・4・5・6年
①教科目標から見た編集の適切さ (学習指導要領)	巻頭に、3年生でも楽しめるアニメチックな世界地図が配置されている。ゲーム的な地図学習のページ(p7,8)もある。 日本の領土と周辺諸国に関する内容を充実させ、また「海洋に囲まれ多数の島からなる国土の構成」が分かるよう、すべての地図において海洋部分も描写している。(日本とそのまわり(p15,16)、尖閣諸島(p18)、竹島(p27)) 歴史学習での活用のために、新学習指導要領解説で例示された時代を中心に、世界の歴史地図を掲載している。	日本全体が記載されているページ(p5)があり、日本の大きさがわかりやすい。地図記号の由来(p12)も書いてあって、3年生からの使用が想定されている。 日本の排他的経済水域は、それ以外の海域よりも濃く着色している。日本が島国であり、領土以上に排他的経済水域の範囲が広いことがひと目でわかる。また、周辺諸国は正式名称で示している。 ニュースや新聞などで児童が見聞きする領土や排他的経済水域などの用語について、模式図で表し説明している。
②教材の適切さ (新しさ、分量など)	3年生に地図の仕組みと約束事が分かるように、ページ全体の鳥瞰図を用いて、鳥瞰図→真上からの図→地図という視点の変換を展開している。 「日本の自然災害」のページは阪神淡路大震災を経験したわたしたちにとって、自然災害の恐ろしさを伝える続けることは大切なことで、子どもたちが見てわかりやすい構成になっている。 日本の歴史を学びながら、同じ時代の世界の様子が捉えられる歴史地図のページ(p75-78)を新設している。	地図帳の使い方(p7-18)が書いてあり、3年生での使用が想定されている。4年生以上も地図帳使用の基礎基本の記載があり、振り返ることができる。 3年生からの使用を念頭に、見やすい160万分の1図(「広く見わたす地図」)を新設している。記載内容を精選し、イラストを多数掲載し、楽しく親しみやすい地図表現にしている。 3年生での市区町村の学習に対応し、学校のまわりから実際のまちへと視点を広げて、「地図とは何か」について、段階的に示している。鳥瞰表現の絵図と、平面の地図とを比べることでわかりやすく理解できる。
③単元(教材配列)の適切さ (重点内容、時期など)	6年生で使える歴史のページ(p75-80)がある。兵庫県のページには、p33などに3年生で学習する「酒米」、4年生で学習する「丹波立杭焼」が掲載されている。 「自然災害と防災」のページは、北方領土から南西諸島までの日本列島全図を用いて、日本の地形や気候と災害との関係を考える学習ができるようにしている。	「京阪神」のページ(p47)が4年生での兵庫県の学習において使いやすい。 「広く見わたす地図」→「都道府県を見る地図」→「世界の地図」と配列し、活用度の高い使用学年に配慮している。
④学習への動機付けについての工夫 (トピック、コラムなど)	何人かのキャラクターが、そのページの主な学習課題を提示している。冒頭には、イラストを多く使ったのしい世界地図、日本地図を置き、地図の世界へのイントロダクションとしている。	何人かのキャラクターが、そのページの主な学習課題を提示している。 地図とは何か、方位、地図記号、さくいん、縮尺を巻頭で12ページにわたり解説している。
⑤表記・表現のわかりやすさ (字体、文字の大きさ、文章量など)	丸ゴシック系のユニバーサルデザイン書体を採用する等、ユニバーサルデザインであり、誰にでも使いやすい配慮がされている。 都道府県名は赤の太字に白い縁取りをして見やすくしている。 索引記号・番号には矢印をつけて探しやすい。	ユニバーサルデザインであり、誰にでも使いやすい配慮がされている。 等高線表現と陰影表現を組み合わせた立体感のある地図表現にしている。 写真を美しく鮮明に表現するために、通常の4色印刷ではなく、「クサ色(黄緑色)」の特殊インキを加えた多色刷り(5色)にしている。
⑥写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ (大きさ、カラーユニバーサルデザインなど)	世界を学習する部分(p55-68)では、子どもたちの興味が湧く写真がたくさん使われている。 図や写真の説明文などは、すべて意味の切れ目で改行(文節改行)するようにしている。	色覚特性への配慮やユニバーサルデザインフォントの採用、レイアウトの統一、文節改行など、全編にわたってインクルーシブ教育に配慮した工夫を行っている。難聴学級や4年生の児童も都道府県の手話の表記された地図で県名をおぼえることができる。
⑦判・ページ数	A4判 102	A4判 120
⑧知識・技能の習得についての工夫 (学習方法の提示、練習問題など)	さくいんの引き方を、親しみのもてる挿絵を使って分かりやすく説明している。 地球儀の活用の仕方について、写真を使って解説している。 日本の47都道府県をクイズなどの作業を交えながら習得できるようにしている。 ほぼどの地方も縮尺の違う地図を掲載しており、その県や国に特化した情報も見ることができ、他の県や国とのつながりを把握できる。	「地図マスター」で練習問題が記されている。巻頭の「地図の約束」は3年生の使用が想定されている。3年生以上でもいつでも使い方をふり返られる。地図帳を使用する基礎基本が記載されている。 児童が主体的に地図帳を活用できるように、自学自習ができる間「地図マスターへの道」を設置している(全80問)。「広く見渡す地図」「各地方」「中心部」と分かれていて目的に応じて調べ学習に用いることができる。
⑨発展・応用的な内容についての工夫 (生活化、学問や芸術との関連付けなど)	タウンマップの手法を用いた東京(p47-49)と京都・奈良(p35-36)の市街地図を掲載している。縮尺5万分の1の地図で、子どもたちが詳しく調べたり、新たな発見をしたりできるようになっている。 日本の気候、地形(p69-70)や自然災害(p97-99)の資料図は、理科の授業でも活用できる。 道徳の学習題材に取り上げられることが多い人物のイラストなどを、地図上の関連する場所に掲載している。 食育、家庭科への対応として、世界のいろいろな料理を紹介(p64)し、食と生活文化に目を向けさせるようにしている。	巻頭のページに世界の挨拶が記載されていて、英語の学習で使用できる。国名だけでなく、主な都市名、首都も英語表記がある。日本の歴史に関係のある地図(p101)を掲載しており、6年生での学習にも適している。 防災マップの具体的な作り方(p91-94)を掲載している。 おもな観光地や観光施設、祭りなどの伝統行事のイラストを掲載している。 国語科(物語の舞台となったところ)や音楽科(音楽の舞台となったところ)でも活用できる資料を掲載している。
⑩言語活動についての工夫 (活動例の紹介など)	4人の子と先生、はかせ、地図の妖精、冒険船の船長とその相棒と多彩なキャラクターが登場し、問いかげや気づきのためのヒントを提供している。それが子供たちが話し合う時や学習するときの手がかりとなっている。	地図の見方を示唆したり、活用を促したりする男の子と女の子のキャラクターによって、子ども自らが着目したり考えたりできるようにしている。 教師役のキャラクター「スパロウ先生」による問いかげによって、「地図マスターへの道」の学習活動をさらに深められるようにしている。
⑪問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫	キャラクターが課題を提示している。 国の位置と国旗を結び付けて調べられ、また子どもたちが好きな国旗から、その国を調べるきっかけにもなる。	キャラクターが課題を提示している。 タブレットパソコンなどで読み込める二次元コードを設置している。都道府県ごとの地図(白地図切り替え含む)やドローン動画、クイズ、統計など、資料活用能力を高められるコンテンツが収録されている。

3. 算数

発行者・教科書名	東京書籍 2	大日本図書 4	学校図書 11	教育出版 17
観点	新しい算数	たのしい算数	みんなと学ぶ 小学校 算数	小学算数
①教科目標から見た編集の適切さ (学習指導要領)	数学的活動を通じた学習展開となっている。授業の「まとめ」では、数学的な見方・考え方が価値づけられ、深い学びやより確実な理解につながる工夫がなされている。また、数学的活動を一層分かりやすく可視化した「今日の深い学び」等によって、既習事項を生かして新たな問題を解決する力を育てる工夫がなされている。単元末には、「つないでいこう算数の目～大切な見方・考え方～」が新設されており、各単元で伸ばしたい数学的な見方・考え方に焦点が当てられている。	主体的・対話的で深い学びを実現するよう、見方・考え方を働かせながら、思考力・判断力・表現力をのばす工夫がなされている。巻頭には「算数まなびナビ」のページがあり、ペア・グループ学習を含めた対話的な学びの方法が例示されている。重点となる時間が「じっくり深く学び合おう」と設定され、授業の流れ・数学的活動の流れが丁寧に示されている。また、考え方に焦点をあてた「発見！考え方」や「ひらめきアイテム」によって、見方・考え方を働かせながら学習を進める工夫がなされている。	主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、アクティブ(活動)のページが設定され、さらに「深めたいな」で学習を統合的・発展的に高められるように、「つなげたいな」で子どもの疑問に寄りそった学習が進められるようになっている。また、算数で見つきたい考え方を「考え方モンスター」にして、大切な見方・考え方を楽しく身に付ける工夫がなされている。自分の算数の学力がどの程度なのかを知る指標の一つとして、巻頭に全国学力・学習状況調査の結果の一部を示している。	数学的活動の充実と、主体的・対話的で深い学びの実現をねらい、子どもの「問い」を軸とした、学習展開の工夫がなされている。子どもの「はてな？」から学習のめあてを作り、主体的・対話的な学びを通して「問い」を深め、「なるほど！」を見出し、さらに新たな「だったら！？」へと思考を広げる場面へとつなげていく学習展開となっている。また、学んだことよさや考え方を振り返る4コマ漫画があり、単元を貫く数学的な見方や考え方を意識づけている。
②教材の適切さ (新しさ、分量など)	思考力の伸長、知識・技能の熟達、効果・効率の向上、統計学習の充実を掲げ、多様な端末で使用可能なデジタルコンテンツが準備されている。分量の面においては、練習問題の量が適切であり、「ほじゅうのもんだい」での定着や、「いかしてみよう」での活用など、どの単元でも算数の力を養うことができる工夫が見られる。第5・6学年では、プログラミング的思考を使って、倍数を求めたり正多角形をかいたりする手順を考える活動がある。	統計的問題解決を重視し、デジタルコンテンツを備えた統計単元が設けられている。また、全学年でプログラミング教育に対応している。さまざまな現代的課題(外国語教育、道徳教育、異文化理解等)も意識したつくりとなっている。練習問題の量が豊富で充実している。「たしかめ問題」や巻末の「プラス・ワン」で、習熟度に応じた柔軟な指導ができるようになっている。	プログラミング的思考を育成するために、1年「すじみちをたててかんがえよう」から6年「筋道を立てて考えようプログラミングのグ」が掲載されている。また、データの活用領域における内容が、各学年で掲載されている。PPDACサイクルについての具体例も示されている。身の回りにある算数に気づくような教材の提示により、生活に生かす楽しさを味わえる工夫がなされている。	全国学力・学習状況調査のB問題を踏まえ、単元末と学年末の2段階で活用問題が設けられている。また、B問題で課題が見られる記述式問題について、力をつけられるような工夫がなされている。進度が速い児童や知識を広げる問題などがコラムなどで紹介され、個に応じて学習を進められるようにしている。プログラミング教育に関わる教材は、第5学年で多角形の作図をする活動として扱われている。
③単元(教材配列)の適切さ (重点内容、時期など)	基礎的・基本的な内容をスパイラルに学習することに重点がおかれており、教材配列が良い。1つの学期に重い内容や同一領域の内容が連続しない工夫がなされていたり、熟達に時間を要する内容は、2つの単元に分かれて段階的に取り扱われている。目次には、当該学年の学習内容の前後に位置づく学習内容を明示して学びの系統性や連続性を意識できるようになっている。	学習内容の系統性、領域のバランス、他教科との連携を総合的に考慮され、適切な単元配列となっている。目次で、既習事項とのつながり、今後の学習とのつながりを明示している。抽象度の高い学習を学年の早い段階に位置付け、他教科で活用できるようにしている。	数学にかかわる日常の場面を漫画で表現している。目次には前年度の既習事項とのつながりを明示している。次年度についてははない。学習する単元が単元毎につながりのあるように順序立てて並べてあるので児童の思考に合った単元の組み方をしている。15の単元から構成されていて、一番多くの単元構成になっている。	単元の導入などでは、既習事項をスパイラルに扱ったり、関連する内容にリンクしたりして、系統的に学習を進められるようにしている。4つの領域(数と計算、図形、測定/変化と関係、データの活用)がどの学期にもバランスよく配分されている。
④学習への動機付けについての工夫 (トピック、コラムなど)	単元の導入部や巻頭「学習のとびら」には、既習事項をふり返る場面が丁寧に設定されており、これまでの学び方を価値づけ、今後の学習に生かしていく工夫がある。また、日常生活の場面を取り上げているので、意欲を持って対話的に学習内容に入ることができる展開となっている。	単元の導入部では、日常生活と関わりのある事柄が取り上げられているので、興味を持って取り組みやすい。「ふくろう先生のなるほど算数教室」というコラムは、算数への興味・関心を高め、算数が社会で生かされていることを実感できる内容となっている。	単元の導入部には、「？を発見」が設定されており、日常生活での場面を取り上げて動機付けを行い、既習事項と未習事項への連携すべき内容が丁寧に提示されている。また、見方・考え方を明確にしてモンスターとして登場させ、ゲットしていくと自然と力がつくという、子どもの興味・関心に沿った工夫がなされている。	単元の導入部では、「どんな学習がはじまるかな？」が設定されており、日常生活と関わりのある事柄が取り上げられているので、算数への興味・関心を高めて、学習を進めることができるようになっている。
⑤表記・表現のわかりやすさ (字体、文字の大きさ、文章量など)	UD教科書体により、文字の視認性を向上させている。文節改行、問題やまとめを枠で囲む、重要用語にアンダーラインをひくなどの工夫により、分かりやすい。余白の割合が多く、すっきりとして見やすい。	UDフォントを使用し、文字が大きく読みやすい。例示と練習問題の字体が変えてあり、分かりやすい。文中に図が多用されているため、教師とともに一つずつ読み解いていく必要がある。	すっきりとした字体で、1ページ内の文字が少なく、図や問題の配置がすっきりして見やすい配置になっている。	UDフォントを採用し、行間を空けてゆったりとして読みやすい。重要語句は太字にしている。数学的な気付きや疑問を示唆する内容に「!？」などの記号が付いている。文中に図が多用されているため、教師とともに一つずつ読み解いていく必要がある。
⑥写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ (大きさ、カラーユニバーサルデザインなど)	色数が多くなく、全体的に落ち着いており、余白の割合も高くすっきりとしている。写真は掲載量が少なめだが、イラストが効果的に入れられており、分かりやすくなっている。単元ごとにページが色分けされている。特に第1学年の第1分冊は図が大きく見やすく、書き込みもしやすいように工夫されている。	カラーユニバーサルデザインが意識されており、児童に見やすく配慮されている。登場しているイラストは大変シンプルである。問題文の背景色が統一されていて、一目で問題文であることが理解しやすくなっている。	正方形に近い形のページで、開くと大きく学習内容が見渡せるようになっている。イラストや絵図はカラーユニバーサルデザインの視点をもって作成されており、淡い色合いで見やすい。写真は多用されることなく、導入部や活動の場面など必要なところでの提示されており、動機付けになっている。	色覚の特性を踏まえ、配色やレイアウト、表現方法、文字(カラーユニバーサルデザイン)などが工夫されている。問題文を表す挿絵が、実際に数えられるようになっているなど、取り組みやすい。作業的、体験的な活動場面では、写真を用いることで動機付けになっている。
⑦判・ページ数	1年①A4判 1年①以外B5判 1年178、2年260、3年300、4年324、5年312、6年282	B5判 1年177、2年243、3年263、4年287、5年289、6年269	AB判 1年200、2年292、3年306、4年330、5年338、6年298	B5判 1年182、2年284、3年302、4年350、5年310、6年276
⑧知識・技能の習得についての工夫 (学習方法の提示、練習問題など)	どの単元にも「おぼえているかな？」のページが復習できるページとして設定されており、既習までのつまづきの補充として工夫されている。登場している人物やキャラクターが手掛かりや学習方法を提示してくれているので、学習に取り組みやすくなっている。「たしかめよう」のページでは、練習問題の量も適量であり、「ほじゅうのもんだい」でさらに知識や技能の習得を補えるようになっていて、習熟の度合いを維持、向上できる工夫がなされている。	学習した単元末の「たしかめよう」のページでは、問題ごとに学習したページの注釈があり、知識や技能が定着していない問題があれば、そのページに戻って復習することができる工夫が見られる。巻末の補充問題として「プラス・ワン」が設定されていて、獲得した知識、技能を繰り返し振り返ることができる工夫が見られる。どの学年も1冊にまとめられているので、1年間を通してふりかえりやすくなっている。	知識・技能の定着を図るための問題が充実している。「たしかめたいな」という問題で、学習したことの定着を図ることができる箇所や、「できるようになったこと」という仕上げのページがあり、獲得した基礎基本を自分で確かめることができるようになっている。また、「ほじゅう問題」の量も充実している。「できるようになったこと」→「まなびをいかそう」→「深めよう」という構成になっていて、知識、技能を定着から活用までできる工夫がみられる。また、領域ごとの学習の積み重ねができるような工夫が見られる。	まとめのページでは知識の定着ができるように4コマ漫画でまとめられており、算数に苦手意識がある児童にもわかりやすいように作られている。巻末の練習問題「ステップアップ算数」では、個に応じて主体的に知識や技能を定着できるように、「基本の問題」、「ジャンプ問題」と構成されていて、家庭学習でも各自で取り組めるような工夫が見られる。巻末には、「学びのマップ」で関連する単元がまとめられており、学年を超えて既習事項を振り返られるような工夫が見られる。
⑨発展・応用的な内容についての工夫 (生活化、学問や芸術との関連付けなど)	教科書の要所に「Dマーク」があり、巻頭のQRコードを使ってデジタルコンテンツを活用し、学びを深めることができる。その量は多めである。巻末に学習したことを活用して取り組む発展的な問題が設定されている。	巻頭・巻末にQRコードがあり、インターネットを使ってデジタルコンテンツを活用し、学びを深めることができる。その量は多めである。単元末に学習したことを活用して取り組む発展的な問題が設定されている。	要所にQRコードがあり、インターネットを使って補充の問題や関連するサイトにリンクすることができる。その量は少なめである。単元末に学習したことを活用する問題が設定され、それが日常生活に関連するものに工夫されている。	巻頭にQRコードがあり、インターネットを使ってデジタルコンテンツを活用し、操作しながら学びを深めることができる。その量は少なめである。巻末に学習したことを活用する発展的な問題が設定されている。
⑩言語活動についての工夫 (活動例の紹介など)	一つの問題場面について、線分図に言葉を補うことで児童の思考を促したり、図・式・表などを関係付けながら示し、多面的なとらえ方を促すことで、より活発な言語活動が行えるようになっている。数学的な考え方を働かせる場面では、キャラクターが途中までした説明の続きを考えさせることで、児童の思考を促している。	数学的な考え方を働かせる場面では、実際の授業の教師と児童とのやり取りの場面が示されていることで、児童の思考を促し活発な言語活動を行えるようになっている。「まなびナビ」で、隣同士やグループ、クラスでの話し合い方が例示されている。	割合が関連する学習では、線分図と表が並列するように示されており、方略を学びやすい。巻頭で「算数でみつきたい考え方モンスター」として、9つの考え方が示されている。このキャラクターが出てくることでどのような思考をすればよいか分かりやすく、活発な言語活動が行えると考えられる。	線分図を使う学習では、線分図に方眼がかかっているため、数量関係を正しくとらえることができるようになっている。巻頭の学びの手引きに「算数で使いたい考え方」というページを設け、児童の思考を促すようにしている。
⑪問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫	第2学年以上の上巻巻頭に問題解決の過程を確認する「学びのとびら」や問題解決する過程を可視化した「今日の深い学び」を設定している。めあてや手がかり、まとめはマークを付けることで分かりやすく位置付けられている。	各単元の1時間目を「じっくり深く学び合おう」と位置付け、イラストを使い問題解決学習の流れを示している。全時間に「めあて」を設置し、まとめと対応している。第2学年以上巻頭の「算数まなびナビ」では、学習を発展的にひらいて新しい問題を見いだすことや、日常生活から問題を見いだすことも示している。	新しい学習を身近に感じるために、問題発見の場面をイラストにしている。身のまわりの問題や、算数の中で気づいた問題について、まず自分で考え、その考えを班で共有し、クラスでまとめるといった授業の流れを提示している。	子どもの問いを軸に学習を展開している。問題発見や問題解決の過程を「はてな？」→「なるほど！」→「だったら！？」の吹き出しで表現し、子どもの問いの連続によって学習を展開している。活動の進め方について、主体的・対話的で深い学びのモデルとなる授業展開を掲載している。また、巻頭の「算数をはじめよう！」にも示している。



3. 算数

発行者・教科書名 観点	新興出版社啓林館 61 わくわく算数	日本文教出版 116 小学算数
①教科目標から見た編集の適切さ (学習指導要領)	生活していく上で、基礎となる数学的知識・技能を習得できるような工夫(単元のとびら等)がなされている。また、毎回の学習が既習事項をふり返りながら筋道を立てて考えたり、多様に考えたりするような展開となっており、主体的・対話的で深い学びが実現できるような工夫がなされている。算数で必要となる考え方や説明の手法のモデルを巻末に示している。	主体的・対話的で深い学びの実現をめざし、筋道立てて考え表現するための学び方(「自分でみんなで」等)が示されている。また、「学び方ガイド」や「算数で使いたいことば・考え方」によって、数学的な見方・考え方を身につける工夫がなされている。「わかっているかな」、「間違いやすい問題」、「たしかめポイント」、「次の学習のために」で子どもが苦手になっているような内容を丁寧に扱っている。基礎的な内容の理解に重点を置き、学習の定着を図る機会を設けている。
②教材の適切さ (新しさ、分量など)	年間標準時数の9割でできる内容になっている。しかし配当時数の少ないものもあるが単元数がやや多く設定されているため分量として多く感じる。QRコードをさまざまな単元に用意し、学習内容と関連する参考情報をスマートフォンやタブレットで閲覧できる。家庭学習での活用も可能となり、主体的に学ぶ仕掛けがされている。プログラミング的思考を育成するためのページが第1・2・5・6学年で巻末に設定されている。	年間標準時数の9割でできる内容になっている。第1学年で、かけ算・わり算につながる単元「同じ数ずつ分けよう」が導入されているのが新しい。また、防災への意識を高める題材、日本の国土や文化に対する理解を深められるような素材を多く取り上げている。「データの活用」領域では、身の回りの事象について、表やグラフを用いて表現したり考察したりする活動を取り上げている。内容理解の部分が少なく、適用問題はドリルで補う必要がある。プログラミング教育に関わる教材は、第5学年でのみ扱われている。
③単元(教材配列)の適切さ (重点内容、時期など)	4つの領域(数と計算、図形、測定/変化と関係、データの活用)がどの学期にもバランスよく配分されている。第1学年で、就学前の経験や遊びでの体験をそのまま学習に活かせる導入となっている。割合の系統を考慮して、各学年の単元の配列が工夫されている。	目次に既習事項との繋がりが明記されている。既習の内容の復習から習得、発展と、どの単元にも構成されているのでわかりやすい。関連する内容もまとめられている。児童の発達に合わせて重点単元も配列されている。3学期に配列されている割合が大きい。
④学習への動機付けについての工夫 (トピック、コラムなど)	巻末に「学びのサポート」があり、単元導入時に既習事項を確認できる工夫がある。身近な題材を取り上げて動機付けを行い、既習内容から未習内容へと学習をつなげている。単元のめあてが書かれているため、学習の見通しを持ちやすい。	単元の学習に入る前に「次の学習のために」のページがあり、既習内容を確認してから新しい学習に入ることができる。身近な生活場面を取り上げ、動機付けとしている。
⑤表記・表現のわかりやすさ (字体、文字の大きさ、文章量など)	UDフォントを採用し、文章を理解しやすくするために意味改行されている。文と文との行間がすっきり空いていて見やすく、また書き込むことができるスペースが充実している。知識を理解する部分と、活用し定着させる部分が分かれていて分かりやすい。	読みやすくなるように開発された教科書体が採用され、文字が大きくて見やすい。重要語句が太字で表記されている。文節改行がされており、読みやすい。
⑥写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ (大きさ、カラーユニバーサルデザインなど)	紙面デザインや配色については、個人差を問わず、より多くの人に必要情報が伝わるようになっている。温かみのある優しい色合いでシンプルなデザインである。本文の文章を補う形で図が挿入されており、理解しやすい。登場している児童のイラストが多様な種類で描かれている。	すべての子どもが等しく学べるようにカラーバリアフリー、ユニバーサルデザインなどを採用し、見やすくなっている。イラストはあるが写真は比較的少なめである。文章で説明する部分の割合が多く、指導者が視覚的な情報を付け加える必要がある。
⑦判・ページ数	B5判 1年178、2年296、3年302、4年320、5年304、6年300	B5判 1年200、2年290、3年302、4年332、5年324、6年286
⑧知識・技能の習得についての工夫 (学習方法の提示、練習問題など)	全国学力学習状況調査の結果より課題とされる内容についての知識・技能の定着を図るページが多く設定されている。また、「じゅんじゅん」のページには、児童自らが単元の学習での既習内容を確認できるように工夫されている。「学びのまとめ」では、問題ごとに学習した内容とページが注釈として載っていたり、QRコードによりデジタルコンテンツへのリンクが可能となっていてつまづきを解消できる工夫が見られる。巻末に「もっと練習」のページが設定されていて、知識・技能を定着させる問題が充実している。	教科書の右端に考え方のヒントがあり知識を定着させるための工夫がされている。個に応じて伸ばしていく「算数マイトライ」では、「しっかちチェック」→「ぐっとチャレンジ」→「もっとジャンプ」の3つのコーナーで構成され、知識、技能を積み上げる工夫が見られる。単元途中では、「直後の練習」、単元末では「たしかめのポイント」があり、間違いやすい問題を取り上げ、単元末の「わかっているかな」では間違いやすい内容を取り上げて知識、技能を定着させる工夫が見られる。
⑨発展・応用的な内容についての工夫 (生活化、学問や芸術との関連付けなど)	各単元のはじめやまとめなどの要所にQRコードがあり、インターネットを使ってデジタルコンテンツを活用し、学びを深めることができる。その量は多い。単元末に学習したことを活用する発展的な問題が設定されている。	巻頭にインターネットのアドレスがあり(QRコードはなし)、インターネットを使って動画を閲覧することができる。その量は最も少ない。巻末に学習した内容を活用する発展的な問題が設定されている。
⑩言語活動についての工夫 (活動例の紹介など)	巻末の算数資料集に「分かりやすく説明しよう・友達の考えをよく聞こう」「算数でよく使う考え方」等のページを設け、意見交流のポイントや算数での思考の仕方の定石などがまとめられている。例えば図形の変形を学ぶ際、矢印だけでなく「ずらす」「まわす」などの補助的な言葉も用いて図が描かれており、説明の手助けになる。	巻末に「算数で使いたいことば・考え方」というページがあり、自分の考えを分かりやすく表現するための4つのポイントがまとめられている。それぞれのキャラクターの考え方を吹き出して示しているだけでなく、重要な言葉が色を付けて強調されているので、どんな考え方を手掛かりにすればよいかわかりやすい。
⑪問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫	1時間の中に、課題発見につながる子どもの考えや気づきを「学びのめばえ」として取り上げ、「めあて」「まとめ」も位置付けられ、主体的な学びとなるように工夫されている。多様な考え方を充実させ、話し合いを設定することで、主体的・対話的で深い学びが実現できるようにしている。また、そのモデルが巻頭の『わくわく算数学習』で示されている。	「自分でみんなで」では、子どもの発言を用いて、問題解決の方法の見通しを立てて学習を進めており、側注に具体的に示している。「さあ、算数の学習を始めよう!」で問題解決的な学習の展開例を示し、「学び方ガイド」では問題解決的な学習過程と学習を進めていく際の着眼点をまとめている。

4. 理科

発行者・教科書名	東京書籍 2	大日本図書 4	学校図書 11	教育出版 17	新興出版社啓林館 61
観点	新しい理科	たのしい理科	みんなと学ぶ 小学校理科	未来をひらく 小学理科	わくわく理科
①教科目標から見た編集の適切さ(学習指導要領)	・導入時の気づきに重点をおき、見開き2ページには単元名を示さず、写真や体験から出る児童の思いから学びをスタートさせられるように工夫されている。(主体的な学び) ・理科の見方として、なにをどう見ればよいかが示されている。指導の際、児童自らに課題を発見させるにはどこまで見せるかを検討する必要がある。	・巻頭の「理科の学び方」で各学年のねらい(比較・関係付け・条件制御・多面的に考える)が達成されるように、観察・実験で、何に気をつければよいのかを明記し、目的をもって活動できるように工夫されている。 ・キャラクターによる対話活動場面の例示(漫画)が、「予想」「計画」「考えよう」「深めよう」などで多く取り入れられており、対話的な活動を作りやすいよう工夫されている。	・理科の学びの中でつきたい資質・能力が子どもたちも意識して学べるよう導入時にはキャラクターを使ってマークとともに示している。また、単元末には、「できるようになった」というコーナーを設け、それらの観点でふり返りをするように工夫されている。	・問題を見出す力を育むため、見つける際のポイントが先生と子どもたちのイラストによる会話文で示されているため、何を視座に考えればよいかがわかりやすい。 ・考察部分で「予想と違って…」とキャラクターが言う記載があり、1時間レベル、単元レベルで自分たちの予想、仮説をふりかえりながら学習を進めることができるよう工夫されている。	・単元導入時に「思い出してみよう」「はじめに考えてみよう」を設け、既習事項や生活経験から問題を見つけてことで主体的に学ぶ姿勢が持てるよう工夫されている。また、考察後の「もっと知りたい」では新たな問題発見につなげ、子どもの学びに連続性をもたせる工夫がされている。
②教材の適切さ(新しさ、分量など)	・プログラミング的思考の入り口となる内容を設けている。 ・年間で10時間程度の余裕をもつことができるように配慮されている。したがって、体験活動や発展的・補充的な学習の時間を十分に確保することができる。 ・第5学年川の流れなどの単元において、関西の地域教材についてはそれぞれの教師が補って指導を行う必要がある。(P.87～)	・プログラミング的思考の入り口となる内容を設けている。 ・第6学年の製鉄と燃焼など、社会科と関連させた内容が見られ、教科横断的な児童の学びの広がりを意図している。(P.23) ・第5学年の両性花を用いた受粉の実験は、つぼみの段階で花からおしべを取り除いてから実験を行う必要がある。(P.80-81)	・プログラミング的思考の入り口となる内容を設けている。 ・実験方法について細かいステップが踏んであり、児童の思考に沿ったものとなっている。(4年 P.130) ・日常生活との関連を図る内容の事例数が、他者と比較してかなり多く掲載されている。(4年間で130の事例、他者は50前後)	・プログラミング的思考の入り口となる内容を設けている。 ・タブレットパソコンを用いた観察の方法が第3学年の当初から紹介されており、低学年からICT機器の利用に注力している。(3年 P.13) ・第6学年物の燃え方の単元ではろうそくに集気びんをかぶせることから実験をはじめ、空気の成分へとつなげることで、児童にとって自然な形で問いが組まれている。	・プログラミング的思考の入り口となる内容を設けている。 ・他者と違い、二次元コードが各単元のまとめのページに掲載されており、対象が児童向けの参考になる情報の動画や、学習内容の復習問題を見ることができる。
③単元(教材配列)の適切さ(重点内容、時期など)	・掲載順としては季節や天候に合った内容の単元配置がされている。 ・巻末の「学んだことをふり返ろう!」では、領域ごとに学習内容をまとめるとともに、次学年の学習内容を記載することで、見直しをもち、系統立てて理解することができる構成となっている。	・第3学年で2学期に担当されている単元が野外で実験・観察を行うものが多いため、気象条件等に合わせて授業を考える必要がある。 ・第6学年の水溶液の性質が秋に配置されており、金属と水溶液が反応しやすい気温の時期に学習できるようになっている。	・第3学年の1学期の単元が全て野外で実験・観察を行うものや成長状況に左右されるものになっているため、梅雨の時期などの気象条件、動植物の成長状況をみながら授業を組み立てる必要がある。 ・第5学年の学習のスタートがふりこの単元であることから、学年の初めに条件の統一や測定を繰り返す実験操作など、多くのことを指導したうえで実験に臨む必要がある。	・教材の入手しやすさや扱いやすい時期、学習内容の関連性などを配慮し、無理なく学習ができるような配列と構成となっている。 ・夏休みの時期に該当する箇所に「わたしの研究」を設定しており、自由研究に対応できる内容が掲載されている。	・学習指導要領に記載の内容区分B「生命・地球」のそれぞれの単元については、系統的な順序性を確保したうえで、季節的な不都合が生じないように、野外観察や飼育・栽培に適した時期にバランス良く設定されている。
④学習への動機付けについての工夫(トピック、コラムなど)	・導入が「レッツスタート」というページに設定されており、見開きページを用いて大きな写真やイラストで学習への動機づけをはかることができる。	・全体的にトピックやコラムが多く取り入れられており、子どもたちが学んだことが身の回りでのように生かされているのかをつかんだり、社会とのつながりに気づいたり、さらに深められたりするよう工夫されている。(「りかのたまご」「サイエンスワールド」「学びをリンク」)	・単元末の「しりょう」では、安全や暮らし、スポーツなど、理科で学んだことが身の回りでのように生かされているのかについて伝えている。 ・水の流れについて、甲子園球場のグラウンドについての事例が掲載されている。(4年 P.64)	・「科学のまど」や「しりょう」「広がる科学の世界」などでは子どもたちが学んだことが身の回りでのように生かされているのかをつかんだり、社会とのつながりに気づいたり、さらに深められたりするよう工夫されている。	・「理科の広場」「つなげよう」では子どもたちが学んだことと社会や日常生活との関連に気づき、有用性が実感できるよう工夫されている。
⑤表記・表現のわかりやすさ(字体、文字の大きさ、文章量など)	・文字サイズが全体的に大き目になっており、ユニバーサルデザイン書体が採用されており、読みやすい。 ・新しく学ぶ理科用語などは、太字・下線で目立つように工夫されている。	・新しく学ぶ理科の用語については、太字で目立たせて提示されている。 ・読みやすい位置での改行がされている。 ・実験の際の注意点が導入のページから何度も明記されており、注意喚起に重点をおいている。(3年 P.51～)	・新しく学ぶ理科の用語について「大切な言葉」として枠を設け、提示されている。 ・各ページにおける情報量が多いため、文章量がやや多く、文字サイズが少し小さい。	・新しく学ぶ理科の用語については、太字・蛍光マーカーで目立たせて提示されている。 ・吹き出しなどでも読みやすい位置での改行がされている。	・全体的に文章量は少なめでシンプルであるため、読むことが苦手な児童にとってもわかりやすい。
⑥写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ(大きさ、カラーユニバーサルデザインなど)	・カラーバリアフリー・ユニバーサルデザインフォント採用 ・第3学年の「チョウの育ち方」ではモンシロチョウとアゲハの育ち方の比較がしやすいようにページが工夫されている。(P.28-31)	・カラーユニバーサルデザイン・ユニバーサルデザインフォント採用 ・第6学年の維管束の観察に青色インクを用いており、赤緑色弱の児童にとって見やすいよう工夫されている。	・カラーユニバーサル ・色合いがはっきりしており、多様な色が使われている。 ・すべての子供が見通しを持って学習できるようなレイアウトの工夫が施されている。	・カラーバリアフリー・ユニバーサルデザインフォント採用 ・実験単元(水色)と観察単元(緑)でタイトルの色を統一している。問題解決のステップについては鉄腕アトムのマーク(ピンク)に統一しており、見やすい。	・ユニバーサルデザインフォント採用。 ・実験の流れを理解したり、比較して予想できるように図や写真が配置されている。図は単純に描かれておりわかりやすい。
⑦判・ページ数	A4判 3年182、4年216、5年188、6年226	AB判 3年199、4年225、5年193、6年227	AB判 3年182、4年206、5年194、6年230	A4変型判 3年206、4年246、5年230、6年240	AB判 3年184、4年204、5年198、6年226
⑧知識・技能の習得についての工夫(学習方法の提示、練習問題など)	・学習内容の定着を図るために、単元末に「たしかめよう」が設けられており、問題数が多い。 ・第3学年の初めての単元となる「風やゴムで動かそう」では、学び方のポイントが丁寧に示されている。(P.51-54)	・実験や観察の手順に写真や絵が多く示されており、取り組みやすい。 ・学習単位ごとの「わかったこと」「結論」で基礎・基本をまとめている。また、単元末に知識及び技能を定着させるための問題を配置している。	・「知識・技能」の観点について、学びの中で身につけた内容をキャラクターとともに示している。また、学習後にその観点についての学びをふり返ることができるようになっている。	・各単元「見つける」→「自分の考えをつくる」→「自分の考えをたしかめる」→「わかったことを表す」という問題解決学習の流れで構成されており、導入時に提示された課題「はじめに考えてみよう」を学習後に「もう一度考えてみよう」と振り返ることで自分の学びの姿を実感できる(自己評価できるように工夫されている)。 ・単元末に「まとめノート」が例として掲載されており、大切なポイントがわかりやすく整理されている。	・各単元「見つける」→「調べる」→「ふり返る」の問題解決学習の流れで構成されており、導入時に提示された課題「はじめに考えてみよう」を学習後に「もう一度考えてみよう」と振り返ることで自分の学びの姿を実感できる(自己評価できるように工夫されている)。 ・単元末に「まとめノート」が例として掲載されており、大切なポイントがわかりやすく整理されている。
⑨発展・応用的な内容についての工夫(生活化、学問や芸術との関連付けなど)	・単元の最後のまとめの問題では、発展的な問題として実生活に関連した問題が設けられており、どの単元においても学んだことと実生活が関連付けられている。	・学んだ内容に関わる読み物が「理科のたまご」のコーナーとして設けられているとともに、地球・自然・防災・仕事・文化などマークで分けられており、身の回りとのつながりを感じさせることができる。 ・「学んだことを生かそう」では、発展的な内容が実生活につながり形で示されている。	・実験後に「やってみよう」「考えよう」が設けられ、さらに調べられそうなこと(実験・観察)や、結果を整理していく方法など学びが深まるように工夫されている。(3年P.133) ・単元末の資料コーナーが充実しており、発展的な学習に応用できる。	・各単元の考察のあとに「学びを広げよう」という項目があり、発展的な学習に取り組みやすくなっている。 ・「メッセージ」に各分野で活躍されている方の言葉がのっており、理科がどのように生きているのかとらえることができる。	・学習の最後に「たしかめよう」と「活用しよう」、「つなげよう」という形で、学んだこととたしかめ、発展的な問題、学んだことの実生活へのつながりと順序良く取り組むことができる。 ・「ものづくり広場」が巻末にまとめられており、発展的な内容として必要な事項がきちんと選択されている。
⑩言語活動についての工夫(活動例の紹介など)	・単元導入時の「問題をつかもう」で必ず自分の考えをまとめ、気づいたこと、思ったことを話し合う活動が位置づけられており、例文などをもとに対話的な学びが展開できるように工夫されている。 ・学び方としてジグソー学習が紹介されており、言語活動を活性化させるヒントとなる。(5年 P.122-123)	・「結果」と「わかったこと」の間に「結果から考えよう」が設けられており、話し合い活動が取り入れられている。 ・それぞれの問題解決過程において対話させるべき場面を挿絵で指示しているため、若手の教師であっても自然と対話を意識して授業を進めるよう工夫されている。(5年 P.143)	・考察場面などでノート文例が示されており児童の思考のサポートとなる内容となっている。 ・5年では、予想や計画をたいて実験等を行うことが多く場面が多く掲載されている。	・巻頭に話し合い活動において大切にしたい言葉を明記することで、理科で大切にしたい視座をはっきりさせながら考えをつくることができるよう工夫されている。 ・単元末の「たしかめ」の最後には、学んだことと身の回りの事象のつながりに気づかせる問題が含まれており、なぜ?という問いにより学んだことを自分の言葉で説明する言語活動が取り入れられている。	・「問題」の前に「問題をつかもう」が入っている題材があり、子供同士の話し合いから「問題」をつかむ工夫がされている。また、考察の場面では、協働的な活動の場面が設定され、深い学びにつながるようになっている。 ・導入や予想の際に考える視座が子供の言葉として示されており、意見や発言の手助けになっている。
⑪問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫	・単元の導入が3ページ(見開きの写真ページと対話例:漫画を取り入れている)で構成されており、問題をつかむ活動や予想の場面に重点をおいている。 ・課題発見をうながすような、写真を見る視点や話し合いの具体例が挙げられている。(6年 P.169)	・問題解決の流れが巻頭に明確に示されており、学習者の学びの見直しにつながることを期待される。 ・予想、考察の表記が対話形式になっており、話し合いが充実するしかけとなっている。	・巻頭に課題発見から問題解決までの流れが、見やすくまとめられている。 ・単元の中で完結するのではなく、学んだことを次の学びや暮らし、仕事などにもつなげ生かすことができるように工夫されている。	・単元の導入時の「見つけよう」に、写真やイラストを比較しやすいように配置して、共通点や差異点に気づかせるよう工夫されている。他者に比べ、課題の発見にページを多く取っている。 ・結果が見通しと一致した場合と一致しなかった場合にわけて結果の読み取りかたが示されており、問題解決を通じた資質能力の育成が意識づけられている。	・課題発見から問題解決、新たな課題という流れが示されている。まとめから次の課題へとつながるようにページが構成されており、新たな課題の発見につながる。 ・児童の学びが教師からの押し付けでなく、子どもの論理に立った学習過程となることを期待される。例えば、種子の発芽の実験において見られた子葉の変化から、次の課題が生まれるように工夫されている。(5年 P.18)

5. 生活

発行者・教科書名	東京書籍 2	大日本図書 4	学校図書 11	教育出版 17	
観点	どきどき わくわく あたらしい せいかつ あしたへ ジャンプ 新しい 生活	たのしい せいかつ なかよし/はっけん	みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ	せいかつ みんな なかよし/なかよし ひろがれ	
I	①教科目標から見た編集の適切さ (学習指導要領)	・保護者ともいっしょに読む教科書として、社会に開かれた教育課程を意識した編修となっている。 ・単元の冒頭のページに3つの目標がイラストや写真、吹き出し等に示されている。(各単元の冒頭ページ) ・探究のプロセスの素地となる体験→表現の行き来が意識され、次の課題への見通しが持ちやすい。 ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けてのヒントが書かれている。	・幼児教育からつながり、中学年へとつなげる、縦のつながりや、他教科とのつながりが意識された編修となっている。 ・2年生の見通しとして、1年のはじめにどんな2年生になりたいか、子どもの自立に向けて、成長を想起させる工夫が見られる。 ・さらに1年の終わりにおいても自己の成長を振り返る工夫がされている。	・「自己決定できる子ども」「他者との関わりの中で、変容できる子ども」「自分の成長を自覚することのできる子ども」を育てたい資質・能力とし、多様性を前提とした問題解決能力の育成を編修の基本方針としている。 ・どきどき(課題発見)→いきいき(活動)→ふむふむ(ふりかえり)→にこにこ(さらにやってみよう)として気づきの質が高まるように構成されている。	・子どもたちがもっている能力を発揮しながら、生活科で育成する資質・能力を引き出すような編修となっている。 ・単元末に振り返る活動が「まんぞくはしご」といった見える形で示されており、自己の成長と他者とのかわりによる成果が適切に示されている。 ・身に付けたい資質能力を6つ示し、保護者と共に共有する工夫がされている。さいころのアイコンがあり、教師の指導に活かすことができる。
	②教材の適切さ (新しさ、分量など)	・町探検の回数を重ねることで、気づきの質を高める工夫がされており、社会に開かれた教育課程の実現に向けて町や学校とのつながりを生むように書かれている。	・2年間にわたって取り扱う飼育・栽培活動において、子どもの発達段階に即した活動内容となるように工夫されている。 ・下巻では、学校紹介の準備が掲載されている。(下p6~7)	・4月学校生活を慣れるために、生活の約束を指導する場面がある。(上) ・町探検を4月の入学直後に実施することで新学年のスタートをスムーズに行うことにつながる。(下) ・小動物の飼育単元が豊富である。(上)	・幼児期に習得したことを生かして、ゆったり安心して学校生活をスタートできるような工夫がされている。 ・下では、学校紹介の準備が掲載されている。(p2~3) ・町探検において、実際に仕事体験をする内容となっており、町の仕事や町の様子への気づきが深まる工夫がされている。(下p66~68)
	③単元(教材配列)の適切さ (重点内容、時期など)	・学びのフィールドを学校や公園に限定しており、(下)になると、学びが地域に広がる。町への興味からさまざまな人やものに出合わせる工夫が見られる。(上) ・町探検から季節の違いや他の単元の入り口に入るように工夫している。(下) ・スタートカリキュラムが意識できる口絵があり、学習の流れがわかりやすい。(上p1~13)	・1年生の学校生活の紹介があり、1年生のスタートカリキュラムとしての工夫が見られる。(上p1~7) ・季節に沿った単元構成がされている。(目次より)	・生活科の内容を「探検」「遊び」「飼育」「栽培」「家族・成長」の5つの活動領域に整理し、それぞれを大単元として構成し、巻頭に内容とカレンダー(時期)が示している。 ・スタートカリキュラムとしての学校生活に慣れるための工夫がある。	・1年生における学校探検の教材では、まず、教師といっしょに学校の中を歩く。次に自分たちで不思議に思ったことやさらに調べたいことをもとに探検を仕組んでいるため見通しを持ちやすい。(上p25) ・スタートカリキュラムとしての工夫がみられる。
	④学習への動機付けについての工夫 (トピック、コラムなど)	・自分たちの生活から気づきが生まれるように仕組まれている。(上は公園や学校生活、下は、町探検での気づきをもとに進める構成で授業に取り組める。)	・野菜を栽培する活動において料理の写真が活動への動機づけと見通しを持つのに適している。(下p18・19) ・大きな写真が見開き1pで載っているため、動機づけにつながる。(下p10~11)	・子どもが中心となって、見通しを持ちながら願いを達成していけるような工夫がされている。 ・トピックノートコーナーが見やすい。(下p62~63)	・自然の不思議さや面白さをクイズ形式にして提示している。 ・見出しの写真が子どもの興味をそそる工夫がされている。(下p25)
	⑤表記・表現のわかりやすさ (字体、文字の大きさ、文章量など)	・UDフォント	・UDフォント ・カタカナルビ付き(上)	・文章量を少なく、写真・吹き出しを多くし、低学年の発達段階をふまえた紙面のユニバーサル化を施している。	UDフォント
	⑥写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ (大きさ、カラーユニバーサルデザインなど)	・種の学習で成長の写真が比べて見やすいように工夫されている(上p28~32) ・ほんとうのおおきさポケットずかんは、切り離し、外に持ち出すことができる。(上巻末資料)	・インタビューカードの使用によって、子どもがインタビューする内容が想起しやすい。(下p41) ・モノクロ写真とカラー写真を使用することで自然への気づきが際立つ工夫がされている。(下p30~31)	・ポイントを視覚化し、分かりやすい所に示している。また、装飾や指示は最低限にしている。 ・野菜の育て方がくわしく載っているため見やすく、指導しやすい。(下p42)	・多様性を受け入れる素地づくりのために多様な人種を挿絵や写真で登場させている。 ・実物の写真が多い。(上p77~78どんぐり)
⑦判・ページ数	A4判 262	AB判 282	A4変形判 256	AB判 276	
II	⑧知識・技能の習得についての工夫 (学習方法の提示、練習問題など)	・ワークシートの書き方では、活動の充実、また、気づきの質を高める工夫が見られる。 (下p15 野菜のようす→やってみよう→気づきへ) (下p53 どんどこおもち→試してみよう→感想へ) ・巻末に「かつどうべんりてちょう」を設けて、身に付けさせたい習慣や技能をわかりやすく示している(上p115~下p107~)	・町探検において、地図を書くことから町にあるお店や植物などの目印を記すことで自然や町のお店や人への気づきへと展開できる(下p23) ・2年生のはじめと終わりに自己の成長を振り返ることにより、自身の心身の成長を実感できる。(下)	・ワークシートの書き方に、見たことしたこと、気持ちを例示し、野菜に対する気づきの質を上げる工夫ができる。(下p41) ・ワークシートが時系列に載っており、気づきの質を高める工夫となりそうである。子どもに対しても指導しやすい。(p52・53) ・野菜の成長を比較する視点で支柱と自分の身長との比較の写真がわかりやすい。(下p49)	・野菜の成長への気づきとして、かぐ、長さをはかるといったヒントが示されている。さらに、わかめを摘むこととたくさん収穫できたことを関連付けて考えられるようにヒントとして支援されている。(下p13・15) ・学習した内容を教科書に直接書きこむことができるため学びの振り返りがしやすい。
	⑨発展・応用的な内容についての工夫 (生活化、学問や芸術との関連付けなど)	・活動便利手帳が充実しており、国語科:話をつなごう・みつけたことを話そう など他教科との関連を意識している。また、情報教育にもつながる活動例が掲載されている。	・生き物単元で道徳との教科関連が示されている(下p39)ほか、防災安全学習(上p109)や外国語(下p134~137)との関連も図られている。 ・発展的応用的な学習への内容参考資料が豊富。(がくしゅうどうぐぼこ)	・ものしりノート(上p46~47・78~79)(下p62~63)では、話す・聞く・書く・相談する・発表するなど、国語科につながる発展的な内容が例示されている。	・理科や社会科との教科関連がされている。(例:下p29、下p117~学びのポケット) ・定点観察の視点で1年間の季節の移り変わりに気づき、発展できるように提示されている。(上p116~117)
	⑩言語活動についての工夫 (活動例の紹介など)	・伝え合う言語活動例が示されている(上p104・112)。 ・国語科との教科関連の視点から言語活動の充実が見られる(下p15・31等)。	・ページの端に「きらきらことば」「せいかつことば」など活動内で使われる言葉をまとめた項目があり、話すことや書くことの活動に取り組みやすい。	・ワークシートの書き方において、はじめ、でも、だからの指導事項が入っており子どもが書きやすい。(下p41) ・国語との関連において言語活動の充実が図れる。(上下巻末)	・国語との関連で、絵や言葉で書けるように書き方の視点が掲載されている。(下p119)
⑪問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫	・「なかはどうなっているかな」「どんなところにいるのかな」「どんな動きをするのかな」などの具体的な投げかけで身近な人やもの、自然に自ら働きかけ意欲的に学ぶ姿勢が期待できる。(上p36・58・60) ・町探検から地域の人とつながり、アサガオの学習で困ったことを地域の人に聞いて問題を解決する学習が組める。(下p12~13)	・答えを示すのではなく、子ども自身が考える、友達と比べてみるなど、自ずと子どもの思考が促される工夫がある。 ・おもちやぶりの絵で、「どうしたらとぶの」のセリフから問題を共有できる。(下p74~75)	・1年生でのあさがおの栽培の活動で得た経験をもとに、別の植物を栽培する際、「前が生かせる」「前とはちがう」等、学びの見通しを持ちながら問題解決を図ることができる工夫がある。 ・生き物の飼育単元において、「どうしたらよるこぶかな」の言葉をきっかけに授業を仕組むことができる。(下p60~61)	・「世話をしよう」では、植物の元気がなくなる、虫がつくなど問題となることや困難なことに出合った時が想定されて書かれており、問題解決的に子どもが取り組むことができる。(下p12) ・本から発展的な学びへ繋げる工夫が見られる。(下p132)	

5. 生活

発行者・教科書名	光村図書 38	新興出版社啓林館 61	日本文教出版 116
観点	せいかつ まいにち あたらしい / だいすき みつけた	わくわく せいかつ いきいき せいかつ	わたしと せいかつ みんななかよし / ふれあい だいすき
①教科目標から見た編集の適切さ (学習指導要領)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学びを「深める」「つなげる」「広げる」ことが実現できるように教科書が編集されている。</li> <li>・ホップ(やってみよう)を見つつけよう)ステップ(やってみよう)ジャンプ(伝え合おう)の順に示されており、今、何をしているか子ども教師もわかりやすい。</li> <li>・「こまったときは、みんなでそうだん」として、友だちや地域の人と対話し課題解決に向かえるようにしている。さらに社会に開かれた教育課程も意識されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「夢中になる子ども」「学びを創る子ども」「共に生きる子ども」を目指す子供像とし、子どもが自分の良さや可能性に気付き、生涯にわたって学び続ける力を育成できるよう編集されている。</li> <li>・わくわく(わくわくすること見つけよう)―いきいき(ともだちと元気に活動しよう)―ぐんぐん(みんなで伝え合おう)の順に示されており、今、何をしているか子ども教師もわかりやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「気付き」「深める」「つなげる」の3つの基本方針を設定し、子どもの学びをつくりだすような編修となっている。</li> <li>・「学びのまど」では発展的に学びを進め、自分の生活に活かしていくことができる。</li> <li>・教科書の下部に学びの評価観点(知識・技能、思考力・判断力、学びに向かう力)が活動ごとに示されており、教師も子どももわかりやすい。</li> </ul>
②教材の適切さ (新しさ、分量など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの「安心」「自信」「好奇心」を軸に、入学当初の活動を、幼児教育や他教科等の学習との接続、関連を踏まえた構成となっている。また、中学年以降の学習との各教科との接続を明確に示している。</li> <li>・もっとやってみようコーナーがある。(上下)</li> <li>・春の町たんけん作戦会議、秋の町たんけん作戦会議では、計画カードがレベルアップし内容に深まりがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生のはじめの単元において、1年生との交流が設定されている。2年生としての責任や1年生の頃からの学んできたことをもとに学校のことを伝える活動を通して自己の成長を感じられるように工夫されている。(下p6)</li> <li>・道徳の教科化に伴い、優しい絵を使って関連した学習活動が取り上げられている。(上p68～69、下p84～85)</li> <li>・WEBページが充実している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町探検では、子ども自身が町で働く姿(実際に子どもが体験する姿)を想起することができるため、主体的な子どもの姿を引き出すことにつながる。(下p71)</li> <li>・花の生長を学ぶ単元では、学習を進めるごとに、教科書を山折りにしていくと成長の過程がわかる。(上)</li> <li>・点字が実際に体験できる工夫がされており、障害を持つ人への理解を促す工夫がされている。(下p135)</li> </ul>
③単元(教材配列)の適切さ (重点内容、時期など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの主体性を引き出すために、学びを広げる工夫がされている。(上p44～45)</li> <li>・小学校の生活のスタートを不安なく楽しく進むために、学校生活の仕方が示されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・四季の移り変わりなど子どもの日常に沿った内容から学習が始められている。</li> <li>・すたあとぶつとして、学校生活が紹介されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生になってやってみようことがはじめにある。</li> <li>・1年生に自分を紹介することで、自己の成長を感じることができる。</li> <li>・「1年生になったら」では、スタートカリキュラムとして、生活面や安全面として自立して生活していけるよう示されている。</li> </ul>
④学習への動機付けについての工夫 (トピック、コラムなど)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真よりイラストが多い。</li> <li>・イラストから想起させ、自分たちの実態に移行する意図が感じられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの日常から導入できるように単元のはじめに工夫がされている。(上p21・下p27)</li> <li>・音楽や学校行事と関連付けて、子どもの日常から想起させる手立てが工夫されている。(下p10～11)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入では、子どもの興味や子ども側に立った発問が示されており、気づきの質を高めることができる。また、子どもの疑問を引き出すような写真が提示されているため、興味関心を高めることができる。</li> </ul>
⑤表記・表現のわかりやすさ (字体、文字の大きさ、文章量など)	UDフォント	UDフォント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しい字体に配慮したフォント</li> <li>・全ての漢字にルビがある。</li> </ul>
⑥写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ (大きさ、カラーユニバーサルデザインなど)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・種植えの際の絵が大きくてわかりやすい。(上p32～33)</li> <li>・実物の写真が少なく、自分たちの学びを創り上げる工夫がされている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町探検の単元において、吹き出しと挿絵で、気づきの視点(自然・生き物＝つばめの赤ちゃん、アジサイなど)が示されている。(下p33)</li> <li>・「生き物を探そう」の単元では、具体的に生き物の隠れ場所を問いかける場面において植木鉢の下を探す写真が載っており、子どもに考えさせる手立てとなる。(下p47)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の手立てが見えるイラストが効果的に示されており、学習を進めやすい。</li> <li>・ポケット図鑑が詳しく書かれている。</li> </ul>
⑦判・ページ数	AB判 258	AB判 290	AB判 280
⑧知識・技能の習得についての工夫 (学習方法の提示、練習問題など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あさがおの花が咲いた数だけ色をぬることで、天気との関係に気づくなど、学びが深まる。(上p38～39)</li> <li>・ミニトマトの成長を1枚のリーフレットにまとめることで国語と関連付けることもできる。また、気づきの変容と自分の野菜の成長を周りに伝えたいという思いの高まりも期待できる。(下p31)</li> <li>・ジャンプ大集合で1年間の学びを可視化し、自己の成長を感じることができる。(上p136 下p96)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物の生長に気づかせるために葉の数に着目させる吹き出しがある。(上p27)</li> <li>・気づきを生むために、植物の葉の手触りの例を出す工夫をしている。(下p19)</li> <li>・知識・技能の確認のために「できるかな?できたかな?」コーナーで自分たちで振り返られるようになっている。(上下)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ページの下段に、知識・技能の評価が書かれているため、子どもに気づかせたいことが明確になる。(下p50)</li> <li>・生き物の世話の仕方を、板書付きで示し、表で見やすく整理しているため比較しやすい。(下p50～51)</li> </ul>
⑨発展・応用的な内容についての工夫 (生活化、学問や芸術との関連付けなど)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節のちがいをまとめる単元がある。気づきの質が高まり、季節に関する理解が深まる。(上p106～107)</li> <li>・生活科から教科学習(社会や理科など)の視点に繋げることができる。(下p78～85)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境問題(外来種)への配慮がある。(下p55)</li> <li>・3年生の理科の内容(アゲハ蝶、とんぼ等)との関連が見られる(下p50)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昆虫の成長を比べることで完全変態と不完全変態の気づきを学ぶ工夫がされており、理科学習につながる。(下p56～57)</li> <li>・1年間の季節の変化に気づかせる工夫として、くらしの仕方(海・山・川など)住んでいる地域ごとにイラストを掲載し、社会科との関連が意識されている。(下p126～127)</li> </ul>
⑩言語活動についての工夫 (活動例の紹介など)	単元の終わりに伝え合う活動を仕組むことで、書く、話す、発表するなどさまざまな言語活動の充実が期待できる。(上下)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物を「ちょうみに見えるよ」と生き物に例えることで、国語科と関連させて書いたり、話したりするなど言語活動の充実のための工夫が見られる。(上p26)</li> <li>・記録の仕方が詳しく書かれており、言葉のヒントによって言語活動の充実が期待できる。(下p112～113)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語活動例としてイラストや吹き出し、カード、作文、漫画、感想文、新聞ポスターなど多様な例を示し、伝え合う活動を充実させている。(下p18～19、72～77)</li> </ul>
⑪問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どうすればコーナーで、課題を発見し、学びを広げる際に有効である。</li> <li>・「こまったときは、みんなでそうだん」として、友だちや地域の人と対話し課題解決に向かえるようにしている。(下p26～27)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「見方、考え方」の視点を例示することで、子どもが既に有している「見方、考え方」が発揮できるような工夫がされている。</li> <li>・野菜の単元で「せわをしよう」では、吹き出しで問いを引き出す工夫がされているため、問題解決的な学習が期待できる。(下p21)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おもちゃ作りでは、はじめにおもちゃを作ることから入るのではなく、ものを使った遊びから子どもに投げかけることで、子どもの何気ない遊びから学習を仕組み、興味関心を高め、課題意識を持たせることができる。(下p80)</li> <li>・「こんなこともしたい」で子どもが主体的に活動に取り組める。(下p78～79)</li> </ul>

6. 音楽

発行者・教科書名 観点	教育出版 17 小学音楽 音楽のおくりもの	教育芸術社 27 小学生の音楽
①教科目標から見た編集の適切さ (学習指導要領)	資質・能力を育む教材(主要部分)と、児童の実態に応じて用いる教材(オプション部分)の大きく2つに分け、様々な教育課題に対応すべく編集されている。また、「音楽のもと」(音楽を形づくっている要素)を各教材ごとに提示している。	全学年を通して次の学習指導要領の3つの柱を基本に挙げて編集されている。もくじの単元目標が子どもにわかりやすい言葉で提示されている。指導の際の目安となる共通事項が示されている。各学年の共通教材が明示されている。
②教材の適切さ (新しさ、分量など)	リズムあそびや歌唱曲、鑑賞曲、器楽曲がたくさん取り入れられている。学習内容の分量も適切である。透明シートや折り込みページがある。透明シートでの学習の確認は、児童が興味を持って取り組める。折り込みページを開くと、楽譜を開けながらリコーダーの運指を確かめられる。	各学年の発達段階に応じて新しい曲が盛り込まれており、学習内容の分量も適切である。鑑賞の教材においては、どの学年においても児童に親しみやすい曲が取り上げられており、音楽の要素と結び付けて鑑賞するように設定されている。
③単元(教材配列)の適切さ (重点内容、時期など)	1年生の鍵盤ハーモニカの学習はわかりやすく、高学年の鑑賞教材の楽譜は詳しく掲載されている。歌唱・器楽などバランス良く配置されている。「はってん中学」等が記してあり、小学校から中学校への学習のつながりもわかるようになっている。	鑑賞では学年によって、金管楽器、木管楽器、弦楽器と学ぶように配列されているので、児童は理解しやすい。また、日本の四季にあった教材も多く取り上げられており、歌唱・器楽などバランス良く配置されている。
④学習への動機付けについての工夫 (トピック、コラムなど)	教材の冒頭に目標を明記し、学習内容がイメージしやすい。3年生のリコーダーの導入ではいろいろな種類のリコーダーが紹介されており、意欲をかき立てる工夫がされている。最近のアーティストの写真を取り入れ、子どもたちの意欲・関心がわくような構成となっている。	図を使った学習方法を取り入れ、児童の思考を促す工夫をしており、学習意欲につながることを期待できる。またフィギュアスケート選手の写真などを取り入れることによって、より音楽を身近に感じるよう手立てがとられている。3年生ではいろいろな種類のリコーダーが写真で紹介されており、子どもたちの意欲・関心がわくように工夫されている。
⑤表記・表現のわかりやすさ (字体、文字の大きさ、文章量など)	大切なことが伝わりやすい字体で示してありわかりやすい。小見出しや、ページの端に、新しい学習のことが表示してある。詳しく説明も書かれている。	大切なことが伝わりやすい字体であったり、説明文が茶色で書かれていたりしてわかりやすい。また、各学年に応じた文章の量になっている。文字はよみやすい大きさに書かれている。
⑥写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ (大きさ、カラーユニバーサルデザインなど)	見開きを使った写真や、折り込みページ全体に写真がある。どの学年においても、児童の視覚に訴えかけるような豊富な写真・挿絵が入っており、歌唱曲の歌詞の様子が想像できるよう工夫されている。	オーケストラや、楽器の色が美しく映っていい写真を使用している。一つ一つの楽器の写真が大きく載っているため、楽器の構造も理解しやすい。色の濃淡が子どもの学習の助けになっている。音楽づくりなどの図も、わかりやすくコントラストがつけられている。
⑦判・ページ数	1・2年AB判 3～6年A4変型判 1年 80、2年 80、3年 86、4年 84、5年 86、6年 84	A4変型判 1年 82、2年82、3年 86、4年 86、5年 86、6年 86
⑧知識・技能の習得についての工夫 (学習方法の提示、練習問題など)	知識・技能の定着に配慮し、必要に応じて学年内または複数学年にわたり継続的に学習できるような構成となっている。巻末に音楽表現の言葉をまとめたページが設定されている。さらに、学習すべき知識が、まとめられている。「学び合う音楽」において順に課題を示している。細かいステップで学習の方法が示されている。	巻末に、知識として小学校で学ぶ内容を表として示しており、さらに薄い色は、既習事項だとわかるように工夫されている。単元の初めにその学年の子どもにわかりやすい言葉で目標が明示されている。楽典については、教科書に直接書き込めるように工夫されている。
⑨発展・応用的内容についての工夫 (生活化、学問や芸術との関連付けなど)	音楽にできること(6年p40)が掲載され、生活の中での音楽の役割を具体的な例をあげて説明している。「もっと遊ぼう」のコーナーでは、学習の深まりに対応している。各学年の音楽ランド巻頭で、教科横断として英語の歌があり、モジュールの時間等の活動ができる。目次に2次元コードがありウェブサイトでも学習できる工夫がある。	新しい芸術分野が紹介され、より身近に伝統芸能を感じられる。音の働きや役割について考えたり、古典芸能も多数紹介している。英語の歌があり、モジュールの時間等の活動もできる。ページの右端に2次元コードがある内容について、ウェブサイトでも深い学びへと繋がられる。
⑩言語活動についての工夫 (活動例の紹介など)	音楽を表すいろいろな言葉が各学年に応じて掲載されている。児童が聴きとったことを言葉で表す活動が例示されている。	全学年において、言語活動をする工夫が、学年に合った方法で示されている。キャラクターの会話を載せることで、子どもたちが学ぶ助けとなっている。
⑪問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫	「まなびナビ」など学び方を知る工夫がされていて、児童の課題に対応できる。「学び合う音楽」に『自分たちの表現をめざそう』(6年p17)があり、よりよいものを目指すように促している。	複数の学習方法が載せられており、学習状況に合わせて選択できる。「音楽の木」を見ることで、その学年での自分の課題がつかみやすくなっている。時代を超えて受け継ぐものや、音楽(芸術)にとって大切なことをはじめに掲載している。

7. 図画工作

発行者・教科書名 観点	開隆堂出版 9 ずがこうさく わくわくするね/みつけたよ 図画工作 できたらいいな/力を合わせて/ 心をひらいて/つながる思い	日本文教出版 116 ずがこうさく たのしいな おもしろいな 図画工作 ためたよみつけたよ/見つめて 広げて
①教科目標から見た編集の適切さ (学習指導要領)	基本方針は、①魅力ある題材内容の開発を行い、多様な扱いが出来る活動内容を充実させる。②授業課題・目標や表現内容を焦点化し、児童の自主的な思考・判断・表現を促す、取り組みやすい紙面や表示にする。③題材は「授業目標」と「表現内容」の2つの視点を系統的に配列する。 学習指導要領の3つの柱に沿った3つの「学習の目標(めあて)」を題材ごとに掲げている。	資質・能力を育む原動力となる「感じる・ためす・つくりだす」を基本方針に掲げて編修されている。 学習指導要領の3つの柱それぞれに親しみやすいマークを設定し、題材ごとに3つの「学習の目標(めあて)」を掲げており児童にも理解しやすい。
②教材の適切さ (新しさ、分量など)	他教科と関連づけられる等、児童の環境に合わせて多様な扱いができる題材の充実が図られている。造形活動を通じた地域や世界とのつながりを意識した題材も増えている。高学年ではICTを用いた題材の充実も図られている。(5・6年上p40・41アニメーション、p46・47アーティストの光を使った作品やプロジェクトマップピング、5・6年下p57コンピュータの活用)教材の分量は適切である。	身近な物を造形的な視点で捉えたり、試しながら制作過程を楽しくする題材の充実が図られている。他教科との関連教材や造形活動を通じた地域とのつながりを意識した題材も増えた。高学年ではICTを用いた題材も増え、中学年にも導入された。(5・6年上p18・19アニメーション、p29作品をデジカメで撮影、5・6年下p63カメラとインターネットの活用、3・4年上p30デジカメ撮った写真を加工して作品に使用)教材の分量は適切である。
③単元(教材配列)の適切さ (重点内容、時期など)	全学年を通して分野・領域ごとに目標や季節に合わせた題材や使用材料を考慮し、系統的に配列されている。 領域ごとに見ると、全学年で「絵」と「工作」が多く、「造形遊び」と「立体」は比較的少ない傾向が見られる。	全学年を通して分野・領域ごとに目標や季節に合わせた題材や使用材料を考慮し、5つの領域が系統的にバランスよく配列されている。 各題材での学びが次の活動や生活で生かせるよう工夫されている。(1・2年上p40,41)、(1・2年下p10,11→3・4年下p32,3→5・6年上p44,45)
④学習への動機付けについての工夫 (トピック、コラムなど)	キャラクターを用いて、学習のめあてに応じたヒントが示されている。各学年に一年間の学習に向けて児童の意欲を喚起する導入ページを設け、児童に向けて表現することの意味、価値、考え方などを分かりやすく伝える工夫をしている。課題や目標(めあて)を焦点化することで、児童自らが思考・判断・表現しながら作品づくりや鑑賞が出来るよう促している。	キャラクターを用いて、知識やイメージなどに関する投げかけを行い、造形的な見方・考え方が働く深い学びへと児童を導く。目標・見方・考え方・大切にしたいことを、題材下のリード文や吹き出しなどを用いながら分かりやすく示していると共に、教科書の図版(掲載されている視覚的な情報)はヒントであり、自分の力で創造することの大切さが記されている。
⑤表記・表現のわかりやすさ (字体、文字の大きさ、文章量など)	読みやすいユニバーサルデザインフォントを採用している。文章は少なめであるが、作品の説明もあり、児童にとって理解しやすい。学習のめあてを分かりやすいキャラクターと共に載せる工夫がなされている。	大きめの写真や図版、吹き出しを用いて、視覚的・直感的に題材や制作手順やヒントが理解できる。文章量は少なめであるが、作品の説明もあり、児童にとって理解しやすい。題材ごとの「学習のめあて」が黒板を模した濃い緑色の地に白字で書かれており、見やすい。
⑥写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ (大きさ、カラーユニバーサルデザインなど)	特別支援教育ならびにカラーユニバーサルデザインの観点から専門家の校閲を得て、全ての児童に教科書の内容が伝わるように編修されている。 題材名や重要な部分のフォントは大きく、「学習のめあて」は赤字だけでなく下線も引かれているので分かりやすい配慮も見られる。 また、写真や図版を多く用いて、視覚的、直感的に題材や作例や製作手順が理解できる。	特別支援教育ならびにカラーユニバーサルデザインの観点から専門家の校閲を得て、全ての児童が等しく学べるように編修が行われている。また、材料に触れる、材料の種類をしばる、感じたことを言葉だけではなく身体を使って表現する等インクルーシブ教育に対しても配慮がなされている。 見開きで1題材を扱っており、写真が大きく見やすい。
⑦判・ページ数	A4判 1年56、2年56、3年56、4年56、5年56、6年56	A4判 1年66、2年64、3年64、4年64、5年64、6年64
⑧知識・技能の習得についての工夫 (学習方法の提示、練習問題など)	作品や児童の活動の様子の写真が多く、活動内容をイメージしやすい。学年に応じた用具の使い方が、イラストや写真を使って視覚的に理解しやすいように掲載されている。 巻末の「ぞうけいの引き出し」の項目では、用具、技法、材料について写真とともに使い方が詳しく掲載されている。児童が必要な時に見ることができるよう、各題材においても参照ページが記されている。	作品や児童の活動の様子の写真が多く、活動内容をイメージしやすい。各題材で学年に応じた用具の使い方等が、図版や写真を使って視覚的に理解しやすいように掲載されている。 巻末の「使ってみよう材料と用具」の項目では材料や用具についての解説が写真・図版とともに要点を絞って記されており児童にとって見やすくなっている。
⑨発展・応用的な内容についての工夫 (生活化、学問や芸術との関連付けなど)	カリキュラム・マネジメントの一助として、題材ページに「あわせて学ぼう」として他教科との関連学習ができることが示されている。3～6年生では、用具等の英語も記載されQRコードを読み取ると発音を聞ける。このQRコードでは他にも未掲載の作品例の写真、作り方や遊び方の動画等を見ることができる。	児童の発達段階や生活経験に合わせて、幼児期との接続のページや、中学校とのつながり、地域の方に学ぶ題材が取り入れられている。道徳と関連したものには、フクロマークが示されており分かりやすい。
⑩言語活動についての工夫 (活動例の紹介など)	児童が活動している写真に添えられた吹き出しの内容がヒントとなり、言語活動の深まりを促している。	対話しながら想像を広げたり、思いを伝え合ったりする学びの場が豊富に掲載され、言語活動を促している。
⑪問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫	各学年のp18・19にある「ひらめきコーナー」では、児童の自主的な活動を促したり、問題解決できるよう、製作上のヒントや材料選択の可能性など活動の契機となるような内容表示が児童が自分で読んで分かるように工夫されている。(例:5・6年上では切り絵や吹きゴマやモビルなど、紙を切ったり折ったりして作る簡単なものが、作り方も一緒に載っている。)	偶発的に起こる事象の中で児童が試したり考えたりする場面が取れるようにしてある題材を多く掲載している。(例:5・6年上p12・13「のぞいてみると」の場合、箱に穴を開けて自分好みの光の差し込み方をあれこれ試し、感性を磨くことに重点が置かれ、問題解決的な力を身に付けさせようとしている。)

8. 家庭

発行者・教科書名	東京書籍 2	開隆堂出版 9
観点	新しい家庭	小学校 わたしたちの家庭科
①教科目標から見た編集の適切さ(学習指導要領)	教科書の冒頭に、家庭科の目標である「生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を目指す」ことが明記されている。「家庭科はあなたの生活をよりよく変えていく教科です」と表記されており、わかりやすい。	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動に重きを置いている。「はじめよう！家庭科には、生活を見つめ、できることを増やしていこう」と謳っている。
②教材の適切さ(新しさ、分量など)	5年で8単元、6年で7単元と同程度の単元数となっている。1つの単元の内容をやや多く設定している。「私の生活、大発見！」の単元では、家庭の仕事→家庭科室探検→調理器具→コンロの使い方→お茶を入れる→自分の仕事を見つげるとなっている。また、「物を生かして住みやすく」の単元では、整理整頓→掃除→物を生かす工夫となっている。	5年で11単元、6年で9単元と単元数は2学年ともやや多く設定されている。単元数が多い分、例えば家庭科学習の5年入門期では、1単元の内容を絞り、分量を少なく設定している。実習教材例は5年ランチョンマット、クッションカバー、6年で袋、エプロンとなっている。教材例も学習段階を踏んだものとなっている。
③単元(教材配列)の適切さ(重点内容、時期など)	5年と6年で関連する内容をできるだけ同時期に配置しており、学習順がはっきりしている。学習したことを生かして家庭や地域の生活の課題解決のための実践を「生活を変えるチャンス！」として、5カ所に設定してある。長期休業の時期を生かして、実践できるようになっている。5年と6年の最後に「まとめ」のページを設定し、学年間、中学校への接続がスムーズになるように配列されている。内容として「家族・家庭生活」から始まり、「食生活」、「衣生活」、「住生活」と分散させ、間に「消費生活・環境」を配列してある。特に「買い物」の仕組みや消費者の役割を重点的に5年で学習できるようにしてある。	2年間を見通した構成と題材となっている。小さいものから大きいものへ、平易なものから難しいものへと学習が系統的にできるよう配列されている。5年では基礎基本がしっかり身につくよう題材を細かく構成配列し、スモールステップで学習が積み上げられるようになっている。6年では5年の学習をもとに計画的に工夫し応用できる単元構成である。時期や季節を考慮した単元構成(例、5年の冬季に暖かく快適に過ごす着方、住まい方、6年の夏季にすずしく快適に過ごす住まい方、着方や手入れの仕方)となっている。
④学習への動機づけについての工夫(トピック、コラムなど)	大題材の導入のリード文の投げかけを考えることで、学習する意義やゴール(よりよい生活)を想定して学習に取り組むことができるようになっている。コラム「プロに聞く」では、家庭科に関連する職業の人へのインタビュー記事を掲載し、仕事や生活への興味が高まるように工夫してある。	各単元の扉の大きな写真やイラストから、この単元での「課題」に気づけるようにしてある。写真は、子どもの活動場面のものが多く、この単元で想定される活動をイメージすることができるので、学習への動機づけがしやすい。
⑤表記・表現のわかりやすさ(字体、文字の大きさ、文章量など)	1ページあたりにしっかりとした説明文・図・写真・コラムと多く掲載されている。資料ではその学習の発展的な内容とくわしい説明が書かれていて、より深く学ぶことができる。反面、授業ではどこを見るのかの指示が必要である。	各ページに端的な説明文・図・写真・資料・コラムがあり、学習するにつれて、子どもたちが自立して教科書で学べると思われる。各ページのひとコマは、その学習での知識がわかりやすく説明されていて、分量も多くなくて読みやすく、ポイントが頭に入りやすくなっている。
⑥写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ(大きさ、カラーユニバーサルデザインなど)	イラストや写真を豊富に載せている。実習の手順の中では考えるポイントをキャラクターの吹き出しで示したり、ミシンの製作実習(p69)では説明している部分の縫い目を太くして、取り組みやすい。ミシンの扱い方については、大きなイラストで数ページにわたって丁寧に説明されている。	製作活動での手縫いやミシンの操作や製作物の手順は重なりが見やすさを配慮した写真や拡大図が示されている。(p22、23玉結び)実習ページなどプロセスが大事な内容(p50～53)は横流れのレイアウトに統一しており、写真や図版が大きく示しており、見やすい。
⑦判・ページ数	A4判 146	AB判 138
⑧知識・技能の習得についての工夫(学習方法の提示、練習問題など)	知識・技能の定着のために、学習の目標と評価を重視し、全ての小題材の始めに「学習のめあて」、終わりに「ふり返ろう」があり、学習内容が定着するようにしてある。家庭科の基本用語は太字にして目立つようにしてある。巻末に10ページにわたり、調理分野(包丁の扱い方や切り方、食材の洗いや計量の仕方)や製作分野(手縫いの玉結び、玉どめ、運針、アイロンのかけ方、布の裁ち方、ミシンの扱い方など)が細部にわたり実物大写真等を使って丁寧に説明がある。調理製作実習での基礎基本の確実な定着が期待できる。また、デジタルコンテンツ(動画)が巻頭のバーコードを通して、多数用意されている。	5年から6年へと簡単なものから繰り返し積み上げていく単元構成となっていることと5年の最初の調理実習では特にスモールステップで繰り返しやることで基礎基本の定着が図れるようになっている。巻末の資料(布の裁ち方、縫い方、包丁の使い方、皮の剥き方)や実習ページにあるデジタルコンテンツを活用することで、より基礎基本の定着が期待できる。ページ右上にあるQRコードを利用することで、タブレット等を使用すれば、身近で動画を見ることができ、視覚に訴え、技能の定着が図れるようになっている。
⑨発展・応用的な内容についての工夫(生活化、学問や芸術との関連付けなど)	活動4深めよう(例p126)において、学んだことを生活に活かせるコラムが有効である。新設の「買い物」の仕組みや消費者の役割の内容に、色々な買い物(形のない買い物)やインターネットでの取引に触れてある。(p34、35)中学校での「売買契約の仕組みや消費者の権利や責任」など消費者としての素地をつくる内容となっている。	単元の終わりに「生活に生かそう」というコラムがあり、学習したことをどのように生活に生かしていくのかを投げかけている。また、中学校を見据えて、消費者としての素地を作る内容(p58～63)が設けられている。巻末に生活の中にあるプログラミングについての説明がある。
⑩言語活動についての工夫(活動例の紹介など)	学習したことを生かして、家庭や地域の生活の問題解決のための実践を「生活を変えるチャンス！」として、5カ所(p31、61、95、115、128)設定されている。実践したことをまとめて発表する方法として、文章や写真を使ったレポート、ポスター、新聞、スクラップにまとめたものを使って思考を整理したり、表現の仕方の参考にしたりできるように例示がある。	「レットトライ生活の課題と実践」のコーナー(p76～79)で学校や地域で実践できることを話し合ったり、実践したことをまとめた活動が示されている。発表の仕方も実践報告会に向けて新聞やプレゼン資料を作るように示しており、学びを広げ、深め、生かす工夫がされている。
⑪問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫	全ての単元を「1見つけよう」→「2計画しよう・実践しよう」→「3生活に生かそう・新しい課題を見つけよう」の3つのステップで展開してある。また、学校で学習したことを生活に生かして問題解決的に生活の課題に取り組めるよう、「生活を変えるチャンス！」が設けられている。学期末にこれまでの学習を生かしてできる取り組み例とまとめ方の例を複数掲載してあるので、生活の中で課題発見しやすい。	各単元は全て問題解決のプロセスに沿った3つの活動で展開できるようになっている。「1見つける・気づく」→「2わかる・できる」→「3生かす・深める」としてあり、単元最初のページにそのプロセスについての学習のめあてが示されている。さらに、各学期の終わりには「チャレンジコーナー」を設け、学んだことを家庭実践につなげられるように製作例や調理例を豊富に掲載してある。新設の「生活の課題と実践」では、家庭や地域、学校での実践など複数の課題例をあげ、選んで実践できるようにしてある。

9. 体育(保健)

発行者・教科書名	東京書籍 2	大日本図書 4	文教社 207	光文書院 208	学研教育みらい 224
観点	新しい保健	たのしい保健	わたしたちの保健	小学保健	みんなの保健
①教科目標から見た編集の適切さ(学習指導要領)	他の教科とのつながりや学習の進め方が明記され、教科横断的な学習に取り組みやすいよう構成されている。	健康や安全について考えることで、よりよい人生の創り手となる力が育まれるような編修となっている。	学校現場での実態や実践を踏まえ、学習を子どもの側から捉え、内容を構成している。	疾病等のリスクを軽減し、生活の質の向上を図り、健康に関する課題を適切に解決できるような編修となっている。	単元ごとに「もっと知りたい、調べたい」が設定され、児童の関心に応じて学習を深めることができるような編修となっている。
②教材の適切さ(新しさ、分量など)	心の健康における不安や悩みを表に書き込み、今の自分の心の状態を把握しやすく構成されている。1項目を4ページで構成し、見直しを持って学習できるようになっている。ワークシートを使用しなくても教科書のみで学習できるよう構成されている。QRコードを読み取れば簡単に動画や画像を見られるよう工夫されている。新しい情報はあまり多くないが、中心となる学習内容に紙面が使われている。	様々な不安や悩みの例を挙げ、それぞれの解決方法を挙げている。スクールカウンセラーやユニバーサルデザインについても説明があり、時代に合った資料が掲載されている。見開き2ページに、危険個所に目を向けさせるなどの工夫がなされている。単元の最後には、必ず振り返りのワークシートがあり、自己評価ができるようになっている。巻頭にQRコードが掲載されていて、関連した情報が見られるサイトにつながる。	不安や悩みを記述式で書き、今の自分の気持ちを見える化させる構成である。単元の最後にワークシート(「みんなで宣言しよう」)があり、学習したことを踏まえ、これからの生活に向き合うことができる工夫がされている。QRコードから文教社のHPにつながり、各省庁や関係諸機関の資料が見える。流行に沿った新しい課題よりも中心となる学習に紙面が割かれている。	不安や悩みに関わる資料を多く掲載し、様々なアプローチで解消できることを考えさせる構成である。インターネットの正しい使い方や犯罪被害の例、歩きスマホなどを取り上げ、時代に即している。QRコードを利用し、怪我の手当の動画や関係資料が見える。身近で新しい情報が多く、児童の関心を引き付けるよう工夫されている。学習するための情報量が多いので、授業の流れによって様々な形式がとることができる。	不安や悩みの対処方法を多く挙げ、自分に合った方法を選びやすく構成されている。手の洗い方など児童にとって身近なことについて詳しく表記され、児童の関心を引き付けるよう工夫されている。パソコン、タブレットの情報モラルについてもふれている。QRコードを読み取ると教科書サイトから様々な動画や資料が見えるよう工夫されている。自然災害、緊急事態など、現代の問題にもふれている。学習の内容が絞られていて、児童の興味や関心が教材に向くように作成されている。
③単元(教材配列)の適切さ(重点内容、時期など)	学習指導要領の配列に合わせた各学年の配列となっている。自然災害、感染症の分野がある。保健の内容について系統性のある指導ができるように、マークをつけて小学校の保健の他学年の内容と関連を図っている。	授業ごとの目標がタイトルとともに明示されている。心の健康・けがの防止が5年生、病気の予防は6年生の学習内容となっている。自然災害を発展として、取り上げられている。各単元の終わりに振り返りがあり、学習をまとめることに重点が置かれている。	5年(心→けが)、6年(病気の予防)、喫煙・飲酒と年齢に応じた教材配列になっている。各単元のタイトルとともに学習内容が明示されている。教科目標に準じて適切に単元が配置されている。レベルアップとして発展的に考えさせる場面が設定されている。	心の健康、けがの防止は5年生、病気の予防は6年生の学習内容となっている。喫煙や飲酒については、6年生の学習と位置付けられ、年齢に応じた内容となっている。3年生の「けんこうな生活」では、日常のイラストから身の回りの環境へと単元が配列され、4年生「体の発育・発達」身長や服の変化から第二次性徴へと配列されている。	3年生の「けんこうな生活」では、一日の生活の仕方から身の回りの環境へと単元が配列され、4年生「体の発育・発達」では身近な身長の変化から第二次性徴について分かりやすく適切に配列されている。5年(心→けが)、6年(病気の予防)、喫煙・飲酒と年齢に応じた教材配列になっている。
④学習への動機付けについての工夫(トピック、コラムなど)	キャラクターを見つけることで危険なことについて考えることができる。絵からの導入、そして写真で理解を深めるという流れがつかみやすい。「育ちゆくわたしたちの体」では、1歳のころの手形や靴が実物大で掲載されており、児童の理解を深め関心が高まるよう工夫されている。	各単元のはじめの活動に「話し合ってみよう」が多く、単元に関心に向く工夫がされている。「ミニちしき」として、そのページに関連した情報が掲載されている。学習のまとめをシールを用いて行うなど児童の関心が高まる工夫がなされている。キャラクターを用い、注目を集める工夫が存在する。	「あなたならどうする」という考えさせる場面が所々にある。ページの最後に補足情報を載せている。絵を見せながら考えさせる動機付けとしていどころがわかりやすい。学習内容が分散しないよう、情報量を減らし、より学習内容にそって紙面が構成されている。	具体例をイラストで示し、「絵のような経験はありませんか?」という問いかけがなされ、学習への動機づけがなされている。スポーツ障害(野球ひじ、オスグッド症)など児童に身近な話題が多く取り上げられている。有名スポーツ選手のインタビューを掲載し、興味関心を惹く内容である。	「はってん」の資料が豊富で児童の関心や授業の流れに合わせて授業展開をすることができる。「こんな経験したことがありますか?」というような子供の日常に關した発問から始まり、動機付けとしてはよい。
⑤表記・表現のわかりやすさ(字体、文字の大きさ、文章量など)	キーワードが単語ではなく文章になっている。文字がやや小さいが、詳しく説明が書かれており、情報量が多い。キーワードや学習の中心内容が太字で表記され、一目でわかるよう工夫されている。	学習のポイントを授業を通して学習できるよう太字や色付けなどがされている。本文が丸文字となっていることで、柔らかい印象を感じられる。本文は、太字にする箇所がなく、全体的な知識の定着を図るのに適している。また、文字の量は、比較的少なく、学習の要点が端的にまとめられている。	キーワードが単語だけでなく、太字で文章になっている。該当学年の漢字について、学習がスムーズに行われるように、見開き2ページ単位で、その初出時にルビが付けられている。中心的な学習内容について色付けが行われており、一目でわかるよう構成されている。	名詞や単語のみを太字にするのではなく、文章(文節)を太字にすることで、定着させたい内容を強調している。また、ルビを振ることで、読みやすい。文章量はやや少なく、絵を効果的に用いている。	キーワードが太字で見やすい。ルビがふられている。文章量は適切で読みやすい。目次の前に、5・6年生、2年間における保健体育の学習の見通しが持てるページが設定されている。
⑥写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ(大きさ、カラーユニバーサルデザインなど)	挿絵が多い中、インパクトのある写真や、資料性の高い図版を効果的に示し、大きく見せている。生活に即した写真が多い。イラストを用いて、実際の生活とのつながりを感じやすい。挿絵や写真では、固定的なイメージで性の区別をしないような工夫がされている。	絵本のようなイラストが多く、児童が親しみを感じやすいよう工夫されている。挿絵の間隔にゆとりがあることで、見やすい構成となっている。付箋を付けたような記号を活用し、視覚的に訴える(目を引く)工夫がなされている。	写真より絵の量が多い。イラストが多く児童が親しみやすいように構成されている。学習課題と学習課題とのつながりの部分に、キャラクターが吹き出し等を使って、分かりやすく説明するような工夫が施されている。	写真や挿絵は比較的大きく使用されており、視覚に訴えている。また、絵よりも写真が多く用いられているため、本物をイメージしやすい。絵については、柔らかい雰囲気イラストが使用されている。写真やイラストの横に小さな文字で詳しく説明が書かれており、情報量が豊富である。	文章通りの挿絵が見やすい。イラスト中心で、字よりも目で見て理解しやすい。写真が豊富に使われており、また、イラストも写実的で身近な生活とのつながりをより意識しやすい。4年生の「体の発育・発達」ではイラストと棒グラフが一体となり、児童の理解が深まりやすい工夫がされている。
⑦判・ページ数	A4判 3・4年46、5・6年82 ワークシートを使用しなくてもいい程、書き込むスペースが多く構成されている。	AB判 3・4年40、5・6年58	A4判 3・4年34、5・6年54	A4判 3・4年42、5・6年66	A4判 3・4年38、5・6年58
⑧知識・技能の習得についての工夫(学習方法の提示、練習問題など)	気づく、見つける、調べる、解決する、深める、伝える、まとめる、生かす、ふりかえるの構成になっているので、授業を展開しやすい。学習活動がステップ別に分かりやすくまとめられていて、児童が調べたりまとめたりできるようになっている。	どのページにも下段にミニ知識が載っていて、児童へのアドバイスやもうちょっと知ってほしいことなどが短い言葉で書かれている。単元を「課題をつかもう」「話し合ってみよう」「活用して深めよう」「単元のまとめ」という展開にし、課題解決に向けた構成となっている。また「活用して深めよう」では記述欄を設け、多様な考えが出されることが期待できる。	やってみよう、話し合ってみよう、新しい自分に、わたしの〇〇宣言が記述欄となっていて、考えを深めやすい。学習活動が多く盛り込まれていて、ページの欄外には短い言葉で学習の補助的内容が書かれており、知識の定着を図る工夫が見られる。	はじめに、自分の生活を振り返るところから学習が進められる。次に、学習課題を解決するために、資料を読み取るなどの活動を行っている。学習の後半には学んだことを自分の生活に生かすために記述欄を設け、学習の定着を狙っている。テーマに合わせて話し合う活動が多く盛り込まれている。	つかむ、考える、話し合う、まとめるなどわかりやすく構成されているので、理解しやすい。学習のふりかえりのページが作成されていて、学習したことがさらに定着するように文章でまとめる形式がとられている。
⑨発展・応用的な内容についての工夫(生活化、学問や芸術との関連付けなど)	単元の最後に資料として発展的な内容を載せている。学習する上で必要になる資料や写真が載っていて分かりやすく仕上がっており、他教科との関連についても明記されている。他教科とのつながりを示し、目標に進んでいきやすい。	載っている資料の横にそれを学習したページが記載されていて、児童が分からない時にフィードバックできるように工夫されている。単元の各所に「☆発展」という欄を設け、既習事項をより深められる工夫がされている。また中学校で習う分野を掲載し、学習の流れが分かりやすく構成されている。	新しい自分を記述式で考えさせることで、自分の思いをまとめ、レベルアップさせている。発展が各ページに細かく配列されていて、わかりやすい。体力を示す資料と生活習慣を示す資料の関連から、自分を見つめ直して考えることができるように、資料が提示されている。	「広げよう 深めよう」では、知識をさらに深めることができるような医学的な内容や中学校で取り扱われる内容も発展として掲載されている。数単元ごとに「さらに広げよう、深めよう」が設定されている。児童の様々な関心に対応することができるよう編集されている。	「もっと知りたい、調べたい」というページがあり、中学校で習う分野も発展として取り扱っている。保健で学習したこと、学年で学習している他教科との関連についての資料や情報が載せられている。
⑩言語活動についての工夫(活動例の紹介など)	考えさせる、話し合わせる内容が多い。実習として体を動かす内容もある。調べる・解決するコーナーや章の終わりの学習を振り返るページで、話し合ったことや自分の考えをまとめるようになっている。	学習が始まる際には、話し合っ課題が共有できるようにしている。学習したことを活用して深める際には、文章でまとめる形式がとられている。「活用して深めよう」では、記述欄を設けることで、より多様な考えが引き出され、活発な意見交流につながる。「話し合ってみよう」も同様に、「話す」という活動が保障されている。	〇〇宣言を書かせたあと、交流ができるようになっている。新しい自分にレベルアップするために、学習活動の最後にはいつも文章で自分の考えや感じたことをまとめる形式がとられている。	「話し合おう」など、絵を提示し、そこから個々が考えたことを交流できる構成が見られ、言語活動の充実が期待される。「生かそう・伝えよう」というコーナーで自分が考えたことや思ったこと、インタビューしたことをまとめて記入できるようになっている。	各分野の最後には「まとめる、深める」として事例をもとに考えさせる場面を設定している。学んだことを活用するために、自分の言葉や行動を記入できるようになっている。
⑪問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫	ふりかえりで◎○△など自己評価ができる。課題を発見でき、生活に生かす工夫がされている。インターネットを活用した学習ができるように、Dマーク(QRコード)が記載されていて、児童がすぐに調べることができるようになっている。	インタビュー、本や新聞で調べるだけでなく、楽しいほけんのウェブページにすぐにとべるようにQRコードが記載されている。まとめ・振り返りから、自己課題を発見し、生活に生かす工夫がなされている。	単元の最後にレベルアップとして「あなたならどうする」として記述式で課題を考えさせる場面がある。もっと知りたいというコーナーでは、児童が関心を抱きやすいような資料と共に、新たな課題が発見しやすくなるような流れになっている。	日本スポーツ振興センターのデータなどを取り上げ、そこから見えてくる課題などが交流できる。さらに、それをもとに、これまで自分が経験したこととつながられる内容となっていて、学んだことを生かすための記述欄も設定されている。話し合いを多く取り入れ、様々な児童の意見を交流することで、学習課題に迫れるように工夫されている。	1時間の授業の中で導入では健康の課題をつかみ、展開で資料を読み取り、よりよい解決の方法を考えることができるようになっている。学習課題に対して、自分の考えを持った上で、交流をして考えを深めることができるように作成されている。



10. 外国語(英語)

発行者・教科書名	東京書籍 2 NEW HORIZON Elementary English Course	開隆堂出版 9 Junior Sunshine	学校図書 11 JUNIOR TOTAL ENGLISH	三省堂 15 CRWON Jr.
①教科目標から見た編集の適切さ (学習指導要領)	英語を通じて主体的に他者や世界とつながる心とグローバル社会を生きるために必要なコミュニケーション能力の基礎を育てられるように編修されている。だれもが「もっと学びたい」「英語の授業は楽しい」と思えることを目指している。	意味のある生きたコミュニケーションにつなげることや「読むこと」「書くこと」の基礎を養うこと、児童の日常生活に密着した題材を設定することを基本方針とし、外国語を使って豊かなコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を目指し編修している。	多様性を前提とした問題解決能力の育成を基本方針とし、「繰り返しのなかから英語を理解する力」、「身近な交流を通して英語を創造的に使う力」、「英語を通して学びを広げようとする姿勢」を育てる編修となっている。	「学びに向かう力」や「ことばを使う力」、「考える力」、「他とかかわろうとする心」を育てることを編修の基本方針とし、英語教育を通して、確かな学力、国際社会に対応できる資質・能力と、豊かな人間性を育成することを目指している。
②教材の適切さ (新しさ、分量など)	社会科や国語科などに関する単元が組み立てられており、他教科と関連付けて英語を学習できる内容になっている。また、関連した教科を各活動のアイコンの横に示している。4技能別に動物のキャラクターが示され、5領域のアイコンも記されているため、学習内容を把握しやすい。 「Summer Vacations in the World」では、聞くことやゲームを通して活動に慣れ親しむ中で、話す活動を取り入れている。段階を踏んで最後にはペアやグループの中で発表をする。毎時間1文を書く活動がある。単元末には作文を書く活動になる。夏休みを単に発表するだけでなく、世界の夏休みの過ごし方を知る活動がある。	家庭科や社会科などに関する単元が組み立てられており、他教科と関連付けて英語を学習できる内容になっている。また、目次ページで該当の単元がどの教科と関連しているのかが示されている。4技能5領域は各活動のめあての横にマークで表されている。 「My Summer Vacation」では、チャンツやゲームで活動に慣れ親しむ活動を他者に比べて多く取り入れている。書く活動については、最後にまとめて3文を書く作業を取り入れている。他の仲間の夏休みを紹介する活動がある。	他教科と関連した内容や、外国の文化などについて、各単元の中で、地球アイコンで扱っている。単元末のコラムには、世界や英語に関する豆知識が紹介されている。課題ごとにアイコンで4技能5領域が示されている。 「I went to my grandparents' house」では、聞く活動から話す活動を通じて、それに関連した1文を書き写しの作業も入れながら書く活動を取り入れている。単元末には自分の夏休みについて4文で表す。夏休みに限定せず、行事食や世界に行った日本人などを交えた活動を取り入れている。	社会科に関する単元が組み立てられており、他教科と関連付けて英語を学習できる内容になっている。4技能5領域は各活動のタイトルのところにアイコンで記されている。 「I went to Hawaii」では、チャンツや聞く活動で慣れ親しんだうえで、話す活動が取り入れられている。書く活動については、単元の最後に設定しており、毎時間ごとに設定はされていない。絵日記を作る作業を取り入れ、絵と文章で思い出を表現できるようにしている。
③単元(教材配列)の適切さ (重点内容、時期など)	5年生では、自分紹介、地域紹介、日本紹介と、年間3回、各単元でつけた力を用いてスピーチに挑戦する教材配列になっている。6年生では、3学期に中学校進学に関連した単元が組み立てられており、児童の教材への関心が高まる時期について配慮された教材配列になっている。	5年生では、「Project」が年間2回設定されていて、児童がクイズやゲームの仕方を説明したり、自己紹介をしたりする等、各単元でつけた力を用いて友達の前でアウトプットする教材配列になっている。6年生では、3学期に中学校進学に関連した単元が組み立てられており、児童の教材への関心が高まる時期について配慮された教材配列になっている。	5年生では、年間10単元、各単元で5時間扱いで統一されているため、どの単元でも同じペースと方法で進められるよう配慮された教材配列になっている。6年生では、3学期に中学校進学に関連した単元が組み立てられており、児童の教材への関心が高まる時期について配慮された教材配列になっている。	「HOP/STEP/JUMP」に適した単元が位置付けられ、各単元でつけた力を用いてプレゼンテーションに挑戦する教材配列になっている。
④学習への動機付けについての工夫 (トピック、コラムなど)	児童にとって身近な題材を取り上げている。各単元の最後に「Over the Horizon」で、日本から見た世界と世界から見た日本を様々な観点から紹介している。	児童にとって身近な題材を取り上げている。「Let's watch and Think」では、日本から見た世界と世界から見た日本を各単元に合わせて紹介している。	児童にとって身近な題材を取り上げている。教科書の冒頭に、英語が使用されているシーンや職業などが示されており、児童が英語を使う姿をイメージしやすい。また、各時間におけるターゲットセンテンスが左上に示されている。	児童にとって身近な題材を取り上げている。大単元の始めの「HOP」では、児童がゴールの活動に取り組むための目的を記入することで、より意欲的に取り組めるよう工夫している。巻末では、外来語や英語が話されている国について紹介している。
⑤表記・表現のわかりやすさ (字体、文字の大きさ、文章量など)	統一されたフォントで、児童にとって見やすい大きさと表されている。	統一されたフォントで、児童にとって見やすい大きさと表されている。	統一されたフォントで、児童にとって見やすい大きさと表されている。	統一されたフォントで、児童にとって見やすい大きさと表されている。
⑥写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ (大きさ、カラーユニバーサルデザインなど)	図や写真などは、多くの人に見やすい色使いや大きさにしている。「Enjoy Communication」の「Step1」等では、英文の品詞に統一された色が塗られており、児童の文構造への直感的な気づきを促すような工夫がなされている。	図や写真などは、多くの人に見やすい色使いや大きさにしている。	図や写真などは、多くの人に見やすい色使いや大きさにしている。	図や写真などは、多くの人に見やすい色使いや大きさにしている。
⑦判・ページ数	5、6年A4判、5・6年(別冊)AB判 5年 106、6年 106、5・6年(別冊) 50	AB判 5年 142、6年 150	A4判 5年 162、6年 158	AB判 5年 142、6年 138
⑧知識・技能の習得についての工夫 (学習方法の提示、練習問題など)	「Picture Dictionary」で、興味・関心、必要性に応じて語彙の確認や練習ができる。また、「Picture Dictionary」とリンクして、ページ下に、教材と関連する語彙を「Word Link」として載せている。「Check Your Steps」で自分の紹介をふりかえることができる。また、6年生では、書く活動に関する知識・技能の補助的な工夫がなされている。また、QRコードを読み取ることで、基本的な語彙や表現の音声視聴でき、授業以外に家庭学習などでの活用もできるようになっている。	巻末の「ふろく」のところで学習内容を項目ごとに振り返ることができるようにしている。単元末の「ふりかえりしよう」では、項目ごとに自己評価をできるようにしている。QRコードを読み取ることで、基本的な語彙や表現の音声やアルファベットの書き方動画などを視聴でき、授業以外に家庭学習などでの活用もできるようになっている。その際、児童に向けてQRコードの読み取りによる過度のインターネットの使用について注意を促すアナウンスが画面左上に示されている。	教科書の冒頭の「Pre-Lesson」では、基礎的な英語の挨拶や教室英語、アルファベットの書き方の確認をしており、既習事項をふり返りやすい。単元末には「Check Time」で単元の活動を項目ごとに自己評価することができるようになっている。また、QRコードを読み取ることで、語彙の練習ページにジャンプする。画面の絵をタップすることで、その絵の表す語彙の音声視聴でき、授業以外に家庭学習などでの活用もできるようになっている。	教科書の冒頭では、基礎的な英語の言葉や教室英語を確認しており、既習事項をふり返りやすい。「Presentation」のふりかえりで活動を自己評価することができる。「Jump」の終わりに「まとめとふりかえり」があり、児童は言葉で自己評価ができると同時に次の活動への展望を持たせるような内容も示されている。QRコードを読み取ることで、基本的な語彙や表現の音声や動画、チャンツ、歌などを視聴でき、授業以外に家庭学習などでの活用もできるようになっている。
⑨発展・応用的な内容についての工夫 (生活化、学問や芸術との関連付けなど)	「Check Your Steps」では、各単元で書いたワークシートなどを保管・蓄積しておき、相手に英語でメッセージを伝えられるようになっている。「学び方みつけた!」では、「書くこと」や文構造について詳しく踏み込んだ内容となっている。	「Project」では、既習の語彙や表現を活用して、友達と様々なやりとりができるようになっている。また「チャレンジ」では、様々なテーマを取り上げており、それぞれの興味・関心に応じて学習内容を深められるようになっている。	「Project Time」では、既習内容を活用して友達と意見交流できるようにしている。	「Presentation」では、児童が目的をもってゴールを設定し、既習内容を活用して友達に自分の意図することを発表することができるようになっている。
⑩言語活動についての工夫 (活動例の紹介など)	見聞きごとに、児童に内容を推測させるよう「Small Talk」が設定されている。単元末の「Enjoy Communication」の箇所では、児童が既出の語彙や表現をコミュニケーションに活用しやすいよう、例文や説明を丁寧に載せている。	「Let's Try」では、言語活動の場面設定のみ紹介されている。活動の具体例や、目的・方法・状況などは載せていない。	「Use & Check」では、手本をもとに、単元で学んだ語彙や表現などを用いて、友達とコミュニケーションができる紙面構成になっている。	「Jump」では、活動の流れが丁寧に説明されている。目的、注意点、評価なども提示されていて、児童も教師も見通しをもって準備をし、意識しながら取り組むことができるようになっている。
⑪問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫	「Check Your Steps」で、これまでの活動を振り返り、さらに発展させ、修正なども加えながら、スピーチに挑戦できるようになっている。「Picture Dictionary」はこれまでの既習の表現が一覧で確認できるつくりになっていて、英語の語句の書き写しや、語句の練習などの時に役立てられるようになっている。	「Project」では、既習の語彙や表現を活用して、目的意識や相手意識を持って様々なやりとりができるような構成作りになっている。	「Project Time」では、既習内容を活用して意見交流する際、相手意識や目的意識を持って取り組む作りになっている。5年生は既習の語彙に限りがあるので、発表用シートに絵や写真をまとめ、発表する際の手立てにしている。	年間3回設定されている「Presentation」に向け各単元を学習していく仕組みになっていて、教師も児童も学習の見通しが立てやすい。また、「Presentation」では発表者の立場から聞き手はどうすれば伝わるか、目的意識を高める作りになっている。

10. 外国語(英語)

発行者・教科書名 観点	教育出版 17 ONE WORLD Smiles	光村図書 38 Here We Go!	新興出版社啓林館 61 Blue Sky elementary
①教科目標から見た編集の適切さ (学習指導要領)	各単元で、どんなことをするのか、どんなことができるようになるのかを明確に示しており、言語や文化についての幅広い知識と教養を身に付け、その能力を伸ばしながら創造性を培い、主体的に社会の形成に参画できる態度を養えるように編修されている。	「豊かな心」「言葉を使う力」「学びたい意欲」を育むことを基本方針とし、「言葉・文化・価値観の異なる多様な人々と気持ちや考えを伝え合い、主体的に課題に向き合い、協力して平和な世界を築こうとする開かれた心をもつ人を育てる」ことを目指した編修となっている。	児童が興味をもって、みんなといっしょに学べることや、保護者が子どもの成長を感じながら子どもとともに学べることを基本方針に、これから多様化していく社会の中で、様々な人々と協働しながら持続可能な社会の担い手となる子どもに必要な資質・能力を培うことができる編修となっている。
②教材の適切さ (新しさ、分量など)	移行期教材に非常に近い紙面や単元の構成になっている。社会科学と国語科に関する単元が組まれており、他教科と関連付けて英語を学習できる内容になっている。「Look at the World」では、外国の生活や文化などについて紹介している。活動のめあてのところに、4技能5領域のマークが添えられている。「My Summer Vacation」では、映像や聞き取りから始まり、ゲームで慣れ親しんだうえで、伝え合う、尋ねるという話す活動を取り入れている。単元末で書く活動をするが、そこまでに文を書く書く活動はない。絵日記の具体例が複数挙げられており、書き方の参考になる。	単元ごとに設定されている「World Tour」や世界の友達では外国の生活や文化などについて紹介している。一部の「FunTime」では、教科とつなげた活動が設定されていて、教科名も記載されている。言葉について考えようでは、国語科の学習を生かし、言葉の使い方や伝え方を考えるようになっている。4技能5領域は、活動のタイトルのところにマークで示されている。「My Summer Vacation」では聞く活動や映像を見たり、チャンツをしたうえで、毎時間ごとの書く活動(1文)を取り入れている。単元末では、書く活動のまとめとして夏休みの一番の思い出についてのポスターを作り、クラス内で交流する活動がある。	年間3回設定されている「REVIEW」で、国語科と算数科の内容と関わる活動が設定されていて、他教科と関連付けて英語を学習できる内容になっている。活動のタイトルの横に、4技能5領域がマークで示されている。「My summer vacation was great.」では、毎時間に聞く活動やチャンツを取り入れ、そのあとに書く活動となる。書く活動は毎時間設定されており、段階を踏んだ構成となっている。単元末では絵日記を書く活動をする中で、書く活動のまとめを行っている。
③単元(教材配列)の適切さ (重点内容、時期など)	自己紹介、学校、地域、国内、国外と、少しずつ広い世界に目を向けて活動できるよう配慮された教材配列になっている。	各単元が「HOP/STEP/JUMP」と位置付けられている。紹介、伝える、たずね合う、受け答えをするという単元に適した言語活動に配慮された教材配列になっている。	自己紹介など自分のことを表現する力をつけ、さらに他者紹介等と、少しずつ広い世界に目を向けて活動できるよう配慮された教材配列になっている。
④学習への動機付けについての工夫 (トピック、コラムなど)	児童にとって身近な題材を取り上げている。「Look at the World」では、外国の生活や文化などについて紹介している。	児童にとって身近な題材を用いて、「World Tour」や世界の友達では外国の生活や文化などについて紹介している。また、各時間における目標が左上に示されている。	児童にとって身近な題材を用いて、各単元末の「Did you know?」では外国の生活や文化などについて紹介している。
⑤表記・表現のわかりやすさ (字体、文字の大きさ、文章量など)	統一されたフォントで、児童にとって見やすい大きさを表されている。	統一されたフォントで、児童にとって見やすい大きさを表されている。	統一されたフォントで、児童にとって見やすい大きさを表されている。
⑥写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ (大きさ、カラーユニバーサルデザインなど)	図や写真などは、多くの人に見やすい色使いや大きさになっている。	図や写真などは、多くの人に見やすい色使いや大きさになっている。	図や写真などは、多くの人に見やすいやさしい色使いや大きさになっている。
⑦判・ページ数	AB判 5年 146、6年 146	AB判 5年 161、6年 163	AB判 5年 138、6年 138
⑧知識・技能の習得についての工夫 (学習方法の提示、練習問題など)	教科書の冒頭では、基礎的な英語の言葉や教室英語、アルファベットを確認しており、既習事項を振り返りやすい。単元末の「レッスンをふりかえろう」で単元の活動を項目ごとに自己評価することができる。巻末では学習した言葉を項目ごとにまとめられている。また、6年生では、書く活動に関する知識・技能の補助的な工夫がなされている。目次ページに配されたQRコードを読み取ることで、出版社の「まなびリンク」というページにジャンプする。そこから、単元ごとに分けられた基本的な語彙や表現の音声や動画、チャンツ、歌などを視聴でき、授業以外に家庭学習などでの活用もできるようになっている。	教科書の冒頭では、基礎的な英語の会話や言葉、教室英語、アルファベットを確認しており、既習事項を振り返りやすい。単元末の「ふりかえろう」で単元の活動を自己評価することができる。巻末の絵事典では学習した言葉や表現が項目ごとにまとめられている。「学びのパスポート」では、英語で表現できるようになった自分のことをまとめることができるようにしている。QRコードを読み取ることで、基本的な語彙や表現の音声や動画、チャンツ、歌などを視聴でき、授業以外に家庭学習などでの活用もできるようになっている。ダイアログを視聴する箇所では、登場人物がアニメーションで動いたり、キーワードを画面に表示したりすることで児童の理解が促される工夫がなされている。	教科書の冒頭の「Pre Unit」では、基礎的な英語の表現や言葉、アルファベットを確認しており、既習事項を振り返りやすい。単元末の「Looking back」では項目ごとにできた・できないの自己評価をできるとともに、うまくいかなかったことや次の学習への展望などを書けるようになっている。巻末の「Word List」では、学習した言葉が項目ごとにまとめられている。また「Can-Do List」で1年間の学びをふり返り、6年生へのスムーズな移行が意識できるようにしている。QRコードを読み取ることで、基本的な語彙や表現の音声や動画、チャンツ、歌などを視聴でき、授業以外に家庭学習などでの活用もできるようになっている。また、速度調節の機能が付いており児童の実態に合わせた指導を行いやすくする工夫がなされている。
⑨発展・応用的な内容についての工夫 (生活化、学問や芸術との関連付けなど)	「Final Activity」では、活動内容が詳しく提示されており、既習内容を活用して友達と意見交流できるようになっている。	「You can do it!」では、既習内容を活用して友達と意見交流できるようになっている。また聞くときの留意事項が提示されている。	「Review」では、提示された資料をもとに既習内容を活用して、意図することを伝えることができるようになっている。
⑩言語活動についての工夫 (活動例の紹介など)	「Final Activity」では、児童のやり取りで使うキーフレーズが的確に提示されている。このキーフレーズは必ず含んだ自然な会話のアレンジが担任や児童の実態で可能である。活動の具体例や、目的・方法・状況などは載せていない。	「You can do it!」では、やり取りの中で気をつけたいことが的確に提示されている。活動の具体例や、目的・方法・状況などは載せていない。	「Activity」では、教科書に記録していく形式で、言語活動の場面設定のみ紹介されている。活動の具体例や、目的・方法・状況などは載せていない。
⑪問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫	小単元ごとに設定されている「Final Activity」では、既習事項を使って、児童同士がやり取りをしたり自己表現としてスピーチをする構成になっている。	小単元ごとに設定されている「Goal」に向かって既習事項を使って、児童同士がやり取りをしたり自己表現としてスピーチをするような作りになっている。「言葉について考えよう」では、自己表現の一助となるポイントが記載されている。	小単元ごとに設定されている「Activity」を達成するために、必要なキーセンテンスや語彙を習得していき、児童がスピーチをしたり、やり取りをしたりする作りになっている。「Review」の中の思考力アイコンが付いている項目では、与えられた課題の解決に向けての手立てとして、既習事項を用いる構成になっている。

11. 特別の教科 道徳

発行者・教科書名	東京書籍 2	学校図書 11	教育出版 17	光村図書 38
観点	新訂 新しい道徳	かがやけ みらい 小学校道徳 きづき かがやけ みらい 小学校道徳 まなび	小学道徳 はばたこう明日へ	道徳 きみが いちばん ひかるとき
①教科目標から見た編集の適切さ (学習指導要領)	育てたい子供の姿として、「自分の生き方を見つめる」、「自ら気づき、考え、判断できる」、「意欲的に行動することができる」の3点を掲げ、未来を切り拓くための「人生や生活に生きて働く道徳性」の育成を目指して編集している。	「多様性を前提とした問題解決能力の育成」を共通編集理念とし、道徳の資質・能力を育成するために、「共に生きる、よりよく生きる」を基本方針として掲げ、「命・人・時(文化)・夢」のつながりの4つの視点から教材を選定して編集している。	児童の考え方の多様性を重視し、他者とのコミュニケーションを通して、自分の言葉で表現する力をつけること、自分と異なる意見にも接することを通して、より深く考え、自己の成長につなげていくことを大切に編集している。	主体的・対話的な学びから子供を深い学びに導き、豊かな道徳性を育むために、「成長に寄り添う」、「学びを支える」、「課題と向き合う心を養う」の3つの方針を掲げて編集している。
②教材の適切さ (新しさ、分量など)	分冊はなく、1冊の教科書で構成している。各教材は、3年以上の学年において、本文の他は、冒頭のテーマと、本文の後の2つの発問「考えよう」という構成になっている。通常の読み物教材とは異なった形式の教材を取り入れて、子供たちの多様な考えを引き出せるようにしている。(例:3年p91~93, 6年p80~83)今年引退したイチロー選手(5年p14~17)や、白血病で闘病中の池江璃花子選手(4年p135~139)を掲載している。ドラえもののび太を扱った教材は折込資料で掲載している。(2年p104~107)兵庫県作家である三木露風さんを紹介している。(4年p163)6年児童を取り上げた教材を掲載している。(6年p34~38)定番教材と言われる「およげないりすさん」、「プランコ乗りとピエロ」、「うばわれた自由」を8者中、唯一取り上げていない。	「きづき」と「まなび」の2冊で構成している。道徳的な価値や課題と出会う「きづき」と、そこでの気づきをもとに、よりよいあり方を考え、議論し、深く合う「まなび」の2冊により、主体的・対話的で深い学びが展開できるようにしている。「きづき」には、読み物教材とコラムを配置し、発問を載せず主体的な読みを促している。「まなび」はノートではなく、教科書の二部構成という位置付けで、発問や様々な学習活動を提示している。「自分の考え」と「友達のを考え」を記入する欄があるが、発問が限定されていること、スペースが限られていることから、学習展開によっては、別途、ノートかワークシートを準備する必要がある。全学年、冒頭のオリエンテーションの次に、安心して自分の意見を言える環境作りのための活動「学級づくり」を掲載している。子供たちにもなじみ深い松岡修造さんを掲載している。(2年p106~109)	分冊はなく、1冊の教科書で構成している。他の発行者と比較して、どの学年も分量が少ない。(例:6年全170p)年間の教材を30本、補充教材を5本(1年生は4本)とすることで、学校や地域の実態を考慮した弾力的な活用ができるようにしている。冒頭にテーマを示し、本文の後に、授業の学びの流れを可視化した発問を教材ごとに設けている。モラルスキルトレーニングを全学年で取り扱っており、目次と該当ページに、「スキル」マークで示している。1・2年の巻末には、礼儀やマナーに関する折込資料を掲載している。新1万円札の図柄に肖像画が採用されることになった渋沢栄一さんを掲載している。(5年p22~25)定番教材と言われている「ニわのこどり」を8者中、唯一取り上げていない。	分冊はなく、1冊の教科書で構成している。冒頭に学びのめあてを示しており、発問は、本文の後に記載し、特に考えてほしい中心となる問いには二重丸を付している。低学年では、動物も含めた登場人物に感情移入して考えられるようにしている。(例:1年p32~34, 2年p28~33)視覚的に子供の興味を引く漫画形式や一枚絵から考える教材など、多様な教材を取り上げている。(例:2年p68~71, 3年p17~21)日本に伝わるくらしの道具として、兵庫県小野市の播州そろばんを取り上げている。(3年p183)子供に親しまれている「そろまめくん」シリーズの絵本作家である、なかやみわさんを掲載している。(1年p122~126)大リーグで活躍する大谷翔平選手を取り上げた教材では、実際に大谷選手が高校時代に書いた「目標達成シート」を掲載するとともに、九マスのシート作りに挑戦できるようにしている。(5年p10~13)
③単元(教材配列)の適切さ (重点内容、時期など)	学習指導要領総則の「道徳教育に関する配慮事項」で示されている項目に加え、これまでの道徳教育の現況調査を踏まえ、全学年を通しての重点内容項目と学年段階を考慮した重点内容項目を取り上げている。四季や学校行事など、児童の生活実態に合わせて教材を配列している。(例:1年p16-17, 32-33, 4年p03~05, 82~85)全学年に、内容項目「生命の尊さ」を扱った教材を3つ配置している。	4つの視点、「命・人・時(文化)・夢」を育むことを意図した教材を配置している。四季や学校行事など、児童の生活実態に合わせて教材を配列している。(例:4年p26~29, 6年p56~59)内容項目が重ならないように順序立てた教材の配列になっている。いじめに関する教材を、学級崩壊が起こりやすいと言われる6・11月を中心に複数配置している。	内容項目ごとに教材がまとめられた配列となっている。学年の初めには、自分自身に関する教材を多く配置している。四季や1年間の一般的な学校行事(運動会、遠足、発表会など)に合わせて教材を配列している。(例:3年p34~37, 4年p37~41, 62~66)各学年の学習で、「特に大切なこと」として設定した内容項目については、目次でわかりやすく示している。道徳的な価値の理解をより深めるための補充教材を巻末に用意しており、学校や地域の実態を考慮して、弾力的に活用できるようにしている。	1年では、4月~8月(A:自分を見つめる教材)、9月~12月(B:友達など他者との関わりを考える教材)、1月~3月(C:より広く人や社会との関わりを考える教材)の3つのまとまりとして構成しており、2~6年では、B→C→Aの順としている。Dの視点については、年間を通して重点と捉え、随所に教材を配置している。1時間の学びが、児童の考えの深まりをより促せるよう、内容項目の関連に配慮した順序を意識して、教材を配列している。生命の尊さは、重点項目として、全学年、毎学期取り上げている。1年では、幼保小の接続に配慮し、第5教材まではできる限り文字を入れずに、絵を見て考えを引き出す教材を配している。四季や学校行事など、児童の生活実態に合わせて教材を配列している。(例:1年p40~43, 3年p58~61)
④学習への動機付けについての工夫 (トピック、コラムなど)	学習をガイドするキャラクター「こころん」の言葉により、学習意欲を高めるようにしている。1・2年では、教材の導入時に、3~6年では、「考えよう」の発問とコラムの中で登場している。教材タイトルとともに示されている「学習のテーマ」により、見通しを持った学習を促している。教材と連動させたコラム「出会う・ふれ合う」、「つながる・広がる」には、人とのふれあい、他教科の学習や普段の生活への広がり、問題を見つけて話し合うものなどがある。(目次でも点線をつなげており、連動させていることがわかるようにしている。)	「きづき」には、全学年、「スポーツだいすき」、「ともにいきる」、「ふるさと」の3つのコラムを掲載している。「まなび」にも、教材の内容と合わせたコラムや、関連図書を紹介したコラムを掲載している。(例:3年「まなび」p31, 6年「まなび」p9)「まなび」の右側のページには、道徳的価値を見つめたり、多面的・多角的なものを見方に誘ったりするための「こころのパレット」がある。	キャラクター「とりどり先生」による主題への誘いを設け、教材を読み前にも、どのようなことについて考えるのかを意識できるようにしている。「とりどり先生」は教材の最後にも、学びを深めたり、広げたりするコメントを残している。読み物の学習に入る前に、道徳的価値について考えさせたり、問題意識を持たせたりするアクティビティが取り入れられている教材がある。(例:2年p24・66, 4年p36・50, 6年p70)	学習前に考えてほしいことを問いかける「こころん」、学習後に、他の学習や生活の中で考えてほしいことをつなぐ「きらりん」の2人のキャラクターが、子供と教材をつないでいる。全学年、学校生活に慣れ親しんだ時期(1年:6月末、2~5年:5月末)に「こころをかよわそう」を配置している。高学年には、折込資料で視覚的に子供の興味を引く写真を掲載している教材がある。(5年p64~71, 6年p72~79)
⑤表記・表現のわかりやすさ (字体、文字の大きさ、文章量など)	独自に開発した少し太めのカラーユニバーサル教科書体文字を使用している。学年段階に合わせて、使用する文字の大きさ、字詰や行数を調整している。行間にゆとりをもたせて、文章を読みやすくしている。教材本文と子供への投げかけ文は、意味のまとまりで改行している。「お母さんのせいきゅう書」(4年p104~106, たかし・500円)…ラスト「字がぼろつとすすんできました。」 「はしのうえのおおかみ」(1年p20~22)…テーマ「しんせつ」、投げかけ「ひとにしんせつにするとどんなきもちになりますか。」	ユニバーサルデザインフォントを採用している。文字を大きくして、読みやすくしている。文章を省略して読む負担を減らしている教材もある。(例:3年p122~125)文字を詰めて記載することにより、やや多めの文章量を確保している。「ブラッドレーのせいきゅう書」(3年p16~17, ブラッドレー・6ドル)…ラスト「なみだが流れ落ちました。」 「はしのうえのおおかみ」(1年p64~67)…テーマ「投げかけなし」	ユニバーサルデザインフォントを採用している。行間にゆとりがあり、文字の大きさも適当で読みやすい。「ブラッドレーのせいきゅう書」(3年p84~87, ブラッドレー・4ドル)…ラスト「なんでも手伝います。」 「はしのうえのおおかみ」(1年p70~75)…テーマ「あたたかいこころで」、投げかけ「しんせつにしたりしんせつにされたりすると、どんなきもちになるかな。」	書体は原則として、書き文字に近い教科書体活字を用いている。てびきの問いは、意味のまとまりで改行している。「学びの記録」のページが現行の横書きから縦書きに変更されている。ページのフォントは他者より小さい。「ブラッドレーのせいきゅう書」(4年p174~177, ブラッドレー・4ドル)…ラスト「はしのうえのおおかみ」(1年p90~95)…テーマ「あいてにしんせつに」、投げかけ「ついでにいじわるをしてしまったことは、ないかな。」
⑥写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ (大きさ、カラーユニバーサルデザインなど)	カラーユニバーサルデザインに配慮している。色覚多様性に配慮して、誰もが見やすい、見分けやすい配色を目指している。マークなども、色だけの区別を避け、デザインを変えることで判別できるようにしている。教材への興味や理解が深まるよう、挿絵や写真を大きく掲載している。本文用紙の軽量化を図り、強力な接着剤を用いたあじろ縁で、紙面をしっかりと開くことができるようにしている。やわらかい色遣いの絵が多い。	カラーユニバーサルデザインに配慮している。教材のデザイン構成を整理し、すっきりと見やすく、授業の流れがわかりやすくなるように構成している。1年生の1学期は、ほとんどを挿絵のみで構成しており、学習入門期の子供でも、考えやすいようにしている。鉛筆や色鉛筆でも書きやすい用紙を採用している。挿絵が昔ながらの優しいタッチで描かれており、大きくて見やすい。光を反射しづらいので、窓際の子供も読みやすいと考えられる。	カラーユニバーサルデザインに配慮している。色覚等の特性を踏まえた、判読しやすい配色やレイアウト、表現方法等の工夫により、全ての子供にとって学びやすい紙面づくりに配慮している。挿絵が大きく、内容に沿って描かれているため、挿絵だけで物語の内容を理解しやすい。裏表紙に、障がいのある人が書いた作品(障がい者アート)を掲載し、バリンアートの活動を応援している。	カラーユニバーサルデザインに配慮している。B5判を左右に10ミリ広げ、縦じ方を工夫することで、文字や挿絵を大きく示している。紙面がクリーム色になっていて、目に優しい。挿絵の表情が豊かで、大きく描かれているので、挿絵だけで物語の内容を理解しやすい。
⑦判・ページ数	AB判 1年128 2年146 3年168 4年172 5年184 6年200	AB判 1年きづき118, まなび50 2年きづき114, まなび50 3年きづき134, まなび50 4年きづき138, まなび50 5年きづき150, まなび54 6年きづき150, まなび54	AB判 1年134 2年142 3年150 4年162 5年166 6年170	B5変型判 1年145 2年169 3年185 4年193 5年205 6年221

発行者・教科書名 観点	東京書籍 2 新訂 新しい道徳	学校図書 11 かがやけ みらい 小学校道徳 きづき かがやけ みらい 小学校道徳 まなび	教育出版 17 小学道徳 はばたこう明日へ	光村図書 38 道徳 きみが いちばん ひかるとき
⑧個々の考えを深めるための工夫 (視点、発問の提示など)	発問は、3年以上で、教材ごとに、「考えよう」として、中心発問と、自分を見つめるための発問の2つが掲載されている。3年以上にある、問題解決的な学習「問題を見つけて考える」に設定した教材には、話し合いの手引き(「考えるステップ」)を提示している。1・2年では、キャラクター「ころん」の冒頭の投げかけ「はじめに」により、その後の考えを深めやすくしている。巻末に、資料ごとの振り返りや学期ごとの振り返りができるページを設けている。 「手品師」(6年p102～104)…中心発問「たった一人のお客さまの前で、手品を演じているときの手品師の思いについて書いて、話し合ってみよう。」自分を見つめる発問「あなたは、そうしたほうがよいと思ったことを行動に移せたことはありますか。」	発問等は、「まなび」冊子にまとめ、先入親なく教材と向き合えるようにしている。「まなび」冊子は、内容項目ごとの見開き構成になっており、自分の考えのほか、友達のことを書き込むスペースを設けることにより、他者との対話を通して、自らの考えを深められるようにしている。右側のページ「ころんのバレット」は、「きづき」の教材と組み合わせ、授業の導入や終末で活用することで、道徳的価値について、より深く考えられるようにしている。 ※(②と同)「自分の考え」と「友達の考え」を記入する欄があるが、発問が限定されていること、スペースが限られていることから、学習展開によっては、別途、ノートワークシートを準備する必要がある。 「手品師」(5年p78～81)…中心発問「男の子の前で手品を演じている時、手品師はどのようなことを思っていたでしょう。」自分を見つめる発問「誠実であることはどういうことでしょう。」	発問は、教材本文をもとにして、考え・議論する問いとしての「考えよう」、道徳的価値そのものへの問い、価値理解を深めることができる設問としての「深めよう」、今後の行動や他教科と連携した発展的な学習につなげる「つなげよう」の3つで構成している。「考えよう」の発問は、授業の学びの流れを可視化しており、実態に応じて、取捨選択して使用することができる。キャラクター「とりどり先生」の、導入時の投げかけにより、その授業で考えさせたいことを明確にしている。 ※(④と同)読み物の学習に入る前に、道徳的価値について考えさせたり、問題意識を持たせたりするアクティビティが取り入れられている教材がある。(例:2年p24・66、4年p36・50、6年p70) 「手品師」(6年p30～33)…中心発問「手品師のすばらしいところはどこでしょう。みんなの意見を聞いてみましょう。」自分を見つめる発問「誠実に生きるとは、どのようなことでしょう。自分の考えをまとめて発表しましょう。」	教材を通して何を学ぶのかをはっきりと意識することができるよう、「考えよう・話し合おう」で、学びのめあてを青色の太字で示している。また、めあてに沿って、発問を、①教材の内容について、児童が同じ共通理解に立つための問い、②道徳的価値に迫るための中心的な問い、③道徳的価値を自分や日々の生活に結び付けたり、問題を解決するためにどうすればよいかを考えたりする問い、の3種類で構成するとともに、特に考えてほしい中心となる問いには、二重丸を付けている。キャラクター「ころん」が学習前に提示する視点が、考えていく上での手立てとなっている。各学年、学期ごとに「学びの記録」を配置し、各授業の振り返りができるようにしている。 「手品師」(6年p99～104)…中心発問「手品師は、どうしてたった一人のお客さまの前で手品をすることを選んだのでしょうか。」自分を見つめる発問「誠実に生きる」とは、どういうことだろう。」
⑨学習活動・指導方法の工夫 (言語活動、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習など)	自ら考え、生活に生かすための問題解決的な学習「問題を見つけて考える」を取り入れており、主体的に考え、自分の生き方を追求することができるようにしている。(例:6年p135～141)読み物教材と連動した学習活動ページ「出会う・ふれ合う」により、道徳的価値をより深める学習活動が行えるようにしている。(例:2年p80～81、4年p121)IDマークがついている教材では、インターネットを活用して、教材内容に関連した動画を見ることができる。(各学年4教材)	「まなび」冊子では、体験的な学び、友達との意見の交流、また家族や地域の方との交流などを設定し、多様な考え方に触れることができるようにしている。巻末資料「まなびのヒント」で、役割演技や、話し合い活動の方法などのポイントを提示している。全学年全教材に、QRコードで補助資料を示している。(人物紹介、教科書と同じ挿絵・写真の画像がある。現在は「準備中」のものもある。)	問題解決的な学習を重視し、答えが定まっていない問いを受け止め、多様な他者と議論を重ねて探求し、納得できる解答を得るための資質・能力を養えるようにしている。各学年に「スキル」マークを付した教材を複数設定し、セリフを考えて教科書に記入する漫画教材(1年p64～65)など、具体的な体験的な活動を提示している。学びの手引きにも、多くの教材で「やってみよう」を設けており、体験的な学習を提示している。3年以上では、巻末の学習内容一覧表で「まなびリンク」マークがついている教材については、学習に関連する情報をウェブサイトで見ることができる。(3年12、4年14、5年20、6年26教材。マークがついていない教材で見ることができるものもある。)	教材の後に設定している「考えよう・話し合おう」で、問題解決的な考えを促す問いを設定している。また、各学年に一つ「演じて考えよう」(役割演技)を設定しており、体験的な学習を通して、実感を持って道徳的価値について考えを深められるようにしている。(例:1年p59、6年p53)教材タイトルの下にQRコードのある教材では、授業に役立てることができるデジタルコンテンツを見ることができ、(1年10、2年12、3年14、4年21、5年18、6年25教材。教材の朗読、各学年1つの関連動画、関連外部サイトへのリンクがある。「学級会の出来事」(4年p45～48)では、挿絵をアニメーション化したものと連動した朗読を聞くことができる。)
⑩関連付けの工夫 (他教科、実生活、家庭教育との関連など)	「つながる・広がる」のページ(※3年以上)等において、各教科等での道徳性の育成につながる教材や学習活動を取り上げており、関連教科も記載している。(例:3年p51、6年p121)巻末の付録「つながる・広がる」において、各教科等における道徳教育との関連を上げている。家庭との連携について、裏表紙にメッセージ「保護者の皆様へ」を記載している。	家庭・地域と連携した教材や学習活動を配置している。(例:1年「まなび」p12)「まなび」冊子では、道徳の学びを、自分のこれからのつなげていくことを意識させる振り返り欄「つなげていこう」を設けたり、コラムで多くの図書の紹介をしたりするなど、学習の関連・発展を大切にしている。また家庭との連携においても、冒頭にある、「まなびの道しるべ」に、子供の振り返り欄に加え、家庭からのメッセージ欄を設けたり、巻末の「保護者の方へ」で、この教科書で目指すことを、4つの内容項目ごとに伝えたりするなどして連携を図っている。	巻末の「学習内容一覧」では、教材と他の教科・領域の関係について示している。全学年でモラルスキルトレーニングを取り入れている。(例:4年p51～52、5年p10～13)1・2年の巻末には「おじぎ」、「礼儀正しい姿勢」、「家でのマナー」、「学校でのマナー」、「安全のマナー」を掲載した資料を設け、礼儀やマナーの確かな定着をめざしている。家庭との連携については、巻末の一年間の学習の振り返り欄に、「家の人から一言」欄も設定している。	教材の後の「つなげよう」のコーナー(2年以上)において、他教科の学習や生活の中で考えてほしいことを、キャラクター「きりりん」の言葉で示している。関連したページを振り返ることができるよう、「〇ページを見よう」という記載がある。(例:3年p111、5年p137)巻末の「この教科書が目指した姿」において、教材と他の教科・領域との関わりについて示している。家庭との連携については、裏表紙にメッセージ「保護者の皆様へ」を記載しているほか、低学年では、夏休み・冬休み前のコラムにおいて、家庭との連携を図っている。(例:1年p35、104～105、2年p63・129)
⑪積極的に他者と関わる力をつけるための工夫	人との関わりの中で考えることができる学習活動ページ「出会う・ふれ合う」において、コミュニケーション活動を通して心の交流を図り、よりよい人間関係の構築につなげられるようにしている。(例:3年p84～85、6年p96～97)巻頭のオリエンテーションで「話し合いの約束」を提示している。	4つのつなぐりの視点の一つに「人とのつながり」を挙げており、共に生きていくための心と態度を育む教材を配置している。「まなび」冊子では、「友達の考え」を記入する欄を設け、一人ひとりが考えたことや、発見した問題について、他者と対話・交流することにより、学びを深められるようにしている。また、巻末の「まなびのヒント」の中で、上手な話し方・聞き方、話し合いの例を示している。	教材の後の「深めよう」の発問で、多くの話し合い活動を促している。モラルスキルトレーニング、礼儀やマナーの実践、役割演技などの体験的な活動が多く設定されており、コミュニケーション能力を高め、よりよい人間関係の構築を図ることができるようにしている。(例:1年p23、5年p40)	1年は6月の終わり、2～6年は5月の終わりに、「心を通わそう」を配し、クラスの中でよりよい関係性を築けるような活動に取り組めるようにしている。(例:1年p26～27、3年p38～39)全学年の巻末付録に、よりよい人間関係をつくるための「こつ」を掲載しており、関連する教材のページも示している。アサーショントレーニング(6年p216～217)など、具体的な体験活動を通して、誰もが気持ちよく集団生活を営むための力を培えるようにしている。
⑫現代的な課題への対応	いじめ問題については、とびらページ、直接的教材、間接的教材を組み合わせたユニット形式「いじめのない世界へ」として、全学年で重要項目として取り上げている。(例:6年p55～60)5年生では、アンパンマンの作者、やなせたかしさんのメッセージと「アンパンマンのマーチ」をとびらページに掲載し、クラスの中のいじめについて話し合う直接的教材と、いじめをしない心を養う間接的教材と合わせて、ユニットを組んでいる。(5年p37～44) 情報モラルについては、全学年の巻末に「情報モラル」ページを設定し、段階的に考えられるようにしている。4年生ではスマホ・ゲーム依存(4年p152～153)、5年生ではオンラインゲームの個人情報(5年p164～166)、6年生ではスマートフォンとのつきあい方(6年p180～182)と、子供たちが直面している具体的な課題を取り扱っている。 ・アマゾンの魚が多摩川でとれたことから「タマゾン川」と言われている教材を通して、自然環境について考えるようにしている。(6年p136～141) ・「三つの国」が家の中にある児童の作文を教材化し、他国の人々や文化についての理解を深めるようにしている。(3年p55～57) ・巻末付録では、3年以上で、日本の自然、四季や伝統文化についての特集ページを設け、国や郷土を愛する心を養うようにしている。 ・阪神・淡路大震災を教材として取り扱っている。(6年p20～23)	いじめ問題については、学級が崩壊しやすいと言われる6月と11月を中心に、各学年に対応教材を複数配置しており、目次と該当ページに、「ともいきる」マークで示している。5年生では、いじめと正面から向き合う梅田俊作・佳子さん原作の絵本「しらんぷり」を教材化し、傍観者となってしまった「ぼく」を通して、自分ができることについて考えさせている。(5年p100～103)6年では、「海綿状血管腫」で顔にアザがある人を扱った教材を設定し、正しい知識と人を思いやる理性があれば、差別、偏見、いじめをなくしていけることを訴えている。(6年p28～31) 情報モラルについては、全学年に「情報モラル」の教材を設定し、段階的に考えられるようにしている。目次と該当ページに、「情報モラル」マークで示している。2年生ですでに、スマートフォン内のゲームの課金について取り上げている。(2年p72～73)4年生では、動画投稿による危険について、漫画形式の教材(4年p10～11)でリアルに描いたり、LINEトラブルに対応した教材(4年p128～129)を設定したりしている。 ・多くの人々の思いを込めて植え替えられ、今も残る「莊川桜」を教材化し、自然愛護と郷土愛について考えている。(4年p100～105) ・「ようちゃんのはさみ」では、ユニバーサルデザイン商品の写真を掲載している。(3年p102～103) ・「世界人権宣言」を教材として取り上げるとともに、巻末資料にも訳文を掲載している。(6年p100～101、142～145)	いじめ問題については、「情報モラル」、「生命尊重」とともに、特に重きをおいており、全学年、多くの教材が設定されている。該当する教材には目次と教材にマークをつけてわかりやすく示している。6年「ひきょうだよ」(6年p80～83)、4年「プロレスごっこ」(4年p36～41)では、クラス内のいじめをストレートに扱っている。6年「学級人権標語をつくらう」では、人権を「人が幸せに生きる権利」と説明し、いじめが起こらないクラスにしているために学級人権標語を作る学習を設定している。(6年p84～85) 情報モラルについては、いじめ問題同様、特に重きをおいており、全学年に教材を設定し、目次と教材にマークをつけてわかりやすく示している。5年「だれかをきずつける機械ではない」では、いじめ問題と関連させて、ネットいじめについて取り上げている。(5年p90～93)2年で、電話番号を聞かれた時の対応(2年p35～37)、3年で、ゲーム依存(3年p10～13)、4年で、ネットによる情報拡散(4年p47～49)を取り上げるなど、子供が直面する課題を教材として設定している。 ・2年で、世界文化遺産の富士山を教材として取り上げ、国や郷土を愛する態度を養うようにしている。(2年p114～117) ・4年で、世界自然遺産の屋久島を教材として取り上げ、自然愛護について考えるようにしている。教材の後のコラムでも、日本の世界自然遺産について紹介している。(4年p104～109)	いじめ問題については、「情報モラル」とともに、教材とコラムを組み合わせたユニット形式により、全学年において、自己の生き方について考えを深められるようにしている。6年のコラムでは、タレントの高橋みなみさんのメッセージとともに、「いじめ防止対策推進法」について説明している。(6年p54～55)4年のコラムでは、いじめを見つけたら何ができるかについて考えることを、3つの例を示して促している。(4年p49) 情報モラルについては、いじめ問題とともに、教材とコラムを組み合わせたユニット形式により、全学年において設定している。3年「やめられない」では、ゲーム依存について、漫画形式の教材で取り上げ、夢中になりすぎないための約束について考えるようにしている。(3年p17～23)6年「気に入らなかつた写真」では、ネットへの写真投稿にまつわるトラブルを、漫画形式の教材で取り扱うとともに、ネット上で侵害されやすい権利と言われる「著作権」、「肖像権」、「プライバシー権」について説明している。(6年p92～98) 3年では、「マリーゴールド」(3年p58～61)、「ヤゴ救出大作戦」(3年p66～69)を教材として設定し、子供の生活に身近なものから、自然愛護・環境美化について考えるようにしている。 ・「世界人権宣言」を教材として取り扱い、全30条をわかりやすい文章で記載するとともに、「クラス人権宣言」の作成を呼びかけている。(6年p86～91) ・阪神・淡路大震災を教材として取り扱っている。(4年p178～181、5年p181～185、6年p156～160)

11. 特別の教科 道徳

発行者・教科書名	日本文教出版 116	光文書院 208	学研 224	廣済堂あかつき 232
観点	小学道徳 生きる力 小学道徳 生きる力 道徳ノート	小学道徳 ゆたかな心	新・みんなの道徳	みんなで考え 話し合う 小学生の道徳 自分を見つめ 考える 道徳ノート
①教科目標から見た編集の適切さ (学習指導要領)	「よりよく生きる力」を子供たちに育むために、「自ら考えたいくなる!」、「授業に躍動感を!」、「社会に根ざした道徳教育を!」の3点を柱として編集している。	「深く考え心が動く授業で子どもたちのゆたかな心を育てることを目指し、自主的・主体的な学習のために、1年間の学習の見通しと、毎時間の授業の見通しを持って学習に取り組めるように編集している。	自ら学び、自ら考え、よりよく生きる力を育むために、「プラス思考」と「未来志向」を備えた児童を育成することを目指し、「読みたくなる」、「考えたいくなる」、「話し合いたいくなる」ように編集している。	「みんなで考え、話し合う」ことによって、自己の生き方についての考えを深め、「自分を見つめ、考える」ことによって、書くことを通じて自問と内省へと導き、道徳的思考をいっそう深め、その相乗効果で、新時代を生きる児童の豊かな情操と道徳心を培うことができるように編集している。
②教材の適切さ (新しさ、分量など)	別冊「道徳ノート」があり、2冊で構成している。物語からドキュメンタリーまで多様な教材を取り上げている。別冊「道徳ノート」では、新たに自由に書き込める欄を設けて、活用しやすいようにしている。発問が掲載されているため、他の発問をする時には、別途、ノートかワークシートを準備する必要がある。故郷の誇りについて考える教材として、兵庫県姫路市の「昭和の大修理」が取り上げられている。(6年p86～89)。ドラえもののび太を通して、自分の生き方を考える教材を掲載している。(5年p4～7)定番教材と言われている「黄色いベンチ」を8者中、唯一取り上げていない。	分冊はなく、1冊の教科書で構成している。別途、道徳ノートを使用することを推奨し、巻頭の「この本の使い方」には、道徳ノートの記入例を全学年において掲載している。授業時間数よりも多くの教材(各学年40点)を掲載しており、実情に応じて選択できるようにしている。各教材は、導入の発問、本文途中での問いの投げかけ、まとめの発問が提示されている。読み物教材とつなげて考えを深めたり広げたりすることができるコラムや、名言を紹介するコラム「ことばのたからもの」など、多くのコラムを掲載している。プロサッカーチームの用具係(5年p180～183)を通して、働くことについて考えたり、交通事故遺族(6年p140～143)を通して、命について考えたりする教材を取り上げている。	分冊はなく、1冊の教科書で構成している。他の発行者と比較して、別の学年も分量が少ない。(例:6年全170p)各教材は、本文の前に主題名や問いを記載せず、主体的な読みを促しており、本文の後は、2つの発問のみという構成である。教材の後は、4種類の「学び方のページ」を提示し、多様な学びの展開につなげられるようにしている。テニスの錦織圭選手(1年p66～69)や平野美宇選手(2年p136～139)、体操の内村航平選手などの親しみやすいスポーツ選手や、イギリスの看護師であるナイチンゲール(3年p34～37)、ドイツの哲学者であるシュバイツァー(3年p68～71)などの偉人の、小さい頃の姿を通して、自分自身のことについて考えられるようにしている。	別冊「道徳ノート」があり、2冊で構成している。本冊は、本文の他は、冒頭のテーマと、本文の後の「学習の道すじ」(考えさせたい道徳的価値の提示と発問)という構成である。別冊「道徳ノート」は、ノート形式であるが、各内容項目における道徳的諸価値についての汎用的な問いと、フリーノート欄で構成されており、教師の指導に応じて、授業中だけでなく、授業前後に活用することもできるようにしている。新1万円札の図柄に肖像画が採用されることになった渋沢栄一さんを掲載している。(3年p100～103)1年生の教科書で、フランスの生物学者であるファール(1年p69～71)、イギリスの看護師であるナイチンゲール(1年p106～111)を取り上げるなど、国内外の偉人を多く掲載している。
③単元(教材配列)の適切さ (重点内容、時期など)	四季や学校行事など、様々な活動との関係を考慮して教材を配列している。(例:2年p74～77、3年p56～59、6年p116～119)1年では、1学期に配置した教材には長い文章をほとんど用いず、イラストや写真を見て授業ができるようにするとともに、生活の実態から学習につなげられるようにしている。	各学年に設定した重点主題については、目次で、「〇年生でとくに考えたいこと」として示し、教材を連続して扱うことにより、考えを深められるようにしている。特に、「生命の尊厳」については、全学年において重点主題とし、6年間の見通しをもって取り組めるよう、明確に位置付けている。四季や学校行事など、児童の生活実態に合わせて教材を配列している。(例:1年p72～75、5年p126～129)	「いのちの教育」を最重要テーマとし、低学年「しっかり生きる」、中学年「仲よく生きる」、高学年「ともに生きる」と、2学年ごとに重点テーマを設定して、6年間で発達段階に応じて学べるように構成している。各学年においては、異なる内容項目の複数教材を用いて、幅広い観点から自ら考え、実際の行動につながる確かな学びを実現させることを意図している。四季や学校行事など、児童の生活実態に合わせて教材を配列している。(例:2年p56～60、4年p94～97)	学年の重点項目には、最大時間数(年間3時間)を配当し、より重点的に学べるよう、一部は2時間連続で配置している。特に「生命尊重」に重点をおき、各学年の巻末に、命について様々な側面から考える特集ページを設けている。四季や学校行事など、児童の生活実態に合わせて教材を配列している。(例:2年p7～9、4年p18～21)
I ④学習への動機付けについての工夫 (トピック、コラムなど)	教材名の前後に、キャラクター「ココロ」の問いかけや、話の概略、登場人物の絵を掲載し、話の内容・状況をわかりやすくすることで、教材に入りこみやすくしている。「いじめの防止」については、重要なテーマとして、複数教材や関連するコラムをユニットとしてまとめて、毎学期に配置している。教材と関連させたコラム「心のベンチ」を全学年に、複数配置している。	冒頭のオリエンテーションが、全学年8ページあり、他者よりも多い。各教材の冒頭の投げかけで、主題に関わる問題意識をもたせ、教材の内容に興味・関心を抱かせるようにしている。登場人物の絵を掲載している読み物教材もある。児童に寄り添うキャラクター「ゆたかさん」、「みらいさん」、「トリー」、「おんだ先生」を設定し、様々な「考える」投げかけを提示している。コラムは1・2年は4種類、3～6年は5種類あり、全学年共通コラムの一つ、「みんななかよし 楽しい学校」は、ちびまる子ちゃんと考えものになっている。	キャラクターの「明日香」と「未来」は、1～6年までの教科書において、それぞれの学年として描かれており、ともに成長していく形となっている。二人の学校生活が描かれた教材も、各学年に設けている。4種類ある「学び方のページ」の一つ、「広げよう」では、教材で取り上げた人物や内容について、さらに詳しく知ることができる。(例:3年p55、6年p109)本当の赤ちゃんの大きさを写真で示すなど、A4判を活かしたダイナミックな写真や挿絵を用いている。(例:1年p36・37、5年p62～63)	児童が学習の見通しを持って、自ら課題意識や問題追求への意欲を高め、主体的に学習に取り組めるよう、本冊に、教材ごとに学びの手がかりとなる「考えよう 話し合おう」を設けている。別冊「道徳ノート」に書かれている投げかけで自分を見つめ、思いや考えを持った上で学習をスタートさせることができる。本冊には、教材と関連したコラムや情報モラル関連のコラムを3年生以上に設定しており、目次に葉のマークで示している。命に関するコラムは全学年に設定している。
⑤表記・表現のわかりやすさ (字体、文字の大きさ、文章量など)	書体は、児童に読みやすいように開発した教科書体を使用している。本冊は、全学年、必ず偶数ページから始まるようにしている。ページの上部を注釈スペースにしているため、注釈のないほとんどのページに空白スペースがある。「お母さんのせいきゅう書」(3年p98～103、だいきゅう400円)…ラスト「なみだでいっぱい。」※8者中、唯一、子と母の請求書がそれぞれの手書き風になっている。「はしのうえのおおかみ」(1年p48～53)…テーマ「しんせつはいいいきもち、投げかけ「しんせつってどうしてたいせつなのでしょう。」	フォントは適度な大きさと太さで読みやすい。物語によって字の大きさは違いがあるが、4ページ内、長い物語でも6ページ内に収まるようにしており、教材が全学年、偶数ページから始まっている。「お母さんのせいきゅう書」(4年p32～33、ブラッドレー・2ドル)…ラスト「お母さん、ごめんね。」「はしのうえのおおかみ」(1年p86～89)…テーマ「やさしいところ、投げかけ「やさしいひとは、どんなひとだとおもいますか。」※8者中、唯一、紙芝居風になっている。	ユニバーサルデザインフォントを採用している。教材名が、かなり大きなゴシック体太字となっていて見やすい。文章の文字も太く、かつ大きく見やすい。「お母さんのせいきゅう書」(4年p14～15、たかし・500円)…ラスト「は、もう、いいよ。」「はしのうえのおおかみ」(1年p92～94)…テーマ「投げかけ「なし」	フォントは適度な大きさと太さで読みやすい。別冊「道徳ノート」は、発達段階に応じて、罫線やマス目を付している。ページのフォントは他者より小さい。「ブラッドレーのせいきゅう書」(3年p70～72、ブラッドレー・4ドル)…ラスト「進んでお手伝いするよ。」「はしのうえのおおかみ」(1年p72～75)…テーマ「あいてのことをかんがえて、投げかけ「なし」
⑥写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ (大きさ、カラーユニバーサルデザインなど)	カラーユニバーサルデザインに配慮している。写真やイラストを大きく示している。教科書と別冊「道徳ノート」で、教材ごとに色を揃えているため、見つけやすい。別冊「道徳ノート」にも、考えさせたい場面の挿絵を掲載している。	カラーユニバーサルデザインに配慮している。写真やイラストが引き立つよう大きくレイアウトしている。優しいタッチで描かれている挿絵が多い。A4変型判の大きさを活かし、ページの下部をふき出しの発問と注釈のスペースにしている。	カラーユニバーサルデザインに配慮している。ダイナミックな写真や大きなスペースを利用した挿絵等を用いている。挿絵が大きく、色鮮やかではっきりとしており、物語を捉えやすい。A4サイズで視覚的にゆとりとした紙面になっている。	カラーユニバーサルデザインに配慮している。紙面にゆとりを持たせ、圧迫感のないようにしている。挿絵は、淡い色で描かれているものが多い。挿絵は比較的、他者より少なめである。人物の表情をあえて挿絵に描かず、子供の想像を促すようにしている教材もある。(例:4年p43～45、6年:p94～97)別冊は鉛筆での書きやすさ、消しやすさを重視した再生紙を使用している。
⑦判・ページ数	AB判 1年154、ノート42 2年170、ノート42 3年182、ノート42 4年190、ノート42 5年190、ノート42 6年190、ノート42	A4変型判 1年158 2年166 3年182 4年186 5年190 6年194	A4判 1年138 2年142 3年154 4年158 5年166 6年170	AB判 1年118、ノート44 2年118、ノート52 3年126、ノート52 4年138、ノート52 5年162、ノート56 6年170、ノート56

発行者・教科書名	日本文教出版 116 小学道徳 生きる力 小学道徳 生きる力 道徳ノート	光文書院 208 小学道徳 ゆたかな心	学研 224 新・みんなの道徳	廣済堂あかつき 232 みんなで考え 話し合う 小学生の道徳 自分を見つめ 考える 道徳ノート
⑧個々の考えを深めるための工夫 (視点、発問の提示など)	冒頭で、ねらいに対応した主題を端的に示すとともに、本時の導入に役立つ、キャラクター「ココロ」による発問、あらすじ、主な登場人物を示しており、教材内容を素早く理解して、思考や議論のための時間を作りやすくしている。本冊には、中心発問と、自分を見つめるための発問の2つが記載されており、中心発問については、別冊「道徳ノート」と連動して自分の考えを書けるようにしている。また、別冊「道徳ノート」には、新たに自由に書き込める欄を設けており、学習の展開によって使い方を工夫することができる。コラム「心のベンチ」を適宜配置し、道徳的価値について、より広く深く考えられるようにしている。(※◎と同)発問が掲載されているため、他の発問をする時には、別途、ノートワークシートを準備する必要がある。「手品師」(6年p90～93)…中心発問「どんな思いから、手品師は男の子との約束を選んだのだろう。」自分を見つめる発問「この学習をとおして、『誠実に生きる』ということについて、自分の思いをまとめよう。」	各教材の冒頭に、「導入」の発問、最後に、「まとめる(終末)」、「ひろげる(発展)」の発問を設置し、1時間の授業の目的や流れを明確にし、一人ひとりが意識を高めた中で学習に取り組めるようにしている。キャラクター「ゆたかさん」、「みらいさん」、「トーリー」、「わんだ先生」が様々な「考える」投げかけを提示しており、投げかけをもとに、多様な感じ方や考え方を実感させ、児童自身の考えを深めたり広げたりできるようにしている。本文の下に多くのふき出しがあるので、じっくりと教材本文を向き合う時間においては、そこに注意がいかないようにする必要がある。巻末に「学びの足あと」があり、各授業と学期ごとの振り返りができるようにしている。「手品師」(5年p168～171)…中心発問「手品師は、どのような思いで、男の子の前で手品をしているのでしょうか。」自分を見つめる発問「手品師の生き方をどう思いますか。また、あなたはどのような生き方がしたいですか。」「『誠実に生きる』とは、どういうことだと思いますか。みんなで話し合ってみましょう。」	本文の前には、主題名や発問を掲載せず、自ら課題を見つける「気付き」を重視している。本文の後の「考えよう」で、子供が考えを深め、自己を見つめるきっかけとなる発問を2つ掲載している。4種類ある「学び方のページ」の一つ、「深めよう」では、教材と関連させて、道徳的価値について、より多面的・多角的に考えられるようにしている。「手品師」(5年p76～79)…中心発問「友人からのさそいの電話がかかってきたとき、手品師は心の中でどんなことを考えたのだろう。」自分を見つめる発問「自分が手品師だったら、どんなことを大切にしよう。」	本文の前には、発問を記載せず、自ら課題を見つける「気付き」を重視している。本文の後の「考えよう 話し合おう」で、「学習の道すじ」を示すとともに、中心発問と、自分を見つめるための発問を複数掲載している。本冊の教材を元に、自己の生き方について考えを深めた後に、別冊「道徳ノート」に書くことを通して、自問と自省へと導き、より深く考えられるようにしている。別冊「道徳ノート」にも、自分を見つめ、自己の生き方・あり方について考えるための発問が提示されている。「手品師」(6年p28～31)…中心発問「手品師は、どのようなことを考えて迷っていたのでしょうか。」「手品師はどのように考えて、友人のさそいをきき取り断ったのでしょうか。」「自分を見つめる発問『ぼくにとって』という手品師の言葉の意味を、生き方として考えてみましょう。」「人に誠実に応えることができたとき、どんな気持ちになりますか。」
⑨学習活動・指導方法の工夫 (言語活動、問題解決的な学習、道徳的行動に関する体験的な学習など)	「問題解決的な学習」や「体験的な学習」の手法を用いるのに適した教材、および「多様な実践活動を生かす学習」に対応した教材の後ろには、児童の学びと教師の指導の参考例として「学習の手引き」を付け、目次に印で明記している。目次にインターネットマークがある教材では、HPに関連資料を掲載している。(各学年5教材。教材と関連した写真・動画、関連外部サイトへのリンクがある。)	教材の下部にある、キャラクター「ゆたかさん」、「みらいさん」、「トーリー」、「わんだ先生」が様々な「考える」投げかけにより、様々な考えや意見をもとに、問題の解決に向けて取り組むことができるようにしている。学習のまとめの「まとめる」・「ひろげる」では、話し合ったり、書いたりする活動を示唆し、学年に応じて学習の理解を深められるようにしている。挨拶や言葉遣いなどの具体的な道徳的行動を行い、そのよさや難しさなどを体験する活動を示唆したり、他教科の学習や家庭・地域での活動で実際に行うことを提示したりしている。巻末のコラム「こぼのたからもの」では、人生の道標や支えとなるような名言を紹介し、教材と関連させることで、言葉の意味を深く理解し、言葉のもつ力を実感できるようにしている。	問題解決的な学習が可能な教材を多数取り上げ、自己の生き方についての考えを深める学習ができる工夫をしている。異なる複数の意見を教材に提示したり、「深めよう」、「つなげよう」、「やってみよう」、「広げよう」の4種類の「学び方のページ」を展開したりすることで、多様な学習を可能にしている。冒頭のオリエンテーションでは、「自分のことを書いてみよう」のページを設け、1年間の始めに自分を見つめる学習活動を設定している。QRコードを使ってインターネット上の補助教材にアクセスすることができる。(1年6、2年10、3年4、4年4、5年9、6年6教材。教材と関連した音声、写真、音声なし動画、関連外部サイトへのリンクがある。)	問題解決的な学習や体験的な学習活動を促す教材を多く取り入れている。各教材ごとに配置している「考えよう 話し合おう」により、積極的な話し合いを促し、協働的な学習ができるようにしている。別冊「道徳ノート」は、タイトル等が自由に書き込めるため、教科書以外の教材でも使用できる。3年以上では「インターネット」のマークがある教材については、HP上で、教材に関わりのある情報を見ることが出来る。(3年9、4年5、5年8、6年15教材。教材に関連した写真、動画、文部科学省のYouTubeサイトへのリンク、関連外部サイトへのリンクがある。)
⑩関連付けの工夫 (他教科、実生活、家庭教育との関連など)	コラム「心のベンチ」を適宜配置することで、道徳科以外の教育活動とも関連付けている。本冊の巻末の「学習内容一覧」では、教材と他教科等との関係について示している。家庭との連携については、別冊「道徳ノート」に保護者記入欄を設けたり、本冊の裏表紙にメッセージ「先生、保護者の皆様へ」を記載したりしている。	冒頭のオリエンテーションで、学校・家庭・地域で考えたり、考えたことをやってみたりすることを1ページ使って伝えている。「ひろげる(発展)」マークで、家庭や地域の人々との関わりを持たせた活動を提示し、学習したことが児童の日常につながるようにしている。家庭での出来事や地域との交流を描いたものなど、家庭や地域との連携が取りやすい題材を多く取り入れている。(例:1年p50～51、2年p64～65、3年p36～39)本冊の裏表紙にメッセージ「保護者の皆様へ」を記載している。	他の教科との関連を持たせて、多様な学習指導を行うことを可能にしている。4種類ある「学び方のページ」の「つなげよう」と「広げよう」では、教材に関連する様々な資料を提供し、視野を広げている。(例:2年p42～43、65、3年p37)家庭との連携マーク。1・2年「家の人」に書いてもらいましょう。」「3・4年「家の人」に聞いてみましょう。」「5・6年「家の人」と一緒に考えましょう。」を設けており、家庭や地域との連携を重視している。(例:1年p69、3年p133、5年p84、111)	3年生以上の教材の後の「考えよう 話し合おう」にある「学習を広げる」では、他教科や実生活と結び付けて考えるよう促したり、(例:3年p83、5年p51)本の紹介をして、さらに考えを深められるようにしたりしている。(例:4年p103、6年p83)本冊の裏表紙にメッセージ「保護者の皆様へ」を記載している。別冊「道徳ノート」には、学習したページにはさむ「心のしおり」に保護者のチェック欄を設けており、学びの様子を学校と家庭で常に共有できるようにしている。
⑪積極的に他者と関わる力をつけるための工夫	他者との関わりを意識した教材が多く掲載されている。コラム「心のベンチ」では、すぐろく形式で話し合いができる「おしゃべりすごろく」(3年p28～29)や、友達の良いところを探す「ビンゴゲーム」(4年p104～105)など、話し合いが活発に行われて、人との関係構築につながる活動を設定している。	教材の後の「まとめる」、「広げる」の発問で、多くの話し合い活動を促している。コラム「みんなでやってみよう!」を全学年に設置し、アサーショントレーニングなど、コミュニケーション能力を高め、よりよい人間関係の構築に向けて、「発達段階に応じたグループワーク」を提示している。(例:3年p20～21)	4種類ある「学び方のページ」の「深めよう」と「やってみよう」では、多くの話し合い活動を促している。(例:5年p73)3年生で、「ぼかばか言葉」と「どげどげ言葉」を扱った教材(3年p102～105)を設定したり、5年生の「学び方のページ」の「つなげよう」で、友情で友達と心をつなぐことをテーマにししたりするなど、人との関係作りをよくする教材を設定している。	本冊は「みんなで考え、話し合う」ことをテーマとしている。教材ごとに、学習の手がかりとなる「考えよう 話し合おう」を配置し、みんなで考え、話し合う協働的な学習ができるようにしている。別冊「道徳ノート」でも、人との良い関係の構築につながる発問を多く設定している。
⑫現代的な課題への対応	いじめ問題については、全学年において、複数の教材を、1つのまとまり(ユニット)「人との関わり」とし、毎学期にユニットを1つずつ配置することで、状況に応じて、学習を集中的に展開できるようにしている。2年「ある日のくつばこ」では、学校でも十分に起こり得る靴履しについて、傍観者の立場で考え、正しいと思うことを行動に移す勇氣について考えるようにしている。(2年p126～129)5年「名前のない手紙」では、クラス内でいじめを受ける被害者の気持ちと、このままではいけないと行動に移そうとする傍観者の気持ちの両面を考えられるようになっていく。(5年p82～85)その教材に続く「心のベンチ」では、いじめの四層構造を示し、傍観者から仲裁者になることが、いじめをなくすカギだと呼びかけている。(5年p86～87)情報モラルについては、全学年において教材を設定し、目次でも示している。1年「ひつじかいのこども」では、嘘ばかりいっているどうなるのかについて、紙芝居風の教材を通して、体験的に考えるようにしている。(1年p58～63)・1年で、オリンピックとパラリンピックを取り上げている。(1年p42～45)それに続く「心のベンチ」では、「せいかいのおはよう」を掲載している。(1年p46～47)・3年「同じ小学校でも」では、「ぼく」と「レンくん」の会話から、外国とのちがいがつながりを知り、親しみを持てるようにしている。(3年p52～55)・阪神・淡路大震災を教材として取り扱っている。(3年p128～131、4年p138～141、5年p176～179)	いじめ問題については、児童にとって喫緊の問題であると捉え、各内容項目の教材において、直接的・間接的にいじめについて、自分自身の問題として捉えられるような教材を選定し、目次でもハートマークで示している。全学年に、ちびまる子ちゃんや「みんななかよし楽しい学校」を配置し、いじめの未然防止につなげている。3年「思い切った言っただらうかな?」では、クラス内の仲間外れについて、葛藤する「わたし」の心情を通して、正しいと思うことをすることの難しさや大切さについて考えるようにしている。(3年p98～101)5年では、2年生の時に国語で習った「スイミー」と、p50ですでに取り上げられている「ガンジー」を作戦名として、いじめをなくす作戦を考える登場人物の話を教材にしている。(5年p72～75)情報モラルについては、全学年において、詳しい教材を設定し、目次でも「情報社会を生きる」と「情報モラル」の2つのマークで示している。1年から、スマートフォン(スマホ)でできることを知ったり、使い方の注意について、クイズ形式も取り入れながら考えたりするようにしている。(1年p44～45)4年でオンラインゲーム(4年p64～67)やネットショッピング(4年p68～69)、5・6年でLINEトラブルに対応した教材(5年p100～103、6年p78～79)を設定している。「子どもの権利条約」について紹介し、その中で「世界人権宣言」についても、調べてみるよう促している。(5年p160～161)・オリンピックとパラリンピックについて、2年で教材化(2年p52～55)するとともに、3年以上では、学年に1つずつ、関連するコラムを設定し、目次でもマークで示している。	いじめ問題については、「いのちの教育」を最重点テーマとして取り扱っている。直接的アプローチと間接的アプローチが可能な教材を用いて、幅広い視点から学習できるようにしている。学校でも十分に起こり得る靴履しについて、1年で教材として取り上げている。(1年p112～113)4年「クラスたいごう全員リレー」では、どのクラスでも起こり得る状況を取り上げて、正しいと思ったことを行動に移す難しさや大切さについて考えるようにしている。(4年p94～97)情報モラルについては、子供が自らの考えを深められる授業が展開できる構成にすることを意図して、全学年において教材を設定している。情報モラルの該当のページには、スマートフォンの大きなマークで示している。高学年では、SNSに写真をアップすることによるトラブル(5年p136～139)や、LINEトラブルに対応した内容(6年p110～113)を取り上げている。・3年では、冬季パラリンピックにアルペンスキーの選手として出場した、金メダリストの大日方邦子さんを教材として取り上げている。(3年p106～109)・5年では、ユニバーサルデザインを教材として取り上げ、生活の中のユニバーサルデザインを写真で紹介したり、「ユニバーサルデザインの七原則」を示したりしている。(5年p100～103)・阪神・淡路大震災を教材として取り扱っている。(3年p94～96、4年p116～118、6年p20)	いじめ問題については、特に「生命尊重」に重点を置き、内容項目「生命の尊さ」は最大時間数(年間3時間)を配当し、重点的に2時間連続で配置している。いじめ問題について、直接的に取り上げる教材は少ない。5年「魚の世界」では、魚の研究者でタレントのさかなクンの子供の頃のいじめ体験を通して、いじめをなくすために何ができるかについて考えるようにしている。6年「苦しい思い出」では、新聞への投書という形の教材を設け、いじめる側が背負う心の痛みについて考えるようにしている。(6年p26～27)情報モラルについては、全学年に教材として設定している。3年では、子供の実生活ともつながりの大きいデジタル著作権について取り上げている。(3年p73～75)その他、4年でインターネットを使う時の注意(4年p50～62)、5年でメールをする時の注意(5年p84～85)、6年でネット依存(6年p16～19)を取り上げるなど、子供の実生活に合うものを設定している。3年以上で、巻末に情報モラルに関するページを設定している。・4年「みんな、待っているよ」では、あまり子供たちになじみのない「院内学級」を通して、よりよい学校生活について考えるようにしている。(4年p10～13)・阪神・淡路大震災を、教材の中で取り扱っている。(3年p13～15、6年p110～113)

(2)令和2年度使用中学校、義務教育学校後期課程教科用図書一覧

種 目	第 1 学 年			第 2 学 年			第 3 学 年			
	番号 略称	記号番号	教科書名	番号 略称	記号番号	教科書名	番号 略称	記号番号	教科書名	
国 語	38 光村	国語 731	国語 1	38 光村	国語 831	国語 2	38 光村	国語 931	国語 3	
書 写	2 東書	書写 731	新編 新しい書写 一・二・三年	(前年度給与したものを使用)			(前々年度給与したものを使用)			
社 会	地 理	2 東書	地理 725	新編 新しい社会 地理			(前年度給与したものを使用)			
	歴 史	2 東書	歴史 729	新編 新しい社会 歴史			(前年度給与したものを使用)			
	公 民							2 東書	公民 929	新編 新しい社会 公民
地 図	46 帝国	地図 724	中学校社会科地図	(前年度給与したものを使用)			(前々年度給与したものを使用)			
数 学	2 東書	数学 728	新編 新しい数学 1	2 東書	数学 828	新編 新しい数学 2	2 東書	数学 928	新編 新しい数学 3	
理 科	61 啓林館	理科 732	未来へひろがるサイエンス 1	61 啓林館	理科 832	未来へひろがるサイエンス 2	61 啓林館	理科 932	未来へひろがるサイエンス 3	
	61 啓林館	理科 733	未来へひろがるサイエンス 1 マイノート	61 啓林館	理科 833	未来へひろがるサイエンス 2 マイノート	61 啓林館	理科 933	未来へひろがるサイエンス 3 マイノート	
音 楽	一 般	27 教芸	音楽 727	中学生の音楽 1			27 教芸	音楽 827	中学生の音楽 2・3上	(前年度給与したものを使用)
							27 教芸	音楽 828	中学生の音楽 2・3下	(前年度給与したものを使用)
	器楽合奏	27 教芸	器楽 774	中学生の器楽			(前年度給与したものを使用)			
美 術	9 開隆堂	美術 726	美術 1	9 開隆堂	美術 826	美術 2・3	(前年度給与したものを使用)			
保健体育	224 学研	保体 728	新・中学保健体育	(前年度給与したものを使用)			(前々年度給与したものを使用)			
技 術・家 庭	9 開隆堂	技術 726	技術・家庭 (技術分野)	(前年度給与したものを使用)			(前々年度給与したものを使用)			
	9 開隆堂	家庭 726	技術・家庭 (家庭分野)	(前年度給与したものを使用)			(前々年度給与したものを使用)			
英 語	15 三省堂	英語 730	NEW CROWN ENGLISH SERIES New Edition 1	15 三省堂	英語 830	NEW CROWN ENGLISH SERIES New Edition 2	15 三省堂	英語 930	NEW CROWN ENGLISH SERIES New Edition 3	
特別の教科 道徳	224 学研	道徳 727	中学生の道徳 明日への扉 1年	224 学研	道徳 827	中学生の道徳 明日への扉 2年	224 学研	道徳 927	中学生の道徳 明日への扉 3年	

平成31年度西宮市立中学校使用教科書 (特別支援学級 [知的障害者用])

種 目	第 1 学 年 ~ 第 3 学 年								
	番号 略称	記号番号	教科書名	番号 略称	記号番号	教科書名	番号 略称	記号番号	教科書名
国 語	2 東 書	国語C-711	国語 ☆☆☆☆	前年度給与したものを使用			前々年度給与したものを使用		
数 学	17 教 出	数学C-711	数学 ☆☆☆☆	前年度給与したものを使用			前々年度給与したものを使用		
音 楽	2 東 書	音楽C-711	音楽 ☆☆☆☆	前年度給与したものを使用			前々年度給与したものを使用		

平成31年度西宮市立中学校使用教科書 (特別支援学級 [聴覚障害者用])

種 目	第 1 学 年 ~ 第 3 学 年								
	番号 略称	記号番号	教科書名	番号 略称	記号番号	教科書名	番号 略称	記号番号	教科書名
言語指導	17 教 出	国語B-711	国語 言語編	前年度給与したものを使用			前々年度給与したものを使用		

## (3) 特別支援学級用一般図書の調査報告

別表1

	発行者		図 書		教 科 等										学 年				障 害 種 別				
	発行者 コード	発行者略称	図書 コード	図 書 名	生活	国語	社会	算数	理科	音楽	図画	技術	保健	道徳	外国語	小低	小中	小高	特別	視覚	聴覚	知的	肢障
1	01-1	あかね書房	E01	けんちゃんとおそぼう1 のってのって	◎	○										◎	◎					◎	◎
2	01-1	あかね書房	001	単行本 さわってあそぼうふわふわあひる	◎											◎				◎		◎	
3	01-1	あかね書房	H02	かぼくん・くらしのえほん2 かぼくんのおかいもの	◎	○	◎							◎		◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎
4	01-1	あかね書房	004	からたのえほん4 からたにもしもし	◎									◎		◎				◎	◎	◎	◎
5	02-1	岩崎書店	F08	絵本図鑑シリーズ8 やさいのずかん	◎									◎			◎	◎				◎	
6	06-1	偕成社	R01	あかちゃんのおそびえほん(1) ごあいさつあそび	◎									◎		◎						◎	
7	06-1	偕成社	R04	あかちゃんのおそびえほん(4) ひとりでうんちできるかな	◎											◎						◎	
8	06-1	偕成社	R06	あかちゃんのおそびえほん(6) いいおへんじできるかな	◎									◎		◎						◎	
9	06-1	偕成社	T01	エリック・カールの絵本 はらぺこあおむし	◎	◎		◎	○							◎	◎	◎		◎		◎	◎
10	06-1	偕成社	T07	エリック・カールの絵本 できるかな? -あたまからつまさきまで-	◎	○										◎	○					◎	○
11	06-1	偕成社	Y01	ともだちだいすき(2) おべんとうなあに?	◎	◎								○		◎	◎			◎		◎	○
12	06-1	偕成社	Z01	子どものマナー図鑑(1) ふだんの生活のマナー	◎		◎							◎			◎	◎	◎		◎	◎	
13	06-2	学研	J04	ふしぎ・びっくり!? こども図鑑8 きせつ	◎		◎		◎					◎		◎	◎	◎	◎			◎	◎
14	06-2	学研	N01	ほんのおおきさ動物園	◎	◎										◎	◎			◎	◎		
15	08-1	くもん出版	B01	生活図鑑カード たべものカード	◎	◎										◎	◎			◎		◎	
16	08-1	くもん出版	B02	生活図鑑カード くだものやさいカード1集	◎	◎										◎	◎			◎		◎	
17	08-2	グランママ	001	ぼくとわたしのせいかつえほん	◎	○										◎	◎	◎			◎	◎	
18	10-5	水産書店	E01	りかのこまごころんせい	◎				◎		◎					◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
19	12-2	小学館	B02	21世紀幼稚園百科2 とけいとじかん	◎			◎										◎	◎			◎	
20	12-7	女子栄養大	001	新・こどもクッキング	◎												◎	◎	◎		◎	◎	
21	12-8	ジュラ	005	かいてけしてまたかける あいうえお	◎	◎										◎	◎	◎		◎	◎	○	
22	14-4	成美堂出版	006	作ってみよう! リサイクル工作68	◎											○	◎	◎	◎			◎	
23	20-1	童心社	H01	14ひきのシリーズ 14ひきのあさごはん	◎	◎		○								◎	◎	◎				◎	◎
24	20-1	童心社	H02	14ひきのシリーズ 14ひきのびくにっく	◎	◎		○								◎	◎	◎				◎	◎
25	27-1	ひかりのく	C12	こどものずかんMio12 きせつとしぜん	◎				◎							◎	◎	◎	○			◎	○
26	27-1	ひかりのく	K09	新装版KIDS2112 たべものひゃっか	◎											◎	◎	◎		◎		◎	
27	27-1	ひかりのく	D01	202シリーズ たべもの202	◎	○										◎	◎	◎		◎		◎	
28	27-3	ひさかた	A01	あかちゃんのための絵本 はみがきしゅわしゅわ	◎											◎	◎					◎	
29	28-1	福音館	K01	日本傑作絵本シリーズ おふろだいすき	◎												◎	◎				◎	
30	28-1	福音館	B09	幼児絵本シリーズ やさいのおなか	◎											◎	◎					◎	
31	28-1	福音館	E16	かがくのとも絵本 みんなうんち	◎											◎	◎						◎
32	28-1	福音館	H56	こどものとも絵本 はじめてのおつかい	◎	◎											◎	◎	◎			◎	
33	28-1	福音館	K04	ぐりとぐらの絵本 ぐりとぐらの1ねんかん	◎	◎										◎	◎					◎	
34	28-1	福音館	B08	幼児絵本シリーズ やさい	◎	○			◎							◎	◎	◎		◎		◎	◎
35	28-1	福音館	B06	幼児絵本シリーズ くだもの	◎	○			◎							◎	◎			◎		◎	
36	28-1	福音館	L01	みちかなかがくシリーズ 町の水族館・町の植物園	◎		◎										◎	◎	◎		◎	◎	
37	28-1	福音館	002	かがくのとも絵本 たべものしゅわしゅわ	◎				◎								◎	◎	◎		◎	◎	◎



	発行者			図 書 名	教 科 等										学 年				障 害 種 別				
	発行者コード	発行者略称	図書コード		生活	国語	社会	算数	理科	音楽	図・英	技・実	体・保	道徳	外国語	小低	小中	小高	中学	視覚	聴覚	知的	肢府
38	28-1	福音館	G09	福音館の科学シリーズ あそびのレシピ	◎				◎				◎		◎	◎	◎	◎			◎	◎	
39	28-1	福音館	G14	かがりごえの本 しんぶんてんぐ	◎					◎					◎	◎			◎		◎	◎	
40	28-1	福音館	G09	福音館の科学シリーズ あそびのレシピ	◎					◎					◎	◎	◎				◎		
41	28-7	福村出版	A05	シリーズ生活を学ぶ5 遠くへ行きたいな	◎		◎								◎	◎	◎		◎	◎	◎		
42	28-8	フレーベル	D04	ふしぎをためすかがり図鑑 しぜんあそび	◎				◎						◎	◎	◎			◎	◎		
43	29-1	平凡社	B02	新版はじめましてにほんちず	◎		◎									◎	◎				◎	◎	
44	30-2	ポプラ	P04	音のでる知育絵本4 こえでおぼえるあいうえおのほん	◎	◎									◎	◎					◎	◎	
45	30-2	ポプラ	P07	音のでる知育絵本7 こえでおぼえる123か ずのほん	◎			◎							◎	◎					◎	◎	
46	30-2	ポプラ	P16	音のでる知育絵本16 とけいがよめるよ うになる！！とけいくん	◎			◎							◎	◎					◎	◎	
47	30-2	ポプラ	C08	ペーパーランド8 おりがみえあそび	◎					◎					◎	◎	◎				◎		
48	01-1	あかね書房	A02	もしのえほん かがりごえのえほん		◎									◎	◎	◎				◎		
49	02-1	岩崎書店	E01	五味太郎のことはとかずの絵本 漢字の 絵本		◎										◎	◎				◎	◎	
50	06-1	偕成社	P02	赤ちゃん版ノンタン(2) ノンタンもぐもぐ もぐ	◎	◎									◎	◎					◎	◎	
51	06-1	偕成社	T04	エリック・カールの絵本 くまさんくまさん なみにてるの？		◎					◎				◎	◎					◎	◎	
52	06-1	偕成社	H01	日本むかし話 おむすびころりん		◎										◎	◎				◎		
53	06-1	偕成社	O05	五味太郎・言葉図鑑(5) つなぎのことは		◎									◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
54	06-1	偕成社	O06	五味太郎・言葉図鑑(6) ぐらしのことは		◎											◎		◎		◎		
55	06-1	偕成社	O10	五味太郎・言葉図鑑(10) なまえのことは		◎									◎	◎	◎		◎		◎		
56	08-1	くもん出版	C01	書きかたカード「ひらがな」		◎									◎	◎	◎	◎			◎	◎	
57	08-1	くもん出版	D01	ひらがなカード		◎										◎	◎	◎	◎				
58	08-1	くもん出版	A03	もじ・ことば3 やさしいひらがな1集		◎									◎	◎	◎				◎		
59	08-1	くもん出版	A01	もじ・ことば1 はじめてのひらがな1集		◎									◎						◎	◎	
60	08-2	グランまま	006	ことばえほん	◎	◎									◎	◎	◎	◎			◎	◎	
61	10-4	こぐま社	B05	こぐまちゃんえほん第3集 しろうまちゃん のほっとけーき	◎	◎									◎	◎	◎		◎		◎	◎	
62	10-4	こぐま社	D01	ことばあそびの絵本 ぶたたぬきつね ねこ		◎									◎	◎					◎	◎	
63	10-5	小峰書店	C01	くまたんのはじめてシリーズ よめるよめる よあいうえお		◎									◎	◎					◎		
64	16-4	太郎次郎社	C03	子どもがしあげる手づくり絵本 あいうえお あそび上ひらがな50音		◎											◎	◎			◎		
65	20-4	戸田デザイ	003	あいうえおえほん		◎									◎	◎	◎				◎	◎	
66	20-4	戸田デザイ	007	よみかた絵本		◎										◎	◎	◎			◎	◎	
67	20-5	同成社	A01	ゆつくり学ぶ子のための「こくご」1(改訂版) (ひらがなのことは・文・文章の読み)		◎										◎	◎	◎	◎	◎	◎		
68	20-5	同成社	A02	ゆつくり学ぶ子のための「こくご」2(改訂版) (かたかな・かん字の読み書き)		◎										◎	◎	◎	◎	◎	◎		
69	20-5	同成社	A03	ゆつくり学ぶ子のための「こくご」3(改訂版) (文章を読む、作文・詩を書く)		◎											◎	◎	◎	◎	◎	◎	
70	20-5	同成社	B01	ゆつくり学ぶ子のための「こくご」入門編1(改訂 版)(表象形成・音韻形成・発声・発音)		◎									◎	◎	◎				◎	◎	
71	20-5	同成社	B02	ゆつくり学ぶ子のための「こくご」入門編2 (改訂版)(ひらがなの読み書き)		◎									◎	◎	◎				◎	◎	
72	20-7	東洋館	002	ぐらしに役立つ国語		◎											◎				◎	◎	
73	27-2	評論社	B01	しかけ絵本の本棚 コロちゃんはどこ？	◎	◎									◎						◎	◎	
74	27-3	ひさかた	C04	スキンシップ絵本 かたかなアイウエオ		◎									◎	◎					◎		
75	28-1	福音館	H26	こどものとも絵本 おおきなかぶ		◎							◎			◎	◎				◎	◎	

	発行者		図書		教科等										学年				障害種別					
	発行者コード	発行者略称	図書コード	図書名	生活	国語	社会	算数	理科	音楽	図画	技術	体育	道徳	外国語	小低	小中	小高	特小	視覚	聴覚	知的	肢障	
76	30-2	ポプラ	J01	クーとマーのおぼえるえほん1 ぼくのいろいろなあに	◎											◎	◎						◎	
77	40-3	リーブル	001	あっちゃんあがつくたべものあいうえお	◎											◎	◎	◎	◎		○	◎	◎	
78	06-1	偕成社	S01	安全のしつけ絵本(1) きをつけようね	○		◎									◎	◎	◎	◎	○			◎	
79	06-1	偕成社	Z03	子どものマナー図鑑(3) でかけるときのマナー			◎							◎		◎	◎	◎			◎	◎		
80	10-5	小峰書店	E19	のりものえほん(しゃしん・ずかん) あたらしい関西のでんしゃずかん			◎											◎				◎	◎	
81	12-2	小学館	C01	ドラえもんちずかん1 につぼんちず			◎									◎	◎	◎				◎	◎	
82	12-2	小学館	C02	ドラえもんちずかん2 せかいちず			◎										◎	◎				◎	◎	
83	20-4	戸田デザイ	005	につぼんちず絵本			◎									◎	◎	◎	◎			◎	◎	
84	20-4	戸田デザイ	006	せかいちず絵本			◎										◎	◎	◎					
85	20-7	東洋館	001	くらしに役立つ社会			◎											◎		◎	◎	◎		
86	27-2	評論社	C01	ピーター・スピアーの絵本1 せかいのひとびと			◎											◎	○			◎		
87	27-2	評論社	A01	スカーリーおじさんの はたらく人たち			◎							◎		◎	◎			◎				
88	28-1	福音館	G05	福音館の科学シリーズ ぼくらの地図旅行			◎										◎	◎			◎			
89	28-1	福音館	M06	みちかなかがくシリーズ 町たんけん			◎							◎		◎	◎	◎			◎			
90	01-1	あかね書房	B02	あかねえほんシリーズ かたちのえほんまる・さんかく・しかくさん				◎								◎	◎	◎			◎	◎	◎	
91	01-1	あかね書房	I02	あかね書房の学習えほん おかあさんだいすき1・2・3				◎								◎	◎	◎			◎	◎	◎	
92	02-1	岩崎書店	D01	五味太郎のえほん かずの絵本 かずの絵本		◎		◎								◎	◎	◎	◎			◎	◎	
93	04-1	絵本館	D02	五味太郎の絵本 かずのえほん1・2・3				◎									◎	◎			◎	◎	◎	
94	08-1	くもん出版	D02	とけいカード				◎								◎	◎	◎	◎			◎	◎	
95	10-1	講談社	H05	ブルーナのアイデアブック ミッフィーの1から10まで				◎								◎						◎	○	
96	10-4	こぐま社	E01	こぐまちゃんえほん別冊 さよならさんかく	○		◎									◎	◎	◎				◎		
97	10-5	小峰書店	C02	くまたんのはじめてシリーズ おいしいおいしい1・2・3				◎								◎	◎					◎		
98	12-2	小学館	B06	21世紀幼稚園百科6 かずあそび1・2・3				◎								◎	◎	◎				◎		
99	12-8	ジュラ	001	プーダンいまなんじ?	○		◎									◎	◎			◎		◎		
100	20-4	戸田デザイ	002	1から100までのえほん				◎										◎				◎		
101	20-4	戸田デザイ	009	とけいのえほん				◎								◎	◎	◎				◎	◎	
102	20-5	同成社	C01	ゆっくり学ぶ子のための「さんすう」1 (量概念の基礎、比較、なかま集め)				◎									◎	◎	◎	◎			◎	
103	20-5	同成社	C02	ゆっくり学ぶ子のための「さんすう」2 (1対1対応、1~5の数、5までのたし算)				◎									◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎
104	20-5	同成社	C03	ゆっくり学ぶ子のための「さんすう」3 (6~9のたし算、ひき算、位取り)				◎									◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎
105	20-5	同成社	C04	ゆっくり学ぶ子のための「さんすう」4 (くり上がり、くり下がり、2けたの数の計算)				◎									◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎
106	20-5	同成社	C05	ゆっくり学ぶ子のための「さんすう」5 (3けたの数の計算、かけ算、わり算)				◎										◎	◎	◎	◎		◎	◎
107	20-7	東洋館	003	くらしに役立つ数学				◎										◎		◎		◎	◎	
108	27-3	ひさかた	B02	ミーミとクークのえほん ミーミとクークの1・2・3				◎								◎	◎					◎	◎	
109	27-3	ひさかた	C05	スキンシップ絵本 かずのえほん				◎								◎	◎	◎	◎			◎	◎	
110	28-1	福音館	I02	安野光雅の絵本 はじめてであうすうがくの絵本2				◎										◎				◎		
111	28-4	文化出版局	E07	どうぶつあれあれえほん第4集 かくしたのだあれ				◎								◎	◎	◎				◎		
112	30-2	ポプラ	N02	絵本・いつでもいっしょ2 どうぶつなんびき?				◎								◎	◎					◎		
113	32-1	民衆社	A02	さんすうだいすきあそぶ・つくる・しらべる2年				◎										◎				◎		

	発行者		図 書		教 科 等										学 年				障 害 種 別				
	発行者 コード	発行者略称	図書 コード	図 書 名	生活	国語	社会	音楽	理科	音楽	図・美	技・家	体・健	道徳	外国語	小低	小中	小高	中特	視覚	聴覚	知的	肢府
114	02-1	岩崎書店	C04	かいかたそだてかたずかん4 やさいのうえ かたそだてかた				◎			◎							◎		◎	◎		
115	02-1	岩崎書店	F12	絵本図鑑シリーズ12 のはらのずかん一野 の花と虫たち				◎						◎				◎		◎	◎		
116	06-2	学研	J09	ふしぎ・びっくり!? こども図鑑9 ちきゅう				◎										◎			◎		
117	10-1	講談社	001	米村でんじろうのDVDでわかるおもしろ実 験!!				◎		○	○							◎	◎	◎			
118	20-4	戸田アライ	010	昆虫とあそび				◎						◎				◎	◎	◎	◎	◎	◎
119	27-1	ひかりのく	I01	改訂新版体験を広げるこどものずかん1 ど うぶつえん				◎						◎				◎	◎	◎		◎	◎
120	28-1	福音館	G01	福音館の科学シリーズ 昆虫ちいさななか またち				◎										◎	◎	◎		◎	◎
121	28-1	福音館	G03	福音館の科学シリーズ 地球その中をさぐ ろう				◎										◎			◎		
122	28-8	フレーベル	D02	ふしぎをためすかがく図鑑 しよぶつのだ いばい				◎										◎					◎
123	28-8	フレーベル	D03	ふしぎをためすかがく図鑑 かがくあそび				◎										◎				◎	◎
124	06-1	偕成社	004	10+1人の絵本作家オリジナルソング集 う たのパレット				◎										◎	◎	◎			
125	08-1	くもん出版	C03	CD付き 楽楽カード				◎										◎	◎	◎	◎	◎	◎
126	21-1	永岡書店	009	お手本のうた付き! どうようたのえほん2				◎										◎	◎			◎	
127	27-1	ひかりのく	F01	改訂新版どうようえほん1				◎										◎	◎	◎		◎	◎
128	27-1	ひかりのく	F02	改訂新版どうようえほん2				◎										◎	◎	◎		◎	◎
129	27-1	ひかりのく	F03	改訂新版どうようえほん3				◎										◎	◎	◎		◎	◎
130	27-1	ひかりのく	001	たのしいあそびえほん				◎										◎	◎	◎		◎	◎
131	27-1	ひかりのく	002	どうしようあそびえほん どうしようNEW絵が きょうりゅう				◎										◎	◎			◎	◎
132	27-1	ひかりのく	013	あそびうたのほんCDつき				◎										◎	◎	◎		◎	◎
133	30-2	ポプラ	M01	うたってかいてけせるえほん1 音のでるえ かきうた				◎										◎	◎			◎	
134	30-2	ポプラ	O07	おとどあそぼうシリーズ7 ドン!ドコ!ド ン!たいこ				◎										◎	◎	◎		◎	◎
135	02-1	岩崎書店	A07	あそびの絵本 クレヨンあそび						◎								◎	◎	◎		◎	
136	02-1	岩崎書店	A17	あそびの絵本 えのぐあそび						◎								◎	◎	◎		◎	◎
137	06-1	偕成社	T03	エリック・カールの絵本(ぬりえ絵本) わた しだけのほらぺこあおむし						◎								◎	◎	◎		◎	◎
138	06-1	偕成社	003	かこさとし うつくしい絵						◎								◎	◎	◎			
139	10-3	国土社	B14	たのしい図画工作14 こすりだし・すりだし						◎								◎					◎
140	12-2	小学館	N02	あーとぶつく ひらめき美術館第2館						◎								◎	◎			◎	
141	12-8	ジュラ	002	びんきいろつぷちゃんのらくがきえほん あそぼ!	○					◎								◎	◎			◎	
142	17-1	チャイルド	001	ぬったりかいたりらくがきBOOK						◎								◎	◎			◎	◎
143	27-1	ひかりのく	I08	改訂新版体験を広げるこどものずかん8 あ そびのずかん				○		◎								◎	◎	○		◎	
144	30-2	ポプラ	A02	あそびのひろば2 やさしいてづくりのプレ ゼント						◎								◎	◎	◎		◎	◎
145	30-2	ポプラ	A04	あそびのひろば4 はりえあそび						◎								◎	◎	◎		◎	
146	30-2	ポプラ	A08	あそびのひろば8 らくがきあそび						◎								◎	◎			◎	◎
147	07-2	金の星社	F01	ひとりのできるもん! 1 たのしいたご料理							◎							◎	◎			◎	◎
148	07-2	金の星社	F04	ひとりのできるもん! 4 うれしいごはん、パン、めん料理							◎							◎	◎	◎	◎	◎	◎
149	07-2	金の星社	F05	ひとりのできるもん! 5 すてきなおかし作り							◎							◎	◎			◎	◎
150	06-1	偕成社	Q06	子どもの生活(6) じょうぶなからだになれるよ!								◎	◎					◎	◎	◎			
151	07-2	金の星社	E01	やさしいからだのえほん1 からだのなかは どうなっているの?				○				◎						◎	◎			◎	

	発行者		図 書		教 科 等										学 年				障 害 種 別				
	発行者 コード	発行者略称	図書 コード	図 書 名	生活	国語	社会	算・数	理科	音楽	図・美	技・家	体・保	道徳	外国語	小低	小中	小高	特別	視覚	聴覚	知的	肢府
152	12-2	小学館	B11	21世紀幼稚園百科11 からだのふしぎ									◎	◎				◎	◎	◎			◎
153	27-1	ひかりのく	I09	改訂新版体験を広げることものずかん9 からだとけんこう					○				◎						◎	◎	◎		
154	27-2	評論社	B25	しかけ絵本の本棚 からだのなかとそと					○				◎	◎				◎	◎	◎	◎	◎	
155	28-1	福音館	E13	かがくのとも絵本 きゆうきゆうばこ新版									◎					◎	◎	◎	◎	◎	
156	01-1	あかね書房	I07	あかね書房の学習えほん えいごえほんぞ うさんがっこうに行く										◎					◎	◎	◎	◎	
157	01-1	あかね書房	I03	あかね書房の学習えほん ことばのえほん ABC										◎					◎	◎	◎	◎	
158	02-1	岩崎書店	E02	五味太郎のことばとかずの絵本 絵本ABC										◎					◎	◎	◎	◎	◎
159	11-4	三省堂	C01	親子でうたう英語うたの絵じてん										◎					◎		◎		
160	14-4	成美堂出版	005	CDつき楽しく歌える英語のうた										◎					◎		◎		◎
161	14-4	成美堂出版	007	CDつき小学生の英語レッスン 絵でみて 学ぼう英会話										◎				◎	◎		◎	◎	◎
162	20-4	戸田デザイン	001	和英えほん										◎					◎	◎		◎	
163	20-4	戸田デザイン	004	ABCえほん										◎					◎		◎	◎	◎

	発行者		図書		教科等										学年				障害種別				
	発行者コード	発行者略称	図書コード	図書名	生活	国語	社会	算数	理科	音楽	図画	家庭	体育	道徳	外国語	小低	小中	小高	中高一	視覚	聴覚	知的	肢障
164		アポロ社		ミッフィーのやわらかえほん たのしくおけいこ	◎											◎						◎	○
165	06-2	学研	606	ミッフィーのやわらかえほん	◎											◎	◎				◎	◎	◎
166	28-8	フレーベル	665	アンパンマンマグネットえほん5 いろいろおてんき!	◎											◎						◎	
167	06-2	学研	606	ミッフィーのやわらかえほん	◎	◎										◎	◎				◎	◎	◎
168	28-3	ブロンズ新	537	だるまさんが	◎	◎										◎	◎				○	◎	
169	28-3	ブロンズ新	538	だるまさんの	◎	◎										◎	◎					○	◎
170	28-3	ブロンズ新	530	だるまさんと	◎	◎										◎	◎					○	◎
171	08-1	くもん出版		くもんのかず絵じてん	◎			◎								◎	◎	◎	◎		◎	◎	
172	10-1	講談社	511	創作絵本 かぞえてみよう	◎			◎								◎	◎	◎	◎			◎	
173	40-3	リーブル	503	しりとりしましょ! たべものあいうえお		◎										◎	◎	◎	◎			○	◎
174	06-2	学研	624	こどもずかん 0さい~4さいこどもずかん英語つき		◎										◎						◎	
175	06-2	学研	625	こどもずかん 0さい~4さいこどもずかんもつと英語つき		◎										◎						◎	
176	06-2	学研	626	こどもずかん 0さい~4さいこどもずかんまち英語つき		◎										◎						◎	
177	08-1	くもん出版	525	ゆびなぞりカードひらがな		◎										◎	◎					◎	◎
178	08-1	くもん出版	526	反対ことばカード		◎										◎	◎					◎	
179	08-1	くもん出版	640	あきびんごの創造性を育てる〇つけドリル たべもの博士		◎										◎	◎					◎	
180	78-9	文英堂	546	シグマベスト きくきくドリルSTEP1		◎										◎						◎	○
181	78-9	文英堂	547	シグマベスト きくきくドリルSTEP2		◎										◎	◎					◎	○
182	06-1	偕成社		だんまりこおろぎ		◎					◎		◎			◎	◎					◎	◎
183	06-1	偕成社		さびしがりのほたる		◎					◎		◎			◎	◎					◎	◎
184	27-3	ひさかた	509	スキンシップ絵本 につぼんのちずえほん		◎										◎	◎	◎				◎	
185	10-1	講談社	625	決定版心をそだてるはじめての日本の歴史名場面101		◎													◎			◎	
186	27-4	PHP		ものしり地図絵本世界		◎											◎	◎				◎	◎
187	27-3	ひさかた	507	せかいのこつきえほん		◎								◎					◎			◎	
188	16-3	大日本絵画	574	あなあきしかけえほん ちいさなおたまじゃくし				◎								◎						◎	◎
189	14-4	成美堂出版		中学生理科の自由研究 すぐに使える実験観察ガイド					◎											◎		◎	
190	30-2	ポプラ		音のでるたのしいおけいこえほん3 うたおう! おうた						◎						◎	◎					◎	
191	30-2	ポプラ		たのしいはりえ							◎					◎	◎	◎				◎	◎
192	28-6	文研出版	509	まかせて! おてつだい1 わくわくしよくじ								◎					◎	◎				◎	
193	28-6	文研出版	508	まかせて! おてつだい2 わくわくそうじかたづけ								◎					◎	◎				◎	
194	65-7	草思社	515	みんなのためのルールブック あたりまえだけど、とても大切なこと								◎	◎	◎			◎	◎				◎	◎
195	11-4	三省堂	543	キッズクラウンスタンダードコース											◎							◎	

(参考資料) 令和2年度使用西宮版一覧から外した図書

発行コード	発行者略称	図書コード	図書名	教科等											学年				障害種別				外した理由					
				生活	国語	社会	算・数	理科	音楽	図・美	技・家	体・保	道徳	外国語	小低	小中	小高	中学校	視覚	聴覚	知的	肢病						
28-1	福音館	I01	安野光雅の絵本 はじめてであうすうがくの絵本1				◎																◎					「なかまはずれ」という言葉が赤字で、多数使用されており、人権的な立場から削除した。

令和2年度使用西宮版一覧に加えた図書

発行コード	発行者略称	図書コード	図書名	教科等											学年				障害種別				加えた理由				
				生活	国語	社会	算・数	理科	音楽	図・美	技・家	体・保	道徳	外国語	小低	小中	小高	中学校	視覚	聴覚	知的	肢病					
165	学研	606	ほんとおおきさ水族館	◎																		◎	◎	◎	◎		20種類の動物が実物大の写真で紹介されており、子どもの興味を引きやすい。また、それぞれの動物の特徴がイラストなどで紹介されており、楽しみながら学習できる。さらに、写真を見る視点がページの中に示されており、より詳しく写真を見ることができ、実物大の良さを生かすことができる。
167	学研	605	もっと！ほんとおおきさ動物園	◎	◎																	◎	◎	◎	◎		20種類の動物が実物大の写真で紹介されており、子どもの興味を引きやすい。また、それぞれの動物の特徴がイラストなどで紹介されており、楽しみながら学習できる。さらに、写真を見る視点がページの中に示されており、より詳しく写真を見ることができ、実物大の良さを生かすことができる。

令和2年度使用西宮版一覧で「教科等」「学年」「障害種別」を変更した図書

発行コード	発行者略称	図書コード	図書名	教科等											学年				障害種別				変更点とその理由				
				生活	国語	社会	算・数	理科	音楽	図・美	技・家	体・保	道徳	外国語	小低	小中	小高	中学校	視覚	聴覚	知的	肢病					
4	あかね書房	G04	からだのえほん4 からだにももし	◎																	◎		◎	◎			ひらがなが大きく、分かりやすい図やイラストで解説しており、視覚による言語発達を促すために効果的である。
18	小峰書店	B01	りかのこうさく1ねんせい	◎				◎		◎												◎	◎	◎	◎		自然の素材を使って工作するアイデアが豊富に示されている。また、イラストや写真で作り方が示されており、小学校低学年から使え、どの障害種別にも適している。
37	福音館	E02	かがくのとも絵本 たべられるしょくぶつ	◎				◎														◎	◎	◎	◎		植物栽培を通してイラストで分かりやすく示されており、自然に親しみ成長に気づくことができる。どの障害種別の学習にも効果的である。
38	福音館	G04	福音館の科学シリーズ 道ばたの四季	◎				◎														◎	◎	◎	◎		身近な植物と生き物についてイラストで示され、名称も記述されており、興味を引きやすい。小学校低学年から高学年にも適している。また、身近な自然に親しみ、大切にすることを養うことができる道徳科にも効果的である。
39	福音館	E14	かがくのとも絵本 しんぶんしでつろう	◎						◎												◎	◎	◎	◎		新聞紙を使った遊びや工作を体験できる内容となっており、視覚障害学級や病弱・肢体不自由学級においても学習効果が期待できる。
48	あかね書房	A02	もじのえほん かたかなアイウエオ		◎																	◎	◎	◎	◎		初めてカタカナを学習する小学校低学年・中学年にも分かりやすい内容・文字数で構成されている。
92	岩崎書店	E04	五味太郎のこぼとかずの絵本 かずの絵本		◎			◎														◎	◎	◎	◎		イラストや文字が見やすい構成となっており、小学校低学年から高学年、知的障害学級においても適している。また、物の数え方が場面ごとにまとめられており、国語科の数詞の学習にも効果的である。
93	絵本館	D02	五味太郎の絵本 かずのえほん1・2・3					◎														◎	◎	◎	◎		数の概念・数の構成について、イラストや文字が大きくて見やすく学習できる内容となっており、どの障害種別の学習にも効果的である。
118	戸田デザイン	010	昆虫とあそぼう					◎														◎	◎	◎	◎		詳しい説明やイラストがあり、昆虫の学習について適している。どの障害種別の学習にも効果的である。
125	くもん出版	G03	CD付き 楽器カード							◎												◎	◎	◎	◎		楽器の写真カードの裏に詳しい説明が示されている。また、付属のCDを使い、音源を活用して学習もでき、どの障害種別の学習にも効果的である。
130	ひかりのく	001	たのしいあそびうたえほん							◎												◎	◎	◎	◎		手遊び歌の方法がイラストで図示されており、分かりやすい内容であり、視覚障害学級にも適している。楽曲は、小学校低学年に適している。
131	ひかりのく	002	どうようでおえかきできる どうようNEW絵かきうたブック							◎												◎	◎	◎	◎		音楽の身体表現としての絵描き歌が分かりやすく図示されており、知的障害学級、肢体不自由学級、病弱学級にも効果的である。

発行者コード・略称及び正式名称

発行者コード	発行者略称	発行者名
01-1	あかね書房	株式会社 あかね書房
02-1	岩崎書店	株式会社 岩崎書店
04-1	絵本館	株式会社 絵本館
05-1	大阪教育図書	大阪教育図書 株式会社
06-1	借成社	株式会社 借成社
06-2	学研	株式会社 学研プラス
06-4	開隆堂出版	開隆堂出版 株式会社
07-2	金の星社	株式会社 金の星社
07-4	教芸	株式会社 教育芸術社
08-1	くもん出版	株式会社 くもん出版
08-2	グランママ	株式会社 グランママ社
10-1	講談社	株式会社 講談社
10-2	好学社	株式会社 好学社
10-3	国土社	株式会社 国土社
10-4	こぐま社	株式会社 こぐま社
10-5	小峰書店	株式会社 小峰書店
10-8	合同出版	合同出版 株式会社
10-9	こばと	有限会社 KOBATO
11-1	さえら	株式会社 さえら書房
11-4	三省堂	株式会社 三省堂
12-2	小学館	株式会社 小学館
12-7	女子栄養大	女子栄養大学出版部
12-8	ジュラ	株式会社 ジュラ出版局
12-10	視覚デザイ	株式会社 視覚デザイン研究所
13-2	鈴木出版	鈴木出版 株式会社
14-3	育成会	全国手をつなぐ育成会連合会
14-4	成美堂出版	成美堂出版 株式会社
14-5	世界文化社	株式会社 世界文化社
15-3	草思社	株式会社 草思社
16-3	大日本絵画	株式会社 大日本絵画

発行者コード	発行者略称	発行者名
16-4	太郎次郎社	株式会社 太郎次郎社エディダス
17-1	チャイルド	株式会社 チャイルド本社
20-1	童心社	株式会社 童心社
20-2	ドレミ楽譜	株式会社 ドレミ楽譜出版社
20-3	東京書店	東京書店 株式会社
20-4	戸田デザイ	有限会社 戸田デザイン研究室
20-5	同成社	株式会社 同成社
20-7	東洋館	株式会社 東洋館出版社
21-1	永岡書店	株式会社 永岡書店
21-2	ナツメ社	株式会社 ナツメ社
22-3	日本教育研	株式会社 日本教育研究出版
25-1	のら書店	有限会社 のら書店
27-1	ひかりのく	ひかりのくに 株式会社
27-2	評論社	株式会社 評論社
27-3	ひさかた	株式会社 ひさかたチャイルド
27-4	PHP	株式会社 PHP研究所
28-1	福音館	株式会社 福音館書店
28-2	婦人之友	株式会社 婦人之友社
28-3	ブロンズ新	株式会社 ブロンズ新社
28-4	文化出版局	学校法人 文化学園文化出版局
28-6	文研出版	文研出版
28-7	福村出版	福村出版 株式会社
28-8	フレーベル	株式会社 フレーベル館
29-1	平凡社	株式会社 平凡社
30-2	ポプラ	株式会社 ポプラ社
32-1	民衆社	株式会社 民衆社
33-1	むぎ書房	有限会社 むぎ書房
36-1	山と溪谷社	株式会社 山と溪谷社
40-1	理論社	株式会社 理論社
40-3	リーブル	株式会社 リーブル
55-2	旺文社	株式会社 旺文社

義務教育諸学校教科用図書選定委員会委員

磯	部	美	良	武庫川女子大学教育学部 准教授
根	岸	直	代	西宮市P T A協議会 会長
松	本	祐	子	西宮市P T A協議会 副会長
谷	口	晋	哉	西宮市立高木小学校 校長
河	合	純	孝	西宮市立南甲子園小学校 校長
高	木	順	子	西宮市立香櫨園小学校 主幹教諭
井	上	隆	治	西宮市立鳴尾東小学校 主幹教諭
木	戸	み	どり	西宮市教育委員会学校教育課 課長
中	津	洋	平	西宮市教育委員会学校教育課 係長

以上 9 名



## 「令和元年度教科書展示会」における意見より

## 【展示会について】

- ・新しい教科書が気になっていたの、見られて大変勉強になりました。
- ・普段見ることのできない小学校の教科書を見られて参考になりました。できれば西宮市の採用教科書がかたまっているとありがたいです。また、本校入学生が学んできた近隣市の情報もあるとうれしいです。
- ・毎年来ています。もう一度こんなきれいな本で勉強したい。
- ・大変興味深く拝見しました。英語教材の分析を研究対象としています関係でお邪魔しました。
- ・大変参考になりました。特に英語教育における言語相対主義、文化相対主義の観点から教材を考えていますので、大変興味深く拝見しました。
- ・来年使用する教科書を一同に見ることができて、貴重な経験となりました。ありがとうございました。
- ・20年前に使ったであろう教科書があって、なつかしかった。
- ・来年の教科書が見られてよかった。何をするかわかってよかった。
- ・障害があって見えにくいし歩行も困難だが、小学校1年生の国語の教科書をゆっくり読むのは楽しい。書店で購入して読みたいと思っている。
- ・来年からのものを見られたのがうれしかった。他の教科のものも見られたり、他の校種や出版社のちがうものを見られたのがよかった。
- ・図書館に在庫して欲しい（常備）。
- ・毎年ありがとうございます。西宮市採択以外の出版社分も展示して下さり助かります。
- ・初めて教科書展示を見にきました。来年度より教科書が変わるので、紹介されている（国語）本がどのようなか確認させてください。
- ・西宮が採用していない教科書を見て、比較することができて勉強になりました。
- ・昔自分が使っていた教科書とどれほどちがうのか興味が湧き来会致しました。とてもなつかしい思いになったページもありますが、見たことのないページも増えていたみたいで、知ることができてよかったです。
- ・偶然にこの開催を知り、寄りました。大変興味深い展示でしたが、時間がなくゆっくり見られず残念でした。まだ期間があるのでゆっくり訪れたいです。教科書もずいぶん変わりましたね。
- ・今日初めて教科書展示会のことを知り見せていただきました。英語、国語だけですが、自分の子供の頃とはずいぶん変わっていました。またじっくり見たいと思います。このような展示は毎年行われているのでしょうか。とてもよい取り組みだと思います。
- ・久しぶりの実物に接し、今の様子も若干解りました。
- ・時間があればまたゆっくり見たいです。小学校の「ほけん」や「英語」のtextが興味深いです。
- ・子供がまだ年長なので教科書はもらっていないですが、教科書を見させて頂いて、今すぐにでも始められる事がたくさんある事が分かり、すごく参考になりました。
- ・教育関連の仕事の為、教科書の確認に来ました。西宮での採用以外も見ることができて良かったです。
- ・最新のテキストが拝見できて大変勉強になりました。
- ・いろいろな教科書にふれられてよかったです。
- ・毎年音楽の教科書を見るのを楽しみにしています。
- ・(毎年なのですが) 見たい科目がいちばん下にあるので、えつらんしにくいです。(高校数学) シャがみつばなしもしんどいし、立ったりしゃがんだりもしんどくて、ゆっくり中身を見たくてもかないません。たなの目の前にいすがあるといいのですが、置かないのは全国的なルールか何かなのでしょうんか？
- ・小～高、しかも採用外の教科書を見る機会はなかなかないので、見比べることができてとても興味深かったです。ぜひ図書館で貸し出しがあるといいのと思いました。
- ・色々な会社の教科書を見ることは、普段あまりないので良かった。
- ・昔の教科書とは大分変わっていて、子供が小学校に上がったときにびっくりした。
- ・中学生の理科、数学は、今年の物と変わらなそう参考になりました。
- ・自分が使っていない教科書も見られて楽しかったです。
- ・小6に孫がいますが、関東在住で日頃会えないので、教科書内容を少しでも知りたかった。参考になりました。

- ・遠方に小学校5年生と中一、高一の孫がおりますが、どのような内容の学習をこの学年の子供達は今学んでいるのかとずっと興味があり、気にもなっておりました。私が参加しているコーラスの先生が「つばさをください」の歌が学校で合唱されつづけ、教科書にもものっていますよと、今日教えていただき、それが何年生の教科書かはわからないけれど、小5の音楽の本を3冊手にとって、50年前の私が学んだ昭和39年頃とは、とても工夫された音楽を好きになるような内容とイラスト、写真などでとても感動いたしました。時間がなかったので、中一の国語も3冊だけ各一部分づつ読ませていただき、孫たちの学びに少し近づけたような感動と内容の充実度に本当におどろきました。ただ国語の本一冊でも大変重く、毎日重いけどがんばっているのだろうと思いました。
- ・係員の適切なコメントが参考になり、ありがたい。各教科書について使用学校名を明示できないか。
- ・学校図書館で学習に関連づけた資料の準備、読み聞かせ等を行うのですが、実際に教科書を見ることがなかったので、大変参考になりました。道徳や理科の教科書にも本が紹介されていると聞き確認できました。また、教科書の大きさ、色づかいなど、昔とずいぶん変わっていることに驚きました。使う教科書によって先生のおしえやすさみたいなことも変わるのかな？などと想像しながら見比べました。たくさんあってとても全ては見きれませんでした。座ってゆっくり見られるようなスペースがあればよいと思います。来年度の小学校の教科書がこの中からどれになるのか、また来年もできれば来たいです。
- ・北口図書館会場は、教科書に関心の強い人だけでなく、他の本を借りに来た人が気楽に教科書を手に取り、自分の子や孫が学校でどんな勉強をしているのかを改めて知るのにととても良い場所だと思います。小学校の英語テキストが、教師にも児童にも使い易くて楽しく中学校へもうまくつながるように、最適なものが採択されるよう願います。
- ・新しい教科書を見に来ました。
- ・様々な教科書を見て大変参考になりました。
- ・子供達がこれから先の分も使用する教科書がじっくり見られて良かったです。
- ・小学校の支援級教科書もあるのかと思いきや来て頂きました。残念ながら普通級の本しか置いていませんでしたが、学校見学では分からなかった普通級の勉強内容を知ることができ参考になりました。子供が来年小学校に入学した後も、次年度、次々年度と来たいと思います。一部でも良いので、見本として支援級で使用しているテキストも展示して頂けると大変有難いです。
- ・中学校の教科書や小学校の教科書がいろいろあって、おもしろかったです。
- ・現在工業高校に在学していますが、普段から使っている工業の教科書や他の学科の教科書を見られてよかった。
- ・自分が今まで使っていた教科書がたくさんあって、なつかしくなりました。
- ・図書館に来たら開催されていたので来てみました。主に中学生の教科書を見ていたのですが、どの学年間わずとてもカラフルになってますね。
- ・教材研究に役立ちました。
- ・選べる権利はないので見くらべるだけですが、北口図書館は便利なので見くらべられてよかった。
- ・所属する学校以外の学校（小学校・高等学校）の教科書の内容を知ることができ、ためになった。
- ・比較できる形で並んでいてよかった。もう少し長期間展示してほしい。
- ・自分の時代とは習う事が違っているのでは？という思いで、教科書展示会にてざっとなかみを見せて頂く事を楽しみにしております。今の教科書はカラフルで写真も多く、理解しやすくてうらやましいなと思います。合わせて購入できれば尚うれしいです。
- ・教科書を見ながら、もう一度勉強しなおしたいと思っていましたので、とても参考になりました。
- ・現場の先生方にとって、この教科書展示会は来年度に向けて良い機会になるのではないかと考えられます。市民にとっても同じで教科書会社によって異なる内容を比較しながらみることもできる素晴らしい会になったのではないかと思います。小学校の外国語のテキストがどうなるのか興味をもって見せていただいたが、非常にレベルが高く、これだけの量を週に2時間で身につけることができるのか、現場の先生の苦勞が目につかびます。
- ・研究グループ小学校社会科の研究人の一人です。見たい教科書がそろっていてとても参考になりました。
- ・とても貴重な機会で、できるだけ毎年来るようにしています。今年は特に参考になりました。
- ・道徳の教科書が気になって来ました。
- ・小学校新しい教科書を見せて頂きました。
- ・多くの出版社の教科書を一度に全て見られるのが良かったです。出版社によって、内容がけっこう違うので、中身をしっかりと吟味したいと思いました。
- ・少ししか見られませんでした。貴重な機会となりました。

- ・どんな英語の教科書があるか楽しみに見に来ました。
- ・教科書選定のために来場しました。とても参考になりました。小・中学校でどのような勉強をしているのかも分かりよかったです。
- ・幼保小連携「つながり」事業の参考にと生活科の教科書を見せて頂きました。意外と幼保の先生は生活科の内容を分かっておられないので、もっと発信させて頂きたいと思いました。
- ・小学校の道徳、英語の教科書を初めて見ました。時間があれば、もっとじっくり読みたかったです。教育の大きな変革を感じました。
- ・今日になるまで、この展示会に気づかなかったので、あまり細かくは見られませんでした。でも教科書は各社が競って作っているので大きな差はなく、細かいところにこそこちがいが出ているはずです。多くの市民が時間をかけてそれぞれがこだわりを持つ部分をしっかり吟味できる展示会になればいいと思います。
- ・前年度と比較して内容が改訂されている教科書があれば、出版社名と教科書名の一覧があれば良いと思います。

## 【教科書全般について】

- ・ほとんどの教科書が大きくて重い。カラーの楽しく充実した内容であるが、小・中学生がランドセルなどに入れて持ち運ぶには重すぎるのでは？
- ・内容がどんどん変わっていますね。今の子どもは・・・とよく言うが、どうなんでしょうね。昔は良かったとはいいませんが、時代の流れですね。
- ・久々に教科書を見せて頂きました。大きくカラフルになっていてびっくりです。子供達がわかりやすく楽しく学べる様になっている気がします。もう一度カラフルな教科書を使って勉強したくなりました。
- ・なかなか最近の教科書を見る機会がないので、とてもよい経験となりました。昔自分が手にしていた教科書よりも大きくカラフルで、いろいろなことが考えられていると思いました。子どもが使うようになったら、私もぜひ一緒に見ながら楽しみたいと思います。
- ・制度的なものも含めてとても勉強になります。自身が学生の時は何も考えずに使っていた教科書が、このような過程で選ばれているということに。今後は急速にIT化・電子化が進むと思いますが、やはり本としての教科書は残ってほしいです。
- ・見た目から私たちの時代とはずいぶん変わったなあと思いました。見やすくなっているように感じました。
- ・充実した内容の教科書が多く、採択が難しいですね。
- ・どの教科書も写真が多く、カラフルで時代を感じました。
- ・最近の教科書はカラフルですね。
- ・教科書がカラフルで、とても理解しやすくなっている。
- ・小学生は教科が増えたいへんですね。
- ・今の教科書は明るくて楽しく学べそうで、50代の私からすればうらやましい限りです。
- ・自分の時に比べてキレイな絵がかかれた教科書と思いました。小学1年生は初めての学校、教科書がカラフルはうれしいけれど、教科が多くなり持ち帰りは重たそう。
- ・教科書がカラフルでイラストや図表などとても見やすく分かりやすいと感じました。また教科書のサイズが一律ではなく、科目によって異なることも新鮮でした。高校数学の教科書がコンパクトなサイズで手に取りやすく親しみやすかったです。
- ・教科書はたくさんあって、その中から選ばれているということが大変わかりました。子どもにとって身近である地域のことを扱っていると子どもも興味が湧くと思います。あと、私の子どもが道徳の教科書にいろいろ書きこんでぐちゃぐちゃにすることもありますが、ノートのようなものがついている会社もありました。ほかの教科もそうですが、そういうのがついていると大変助かります。
- ・授業で丁度教材について考えるものが扱われていたので、教科書の前後のページ等のつながり方についても見られて助かりました。
- ・特別支援と普通級教科書、少しばかり特別級の方が文字大きくて、子供達が理解して勉強してくれるくふうを感じました。特別支援の算数の教科書の文字が少なく、イラスト絵のみびっくりしました。今後の子供の色々考えて検討したい思います。
- ・小学校、中学校の教科書で、図が多くなっていて私らが学んだ頃よりよく分るようになっていたと思いました。
- ・昔とはだいぶ変わっていますね。
- ・教科書の出版社よっての比較ができた。
- ・試験や入試のための勉強も大事だが、近代史、実際に必要な家庭科の勉強をもう少し取り入れてほしい。
- ・世界の青少年が日本国のすみずみまではいカイしている。当の日本の青少年はどの程度世界を知っているか、言語だけでなく、日本の文化全般と比較して、アイデンティティを保持する教育はいかに？
- ・学校関係者ではありますが、好奇心で今、学校でどのような教科書が使用されているのか関心があり拝見しました。我々の頃に比べてカラー印刷が多く、生徒・児童の関心をおこさせる工夫がされているように思いました。国語や日本史を中心とした歴史関連に興味があり、教科書を開いてみました。大学も日本史で受験しましたが、高校はおろか、中学校の教科書でも読んで記憶が怪しかったです。
- ・教科書は分かりやすく書いている。勉強になりました。
- ・新しい教科書はカラフルで図やイラストも多く見やすい工夫がたくさんあった。非連結型テキストの扱いがふえており、今後子ども達につけたい力の道が示されていると思った。教科書の大型化は見やすい反面、重くなるので配慮がほしい。
- ・教材の配列が変わっていたりして興味深かったです。

- ・偶然立ち寄りしました。IT関連、語学を本業とし、副業で教育関連の事業をしており、最新の英語、美術、プログラムの教科書の内容が気に入り拝読させて頂きました。数十年前に比べ洗練されたものが多いという印象を全体的に感じました。特に英語、こんな教科書を私も使いたかったです。美術について印刷の美しさや作品の幅など洗練されているが、余白が詰まり過ぎでは？余裕、余白のあるレイアウトは読み手の想像力をふくらませると思います。プログラムについて、今時COBOL?!と驚きましたが、ページによっては今でも必要な基本的な事項がよくまとめられており（普遍的なことが言語化されている）現在のプログラム言語の教育の副読本として価値が高いと見直しました。テクノロジーの進歩で「難しい処理がボタン1つで」「プログラムコードをネットからコピーして実行」といった処理の内容がわからずにプログラムに触れがちな現代人に必要だと感じた。
- ・音楽の教科書を中心にを見せてもらいました。どれも自分が買いたいくらいに楽しそうな本ですね。
- ・教科書がある意図で変えられ、ゆがめられていく事を嘆きます。先生方はしっかり自分の信念を持って、子どもたちを生き生き育ててほしいです。道徳の教科化は子どもたちの心を豊かな方向に導きます。思っていることを罰することがないゆたかな社会を築きたいと思います。いい教材は先生の努力で作っていくものだと思います。子どもたちの心をしっかり見ながら傷つけない教育を築いてほしいです。
- ・どの教科書もそれぞれ工夫されている様子が垣間見られました。
- ・小の社会、外国語を中心に拝見しました。指導要領の改訂内容は勿論、常日頃から身のまわりや世界の情報をアップデートしつづける姿勢でのぞまないと、適切な指導が行えなくなると感じました。
- ・道徳科や外国語の教科書が展示されており、子供達が学ぶ内容の変化に改めて気づかされました。マンガやイラスト等が多用されているのには驚きました。
- ・出版者によって、様々な工夫がされていることがとても興味深い。わかり易い表現が見受けられ、様々な児童生徒への工夫が感じられた。

#### 【 特別の教科 道徳について 】

- ・小1のどうとくの教科書を見ました。基本的なあいさつなど子どもたちに教えていくことは大事ですが、何故そうするのかの意味を子どもたちとしっかり話し合い、形だけでなく日常生活にとり入れていくことが大事だと思います。“かぼちゃのつる”はつるを伸ばすのは本性です。それをわがままだととらえるのは不適切だと思います。先生がどう子どもたちと考えあうかが大切だと思います。
- ・道徳の教科書の教材の中には、国語で扱っている方がよいものもある。例 花のき村と盗人たち。道徳のノートは家の人や先生に見せなければいけないのでしょうか。
- ・小学校の道徳の本の中の一冊の題が「生きる力」というのが、最近いじめによる小・中学生等の自殺多い中、とても考えさせられる言葉だと深く感じました。
- ・道徳の教科書を読みました。今の小学生はこんな事を学んでいるのだというのがよく分かりました。ネットの話とかは我々が小学校の頃にはあまりない話だったので新鮮ですね。
- ・『新しい道徳』にあった「骨ずいバンク」について、「家族から反対されて断る人も多い」とあり、「ドナーになることを家族が反対するのはなぜだと考えられるか」について触れる必要があると思います。私の家族は「もしドナー登録カードを持ち歩いている人が事故にあったら、病院はこの人は自分の命は助からなくてもかまわないと考えていると判断して、処置を後回しにするかもしれない。だから家族の誰にもドナー登録してほしくない」と言っていました。家族の反対にこのような背景が考えられることを「骨ずいバンク」や「献血」等について考えるときには触れる必要があると感じます。
- ・今回は中学道徳の教科書を主に見ました。道徳が導入された流れも説明いただき、とても良かったです。本の内容についてですが、礼儀や考え方などについて触れられていてとても良かったように思います。また、大人でも出来ていないことが多いので、親世代の人にも読んでもらいたいですね。
- ・特に「道徳」に関して、この教材でどのように評価されていくのか難しいなと思いました。評価する教師が人間的にどれ程出来上がった人なのか、どれ程研修されているのか、教師自身が問われていくことに、とても気の毒に思います。ハンセン病問題について、中学3年公民に少し書かれていました。先生達もしっかり学んで、子ども達にこの問題をきちんと伝えてもらいたいと思います。

## 【小学校英語について】

- ・英語教育は聴くこと、(ゲームや遊びを通じて) 話すことが身につくことが先で、それから書くことになるのでしょうか。漢字やカタカナ、いっぱい習うことがある上に英語の時間も、子どもたちの頭はパニックになりそうですね。
- ・英語の教科書(小学校)を中心に見ました。小5、6と中1の前半との見た目の楽しさ感やワクワク感の差を感じました。東京書籍の“Picture Dictionary”はさくいんがあいうえお順では調べられるのに、アルファベット順で調べられないのが残念でした。学校図書は、絵カードでくだものなど単数と複数が両方かいてあるのはいいなと思ったのですが、bat、ballなどは複数になるものでも、単数のことしか書いていないので、絵カードだけを見た時、不思議でした。教育出版は子ども1人1人のワークシートがついてるから、先生が助かると思いました。どの教科書も内容や見た目は楽しそうなものばかりだったので、うまく中1につながっていくといいと思いました。
- ・小学校英語の教科書に興味がありました。どうなることかと思います。中学校の英語教育が改善されなければ、日本の英語教育はだめでは?と思います。小学校の間にへボン式ローマ字をしっかりと教え込むことが今は行われていません。アメリカ人から指摘されました。これも大事なのでは? 小学校の段階で英語ぎらいの子供が出ないようにと祈ります。
- ・英語の教科書(小学生向け)に興味があり拝見させていただきました。昔のテキストとは全くイメージが異なり、あざやかで楽しそうでした。案外難しいことを勉強するのだと感心いたしました。
- ・小学校でいよいよ英語の教科書が採択されるので、見せてもらいました。どの教科書も小学生を中心とした場人物がいますが、性や出身地、文化的背景が考慮されているなあと思いました。多様性を受けいられる教科書が採択されるといいと思いました。
- ・主に小学英語のクラウンを見たが、フォニックスについての記載がなくなった?のかな。
- ・中1学校図書だけが、“like”を教えることから教科書が始まっていた。小学校でもでてきたからなじんでいる単語だし、“Do you like~?”も小学校でやってきたなじんでいるから、口からも出やすいと思った。小学校から中学校へ、英語をつなぐということでは、子どもたちにははいつていきやすいかなと感じた。小学校で英語が科目となってくる。今までは中学校の英語の教科書が“スタート”という考え方で作ってきたよかっただと思うが、これからは少しずつ小学校でやってきた英語をどのように中学1年生で導入して、中2、中3と続いていく英語の勉強へとつなげていくか、教科書にそのことがあらわれてくるといいなと思いました。来年度から小学校で英語が科目となり、どのようにテストをして成績をつけていくのか、知らないで書くのですが、子ども全員が週2回、30人くらいのクラスで小学生の教科書をしっかり理解して話せていくようになるには、先生方の教材の準備、授業の進め方など、たくさんの先生の努力が必要になってくるのかなと思いました。今までの中学生は、週2回以上英語を勉強してきたのに、英語のレベルがなかなか上がらないからということで、英語が小学生におりてきたと思うのですが、それをクラスの人数も大きい変化もなく、週に2回という回数では先生にも子どもたちにも大変なところがでてくるのではないかなと思いました。準備や授業する先生方の担がこれ以上ふえないように、楽しいレクレーションや教材が来年の4月時点でたくさんあるようになるといいなと思いました。小学生英語と中学生英語がうまくつながって、英語を好きな子どもがふえていくといいなと思っています。
- ・小学校英語教育が始まるにあたって興味がありました。かなり盛りだくさんの内容で時間が必要と感じた。しかし、写真やイラストを多用しているの、ゲーム感覚で勉強も楽しめそう。
- ・小学校外国語は新しいものであることから、音声教材(デジタル教科書)で特に比較ができればと思いますが、難しいですね。

## 【 その他の教科の教科書について 】

- ・算数の教科書についているDマークから、実際にプログラミング体験のできるページがありました。どのように来年度からのプログラミング教育を進めていくのかまだ決まっていないので、1つのアイデアとして校内で紹介したいと思います。
  - ・社会と英語を見ました。社会科は学び方重視で、調べる一まとめるなどの学習法を丁寧に指示していますが、肝心の課題を持たせるところが弱いかなど感じました。資料も多くのせられてますが、一つの資料から発展といったことも大切です。また、3社とも印刷がいまいちです。ぶ厚くなったせいでしょうか。英語は社によって、つめ込みすぎのところもあり、英語ぎらいをふやすかもしれません。また共通して最初にローマ字がきており、「さあ新しい教科だ」という意欲をそぐ可能性がありますね。
  - ・中学生の教科書、小学生の国語はそこまで大きな変化はなくて助かりました。小学生の英語は出版社によって習う内容が微妙に異なり、5年生と6年生でもこの単元、後でするんだなあという驚きがありました。
  - ・歴史教科書の内容は会社によって違いがある。
  - ・新しい国語小学五年上とどうとく5年の2～3の話を読みました。知らないことやへえーこんなことも考えるのだと改めて勉強になりました。
  - ・特別支援学校の科目の少なさを初めて知りびっくりしました。
  - ・歴史教科書では学び舎の教科書がいろいろな分野から書かれていて、いままでの生きてきた人達のようによく分かりいいと思います。
- 以前との比較がしたかったが、覚えておらず？ほとんどできませんでしたが、国語は文学教材が減っているとききました。残念です。逆に後に読書案内本のリストが多くなっていることも書いています。参考にはなるものの、図書予算がそのリストやよんでごらんのリストを購入するだけでいっぱいいっぱい・・・と言われる学校関係者もいました。英(小学校)は日常会話、聴く、話すを楽しく学んでいけるような内容であってほしい。
- ①平素、この教科書はどこに置かれているのでしょうか？ ②今回のような巡回展は学校関係者以外が見られるいい機会ですので、続けてほしいです。
- ・新しく取り入れられている部分に各社の工夫が見られました。子ども達にとって学びやすいものとなっていると思います。特に英語はQRコードなどがついていて、家でも練習ができるのかなと思いました。道徳はノートがついている会社が数社あり、ノートがあるほうが教える側にはいいのかどうか考えどころだと思いました。
  - ・子ども(公立中学生)の英語の教科書がわかりにくく、他になかったのかと疑問に思っていたので、今回他と比べることができたので良かったです。(分かりづらいというのは他の保護者の方達も言っていたので)。比べた結果、他社の方が良かったです。教科書というのは読みかえた時、ちゃんと理解できたか確認したいものなのに、ただ単語が書いてあるだけでわかりにくく、復習しにくいように感じました。予習復習しやすい教材を選んでいただきたいと思います。
  - ・(音楽、美術の教科書を少し拝見したのですが・・・)既に成人した子供たちの頃より、さらにカラー頁が多く、ビジュアル化?している印象です。(重量も増しているかと・・・)内容も様々な曲、作品などが盛り込まれていて良いと思うのですが、逆に限られた授業時間では全てに触れるのは難しいだろうなあと思像します。興味を持って自分からどんどん調べていく子供にとっては、その良いきっかけとなり得る教科書だとは感じました。
  - ・英語の教科書を見て、cpuの入力のやり方などが時代によってかわっている。大人が読んでもおもしろい。
  - ・自由社の公民教科書の天皇の記述が天皇の古くからの仕事も仕事であるかのように書いており、現行憲法の定説からはみ出しているのではないかと思った。東京書籍の公民では、女性専用車輛が必要かどうかという問題をとりあげていた。一部の困った人が男性差別だと言ったりする問題であり、取りあげる積極性に感心した。
  - ・小学生のせいかつの教科書に防犯の標語「いかのおすし」が掲載されてること、ユニバーサルデザインのとり入れ、色調のユニバーサル化と時代の変化を感じました。また、高校の福祉科はとても興味深く、大人の私もこの教科を学びたいと思えるものでした。ただ、道徳や生活の内容で、家庭で教わること(公共マナー)を載せるのは色々と考えさせられました。
  - ・様々な場面で議論となる歴史教科書の内容が、特に東アジアの近代史の記載内容が出版社により、どの様な違いがあるのか確認させて頂きました。感想としましては、当然国によって1つの出来事の見方は違いがあるとは思いますが、本当の歴史史料に基づいて教科書作成が為されているのか…出版社によっては疑問を感じるものもありました。将来を背負う子供達の為、その点はきちんとした史料を基に、教科書作成が為されることを願って止みません。

- 数学・理科で実際に何に應用されているか、実例で説明されていて、昔に比べ良くなっているように感じました。日本の歴史も、時代、人、世界とのつながりが分かり易くなっている。時間がないのでざっとしか見ていませんが、全体的に昔より精練されている印象を受けました。
- 中学の歴史分野での育鵬社の説明文章は非常に片寄りがあり、正しい歴史認識は養えない。学び舎など歴史を正しく認識し、オープンな姿勢を評価したい。小学6年社会歴史での東京書籍で、目次に天皇中心の時代という見出しが合ったが、当時は天皇の存在すら庶民には認識されていなかったと聞いている。子どもに間違った認識を持たせてほしくない。教科採用には反対。
- 歴史の教科書を見たが、明治からのアジアの国々への侵略という点について、しっかり記されていない点気になる。それは今につながる中国や朝鮮半島のふたつの国との関係、人としての交流のあり方に歴史を知らない日本人がしっかり対応できていない点に示されている。いたずらに反感を増大させている原因となっている。その点、学び舎の「ともに学ぶ人間の歴史」は民衆の生活に視点を当てしっかり書かれていていい教科書です。歴史は過去のあやまちをくりかえさないために学ばなければならない。
- 生活科のことが知りたくて、中心に見学しました。カラーページが多く、子どもの興味が広がるような作りになっていて、とても使いやすそうに思いました。